

打シ因テ同人ノ頭部ニ治療約二週間ヲ要スル挫傷ヲ生セシメタルモノナリ
而シテ右ハ犯意繼續ニ係ルモノナリ

(證據理由ハ之ヲ略ス)

【要旨】

辯護人ハ青木宇吉ノ頭部ニ於ケル創傷ト同人ノ溺死トノ間ニ因果關係ナク假ニ其ノ關係アリトスルモ
第一審相被告人寺西繁太郎及西山常男ノ行爲ニ因リ中斷サレタルモノナリト辯疏スレトモ按スルニ苟
モ犯人カ他人ヲ傷害シ依テ早晚腦震蕩ニ陥ルヘキ原因ヲ與ヘタルトキハ縱令其ノ腦震蕩カ未タ死ノ直
接ノ原因トハ爲ラサリシトスルモ更ニ事後ニ於テ第三者ノ其ノ被害者ニ與ヘタル暴行ニ因ル致死ノ
結果ノ發生ヲ助成スル關係アリタル以上ハ犯人ハ當然傷害致死ノ罪責ヲ負ハサルヘカラサルモノトス
何トナレハ此ノ如キ關係アル場合ニ在リテハ犯人ノ傷害行爲ハ被害者ノ死亡ノ單獨ノ原因ニアラサリ
シト同時ニ其ノ效果ハ第三者ノ傷害行爲ノ介入ニ依リテ中斷セラレタルモノト謂フヘキニハアラスシ
テ究竟致死ナル結果ノ共同原因ノ一ニ外ナラサレハナリ而シテ本件宇吉死亡ノ結果ハ唯獨リ繁太郎外
一名カ同人ヲ江川ニ投入レタル行爲ノミニ基クモノニ非スシテ前掲證據ニ依リ判示シタルカ如ク被告
人忠次郎カ簿記用丸棒ヲ以テ宇吉ノ頭部ニ創傷ヲ加ヘタル爲同人ヲシテ重症腦震蕩症ヲ起シ反射機能
ヲ喪失セシメタルコトト偶々其ノ後ニ介入セル右繁太郎外一名ノ江川ニ投入シタル行爲ト相俟テ宇吉
ヲシテ深サ八寸内外ノ水中ヨリ全然首ヲ上クル力ナク泥水ヲ飲ミ溺死スルニ至ラシメタル案件ナリト

ス從テ敍上繁太郎外一名ノ介入行爲ハ被告人忠次郎ノ本件行爲ト宇吉ノ溺死トノ間ニ於ケル因果關係
ヲ中斷セサルモノト解スルヲ妥當トス

法律ニ照スニ被告人忠次郎カ青木宇吉ヲ死ニ致シタル點ハ刑法第二百五條第一項ニ川西安次郎ヲ傷害
シタル點ハ同法第二百四條ニ各該當スルトコロ連續犯ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ重キ傷害
致死罪ノ刑ニ從ヒ其ノ範圍内ニ於テ被告人忠次郎ヲ懲役二年ニ處スヘク同法第二十一條ニ依リ第一審
ニ於ケル未決勾留日數全部ヲ右本刑ニ算入スヘク押收ノ簿記用丸棒(證第一號)ハ本件犯罪ノ用ニ供
シタル物件ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニ依リ之ヲ沒收ス
ヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ヲシテ主文掲記ノ如ク負擔セシ
ムヘキモノトス因テ主文ノ如ク判決ス

檢事南部金夫關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和五年(九)第一五九二一號 棄却)

(昭和五年十月二十七日第二刑事部判決)

七六六 (三六)

【上告人】 宮城控訴院檢察長及被告人 近藤喜衛 辯護人 山淺間 砂重 石大 和政

【第一審】 青森地方裁判所【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

衆議院議員選舉法第九十九條第二項ノ選舉運動

○判決要旨

衆議院議員選舉法第九十九條第二項ニ所謂其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動トハ運動ノ行ハルル地域ノ如何ヲ問ハス當該區域内ニ效果ヲ生スヘキ總テノ選舉運動ヲ汎稱スルモノトス

【参照】 衆議院議員選舉法第九十九條第二項 選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人兩名ヲ各罰金二百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ各五十日間勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ノ一部ハ被告人兩名ノ連帶負擔トスル旨及被告人喜衛ニ對スル左記公訴事實ノ一部ハ其ノ證明ナキモ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲ササル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人小山田義郎ハ昭和五年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ付青森縣第一區選出議員候補者神田重雄ノ選舉事務長被告人近藤喜衛ハ右選舉ニ關シ當時八戶市長トシテ同縣第一區ニ屬スル八戶市ノ投票開票ノ管理者ニシテ法定ノ選舉運動者ニ非サル處

第一 右候補者神田重雄ノ應援者ナル中川貞機カ同候補ノ選舉事務所費用ニ充テント欲シ同年二月四日午後一時頃八戶市大字番町奥南新報社ニ到リ被告人喜衛ニ對シ頓テ開設セラルキ右新報社樓上ニ於ケル同候補者ノ選舉事務所五戶町選舉事務所三戶町選舉事務所ノ各費用トシテ金千五百圓ヲ提供シ同時ニ五戶町事務所分トシテ自ラ該金圓中ヨリ五百圓ヲ引去リ殘金千圓ヲ喜衛ニ交付シテ他ノ二ヶ所ヘ各五百圓宛配布届方ヲ依頼シタル處喜衛ハ當時小山田義郎カ右神田候補者ノ立候補届出等ノ爲他出不在ナリシカハ即時右貞機ノ依頼ヲ受諾シ自ラ其ノ趣旨ニ基キ同日同所ニ於テ該金圓中五百圓ヲ右新報社樓上ニ於ケル選舉事務所ノ費用トシテ大渡福次郎ニ五百圓ヲ三戶町選舉事務所ノ費用トシテ大信田一城ニ夫々交付シテ同事務所ニ備付ケ以テ神田候補者ノ爲選舉運動費ヲ準備シ八戶市長トシテ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シ

第二 被告人喜衛同義郎ハ同月十七日右候補者神田重雄ノ選舉事務所ナル前記奥南新報社樓上ニ於テ同候補者ニ好意ヲ有シ居タル八戶市大字中居林小向岩太郎カ被告人等ニ對シ同候補者ノ爲同字内ノ

選舉人ヲ買收センコトヲ提議スルヤ何レモ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ右岩太郎ノ提議ヲ容レ即座喜衛ハ義郎ニ出金ヲ命シ義郎ハ其ノ旨ヲ受ケテ金七十八圓ヲ岩太郎ニ交付シ以テ被告人兩名ハ岩太郎ト共謀ノ上同人ノ手ヲ經テ同日及翌十八日連續シ同市大字中居林ニ於テ同字内ノ選舉人石鉢三男吉 石鉢榮吉 中居作太郎 小向要吉 中村專松ニ對シ夫々神田候補者ニ投票センコトヲ依頼シ其ノ報酬トシテ各金一圓宛ヲ供與シ以テ喜衛ハ同時ニ八戶市長トシテ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタリ

法律ニ照スニ被告人喜衛ノ行爲中法定ノ選舉運動者ニアラスシテ選舉運動ヲ爲シタル點ハ衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條ニ市長トシテ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタル點ハ同法第九十九條第二項第三百一十一條ニ金圓供與ノ點ハ同法第一百二十二條第一號刑法第六十條第五十五條ニ各該當シ右ハ一行爲數罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項第十條ニ依リ最モ重キ右金圓供與ノ罪ニ付定ノタル刑ニ從ヒ其ノ罰金刑ヲ選擇シ被告人喜衛ヲ罰金二百圓ニ處スヘク被告人義郎ノ行爲ハ衆議院議員選舉法第一百二十二條第一號刑法第六十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ罰金刑ヲ選擇シ被告人義郎ヲ罰金二百圓ニ處スヘク何レモ右罰金ヲ完納セサルトキハ刑法第十八條ニ則リ各五十日間勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第二頁三十八條ヲ適用シ主文掲記ノ如ク被告人喜衛同義郎ヲシテ連帶負擔セシムヘキモノトス

次ニ本件公訴事實中被告人喜衛カ神田候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ昭和五年二月四日ヨリ同月十七日頃迄ノ間奥南新報社及同社樓上選舉事務所ニ於テ被告人義郎ニ對シ青森縣三戶郡上長苗代村上村喜代見同郡飯村下斗米龜次郎等カ各其ノ居村ニ於テ同候補ノ政見發表演說會ヲ開催スル場合ニハ同候補者ニ出演セラレタシト申スニ付左様取計ラヒ貫ヒタキ旨同候補者ノ選舉委員大渡福次郎ニ對シ同候補者ノ選舉費用ノ出納ヲ右新報社ノ會計事務ト混同セサル様注意スヘキ旨同候補者ノ選舉事務員石橋孝二郎ニ對シ同候補者ノ選舉事務ニ關スル帳簿ヲ間違ハヌ様記帳整理スヘキ旨申シテ同候補者ノ選舉運動ヲ指揮監督シ以テ八戶市長トシテ投票開票ノ管理者タル其ノ職務關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シ又同派ノ八戶市方面ニ於ケル有力者ニシテ同候補者ノ遊說ヲ擔任シ居リタル遠山景雄ニ對シ同縣下北郡出身菊地昌治ノ談ニ依レハ同郡ヲ遊說スル場合ニハ同郡田名部町ノ有力者河野榮藏ヨリ演說ヲ爲シ貫ハハ效果アリトノ事故同人ニ依頼シテ應援演說ヲ爲シ貫フ方宜敷キ旨申シ尙有權者上村喜代見下斗米龜次郎ト面接シテ前記ノ如ク各居村ニ同候補者ノ演說會開催ノ場合ニ於ケル同候補出演ノ打合セヲ爲シ以テ選舉運動ヲ爲シタリトノ點ハ其ノ證明ナキモ右ハ判示ノ選舉運動行爲ト包括一罪ヲ構成スヘキ關係ニ在ルモノナレハ右ノ點ニ付テハ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲サス

次ニ又被告人喜衛ニ對スル公訴事實中同被告人ハ中川原貞機カ神田候補者ノ選舉費用トシテ提供シタル金千五百圓ヲ選舉事務長小山田義郎ニ諮ルコトナク判示三ヶ所ノ事務所費用トシテ各五百圓宛交付

シテ選舉運動ノ費用ヲ支出シタリトノ點ニ付審按スルニ前掲摘示ノ各證據ニ依レハ判示ノ如ク被告人喜衛ハ中川原貞機ヨリ判示ニケ所選舉事務所費用ニ充ツル爲其ノ届方ヲ依頼セラレテ預リタル金千圓ヲ依頼ノ趣旨ニ基キ夫々取次キ配付シタルモノニシテ即右喜衛ノ行爲ハ選舉運動ノ費用ヲ支出シタルモノニアラス貞機ノ依頼ニヨリ其ノ受入ノ取次キヲ爲シタルニ外ナラサルモノト謂フヘク從テ衆議院議員選舉法第一百條ニ所謂選舉運動費ノ支出ヲ論スルヲ以テ論スルヲ得サルヤ明ナリ左レハ右公訴事實ハ結局其ノ證明ナキニ歸スレトモ右ノ點ハ他面選舉運動行爲ト解スヘキヲ以テ判示第二ノ選舉運動行爲ト包括一罪ト爲シ處斷スヘキモノトシ右ノ點ニ付之亦特ニ無罪ノ言渡ヲ爲サス

○理由

被告人喜衛辯護人砂田重政 淺石大和上告趣意書第三點原判決ハ其ノ理由第一末尾ニ於テ八戶市長トシテ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタリト說示スルモ原審ニ於テ被告ノ供述セル如ク奥南新報社樓上ノ選舉事務所ハ八戶市ヲ除ク近村郡部ノ選舉事務所ヲ擔當セルモノニシテ八戶市ノ選舉事務所ヲ擔當セルモノハ特ニ同市湊町神田候補者自宅ニ設置セル選舉事務所ナリ從テ假ニ原判決理由第一ノ事實ヲ選舉運動ナリトスルモ被告ハ市長トシテ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタリト說示スル原判決ニ事實ノ重大ナル誤認アルヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリ且之ニ同法第九十九條第二項第百三十一條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤アルモノト云ハサルヘカラスト云フニ在リ○按スルニ衆議院議

【要旨】

員選舉法第九十九條第二項ニ所謂其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動トハ選舉運動ノ行ハルル地域ヲ限定スルノ意ニ非スシテ其ノ選舉運動ノ效果カ當該區域内ニ其ノ發生ヲ見ルヘキ總テノ選舉運動ヲ汎稱スルモノト解スヘキモノトス蓋シ同條項ニハ關係區域内ニ於ケルトアリテ關係區域内ニ於テト規定シアラサルノミナラス其ノ區域外ニ於テ爲ス選舉運動ト雖苟クモ其ノ運動ニシテ當該關係區域内ノ當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル等選舉ニ影響ヲ及ホス一切ノ運動行爲ハ當該區域内ニ於テ爲ス選舉運動ト選舉ノ公正ヲ害スル虞アル點ニ於テ逕庭ナケレハナリ原判示第一ノ事實ハ判示ノ如ク被告喜衛カ判示中川原貞機ノ依頼ノ趣旨ニ基キ判示奥南新報社ニ於テ金五百圓ヲ右新報社樓上ニ於ケル選舉事務所ノ費用トシテ大渡福次郎ニ金五百圓ヲ三戶選舉事務所ノ費用トシテ大信田一城ニ夫々交付シテ同事務所ニ備付ケテ神田候補者ノ爲選舉運動費ヲ準備シタリト云フニ在リテ該選舉運動ノ效果カ判示選舉ニ關シ當時八戶市長トシテ青森縣第一區ニ屬スル同市ノ投票開票ノ管理者タル被告喜衛ノ關係區域内タル同市ニ發生スルモノト認定シタル趣旨ナルコト原判文上推知スルニ難カラサルヲ以テ縱令所論ノ如ク奥南新報社樓上ノ選舉事務所カ八戶市ヲ除ク近村郡部ノ選舉事務所ヲ擔當セルモノトスルモ之カ爲原判決ノ如ク八戶市長トシテ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シト判示スルノ妨ト爲ラス從テ原判決カ右被告喜衛ノ所爲ヲ衆議院議員選舉法第九十九條第二項第百三十一條ニ問擬シタルハ相當ナリ而シテ原判示第一ノ事實ハ其ノ舉示スル各證據ニ依リ優ニ之ヲ認メ得ヘク記錄ニ徵スルモ其ノ誤認

ナルコト疑フニ足ル事由ナク所論ハ畢竟法律ヲ誤解シ之ヲ前提トシテ原判決ニ事實ノ誤認及擬律ノ錯
誤アリト攻撃スルモノニシテ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和五年(九)第一五四六號 棄却)
同年十月三十一日第一刑事部判決

【上告人】 被告人 兼房 圓平 辯護人 三浦 強一
外五名 森保 祐昌

【第一審】 廣島地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

投票ニ對スル報酬ノ返還ト沒收又ハ追徴

○判決要旨

衆議院議員選舉法第一百十二條ノ場合ニ於テ利益ノ供與ヲ受ケタル
者カ其ノ利益ヲ供與者ニ返還シタルトキハ供與者ヨリ之ヲ沒收ス
ヘク沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴スヘキモノトス

【參照】 衆議院議員選舉法第一百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以

下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ

金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束

ヲ爲シ又ハ變態接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

四 第一號若ハ前號ノ供與、變態接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承

諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

同法第百十四條 前二條ノ場合ニ於テ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一

部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人休一淺吉ヲ各罰金七十圓同圓平ヲ罰金八
十圓同千松 庫左右ヲ各罰金百圓同茂樹ヲ罰金二百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ孰
レモ罰金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置ス被告人圓平ヨリ金三圓同千松ヨリ金七十五圓

投票ニ對スル報酬ノ返還ト沒收又ハ追徴

同休一 淺吉ヨリ各金二十五圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人兼房圓平ハ昭和五年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ付同年一月二十五日廣島縣第一區ヨリ立候補シタル藤田若水ノ爲其ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ法定ノ選舉運動者タル資格ナキニ拘ハラス

(一) 同年一月二十六日廣島縣佐伯郡大野村字下ノ濱田原半左衛門方ニ於テ選舉人中島完一ニ對シ同候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲サレ度旨依頼シ右投票並運動報酬トシテ金三圓ヲ供與シ

(二) 翌二十七日肩書被告人居宅ニ於テ選舉人高山關太郎 山田良吉 松本卯之助 吉本米三郎 水田 豐一 河村信槌 山本茂 松本會助 河面勇氣夫 小泉和一 新田孝一 柴田時三郎 高濱太一 松島榮 吉川本周太郎 川本文太郎及鹽仲梅吉ノ十七名ニ對シ同候補者ノ爲暗ニ投票セラレ度旨依頼シ其ノ報酬トシテ右選舉人等一同ニ對シ忘年會名義ノ下ニ一人宛金八十四錢位ニ相當スル酒肴ノ饗應ヲ爲シ以テ選舉運動ヲ爲シ

第二 (一) 茂樹 庫左右ハ前記選舉ニ付廣島縣第一區ヨリ立候補シタル森保祐昌ノ選舉委員ナルトコロ共謀ノ上同候補者ノ爲其ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年二月四日廣島縣佐伯郡大野村ニ於テ事實上ノ選舉運動者タル谷口千松ニ對シ選舉運動ノ報酬トシテ金五十圓ヲ供與シ

(二) 被告人茂樹ハ前同様ノ目的ヲ以テ同年二月十八日廣島市三川町森保祐昌方ニ於テ前同様選舉

運動者タル谷口千松及石川淺吉並森保候補ノ選舉委員タリシ磯部休一 大島盛行等ヨリ選舉運動ノ報酬トシテ金圓ノ要求ヲ受クルヤ之ニ應シ即日同所ニ於テ同人等四名ニ對シ選舉運動ノ報酬トシテ金百圓ヲ供與シ

第三 (一) 被告人千松ハ前記第二ノ(一)ノ如ク同年二月四日廣島縣佐伯郡大野村ニ於テ其ノ情ヲ知リ乍ラ被告人茂樹 庫左右ヨリ選舉運動ノ報酬トシテ金五十圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 被告人千松 盛行 淺吉及休一ハ共謀ノ上(イ) 前記選舉ニ付右候補者森保祐昌ノ爲當選ヲ得シムル目的ヲ以テ其ノ當時孰レモ法定ノ選舉運動者タル資格無キニ拘ハラス同年二月四日同村川内 德八方ニ於テ選舉人川内德八 上村三一 船倉順三 石本順平 高橋初一 辰見小一 辰見政太郎 沼津坂松 谷口芳松ノ九名ニ對シ同候補者ノ爲投票ヲナサレ度旨依頼シ其ノ報酬トシテ各金五圓宛ヲ供與シ選舉人中島完一ニ對シテモ右同様ノ依頼ヲ爲シ前同趣旨ノ下ニ金一圓ヲ供與シ以テ選舉運動ヲ爲シ(ロ) 前記第二ノ(二)ノ如ク同月十八日廣島市三川町森保祐昌方ニ於テ選舉委員勝田茂樹ニ對シ選舉運動ノ報酬トシテ金圓ヲ要求シ即日同所ニ於テ同人ヨリ金百圓ノ供與ヲ受ケ

(三) 被告人千松ハ前同様候補者森保祐昌ノ爲其ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ法定ノ選舉運動者タル資格ナキニ拘ハラス同月十八日廣島縣佐伯郡大野村ニ於テ選舉人宮本三平ニ對シ同候補者ノ爲投票セラレタキ旨依頼シ其ノ報酬トシテ金五圓ヲ供與シ以テ選舉運動ヲ爲シ

(四) 被告人千松 完一ハ共謀ノ上前同様ノ目的ヲ以テ法定ノ選舉運動者タル資格ナキニ拘ハラヌ同月十八日同村ニ於テ選舉人辰見小一 中島作一 大島貞助ニ對シ同候補者ノ爲投票セラレタキ旨依頼シ其ノ報酬トシテ金五圓宛ヲ供與シ以テ選舉運動ヲ爲シ

(五) 被告人千松ハ前同様ノ目的ヲ以テ同月十八日同村ニ於テ選舉運動者中島完一ニ對シ同候補者ノ爲選舉運動ヲ爲シタル其ノ報酬トシテ金五圓ヲ供與シ

タルモノニシテ以上被告人茂樹ノ金錢供與被告人千松 盛行 淺吉 休一及完一ノ各金錢供與及金錢收受ノ各所爲ハ孰レモ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人圓平ノ所爲中無資格選舉運動ノ點ハ衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條ニ金錢供與及響應ノ點ハ同法第二百二十九條第一號ニ被告人關太郎 良吉 卯之助ノ各響應收受ノ所爲ハ各同法第二百二十九條第四號ニ被告人茂樹ノ金錢供與ノ所爲ハ同法第二百二十九條第一號刑法第六十條第五十五條ニ被告人庫左右ノ金錢供與ノ所爲ハ衆議院議員選舉法第二百二十九條第一號刑法第六十條ニ被告人千松 盛行 淺吉 休一ノ各所爲中各無資格選舉運動ノ點ハ各衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條刑法第六十條ニ金錢供與及金錢收受ノ點ハ各衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條刑法第六十條ニ被告人完一ノ所爲中無資格選舉運動ノ點ハ衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條刑法第六十條ニ金錢供與及金錢收受ノ點ハ衆議院議員選舉法第二百二十九條第一號第四號刑法第六十條第五十五條ニ各該當ス

ルトコロ被告人圓平 千松 盛行 淺吉 休一 完一ノ各無資格選舉運動ノ所爲ト其ノ他ノ前示各所爲トハ孰レモ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ各刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ孰レモ重キ供與罪ノ刑ニ從フヘク以上各被告人共其ノ所定罰金刑ヲ選擇シ其ノ範圍内ニ於テ夫々主文ノ刑ヲ量定處斷シ其ノ罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキ各同法第十八條ニ依リ孰レモ罰金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間夫々勞役場ニ留置スヘク尙被告人完一カ收受シタル現金六圓千松カ收受シタル現金五十圓同被告人及被告人盛行 淺吉 休一等カ共謀ノ上收受シタル現金百圓ニ付之ヲ四分シ各金二十五圓宛被告人完一カ收受シタル後被告人圓平ニ返還シタル現金三圓ハ孰レモ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ各衆議院議員選舉法第二百二十九條ニ依リ主文拘記ノ如ク夫々各被告人ヨリ其ノ價額ヲ追徵スヘキモノトス

○ 理由

被告人圓平辯護人三浦強一上告趣意書第二點原判決ハ被告人兼房圓平ニ對シ金三圓ヲ追徵スヘキ旨ノ刑ヲ宣告シ(主文)其ノ理由トシテ「被告人完一カ收受シタル後被告人圓平ニ返還シタル現金三圓ハ孰レモ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ各衆議院議員選舉法第二百二十九條ニ依リ主文掲記ノ如ク夫々各被告人ヨリ其ノ價額ヲ追徵ス」ヘキモノナル旨判示セラレタリ然レトモ追徵ノ基礎タル沒收ハ附加刑ニシテ刑罰タルヘク基本刑ナクシテ科セラルヘキモノニアラス被告人兼房圓平カ同中島完一ニ對シ三圓

ヲ供與シタリトノ犯罪ハ兼房圓平ニ於テハ之ニ依リテ受ケタル利益ナキヲ以テ沒收刑ヲ科セラルヘキモノニアラサルハ論ヲ俟タス又右供與シタル金三圓ヲ同人カ中島完一ヨリ返還ヲ受ケ之ヲ沒收シタルハ何等選舉法上ノ犯罪ヲ構成スルコトナク原院ニ於テモ亦之ニ對シ本刑ヲ科セラレタル事蹟アラサルカ故ニ右三圓ノ追徴刑ハ其ノ科セラルヘキ基本ヲ缺如セルモノト謂ハサルヲ得ス原判決ハ此點ニ於テ衆議院議員選舉法第百十四條ヲ不當ニ適用セラレタル違法アリ破毀セラヘキコト多辯ヲ俟タスト云フニ在レトモ○衆議院議員選舉法第百十四條ハ同法第百十二條ニ規定シタル選舉運動又ハ投票ニ對スル報酬トシテ或ル利益ノ授受アリタル場合ニ於テ其ノ利益カ被供與者ノ手裡ニ存スルトキハ其ノ者ヨリ之ヲ沒收シ若シ沒收ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ同人ヨリ其ノ價額ノ追徴ヲ爲スヘキハ勿論該利益カ被供與者ヨリ供與者ニ返還セラレタル場合ニ於テハ其ノ供與者ヨリ右ト同様沒收又ハ價額ノ追徴ヲ爲スヘキ趣旨ノ規定ナリト解スヘキモノトス何トナレハ選舉運動若ハ投票ノ報酬トシテ一旦授受セラレタル利益又ハ其ノ價額ハ常ニ國庫ニ歸屬セシメ其ノ授受者ヲシテ犯罪ニ關スル利益ヲ保持シ又ハ之ヲ回復セシメサル法意ナルコト明白ナレハナリ果シテ然ラハ原判決カ被告人ヨリ中島完一ニ選舉運動報酬金トシテ供與シタル其ノ後完一ヨリ被告人ニ返還セラレタルモノト認定シタル所論金三圓ヲ供與者タル被告人ヨリ沒收シ能ハサルカ爲同人ニ其ノ價額ノ追徴ヲ言渡シタルハ正當ニシテ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事溝淵孝雄關與

○公文書偽造行使收賄欺詐被告事件(昭和五年(九)第一四九三號
 同年十一月八日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 石田新助 辯護人 松尾菊太郎

【第一審】 福岡地方裁判所久留米支部 【第二審】 長崎控訴院

○ 判 示 事 項

内務省下關土木出張所雇員ト公務員

○ 判 決 要 旨

内務省下關土木出張所筑後川改修事務所附屬員中ニハ雇員ヲ包含シ該雇員ハ公務員ナリ

内務省下關土木出張所雇員ト公務員

【参照】 刑法第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

内務省官制第十二條ノ二 内務大臣ハ必要ニ應シ土木出張所又ハ土木試験所ヲ置キ直轄土木工事並河川、道路、港灣及砂防ノ調査試験等ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得土木出張所又ハ土木試験所ニ所長ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ充ツ

明治三十八年四月内務省訓令第十號内務省土木出張所處務規程第三條 所長ハ雇員以下ノ命免ヲ專行スルコトヲ得

同第四條 所長ハ所中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

昭和二年四月内務省訓令第十號内務省土木出張所處務規程第一條 所長ハ雇員以下ノ命免ヲ專行スルコトヲ得

同第九條 所長ハ所中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

内務省下關土木出張所工區事務所處務規程第三條 工區事務所及工場ニ各主任一名附屬員若干名ヲ置ク

同第六條 附屬員ハ技師及技師以下ヲ以テ之ニ充テ主任ノ指揮ヲ受ケ工務ニ從事ス

○事實

第二審判決ハ左記第一ノ事實ヲ認定シテ刑法第九十七條第一項前段ニ間擬シ第二事實公文書偽造行使詐欺トノ間ニ併合罪ノ關係アリト爲シ被告人ヲ懲役一年二月ニ處シタリ

被告人新助ハ内務省土木出張所處務規程ニ基キ同省下關土木出張所長ヨリ同出張所雇員ニ任命セラレ同規程ノ委任ニ基キ同出張所長ノ設定シタル同出張所工區事務所處務規程ニ依リ同出張所工區事務所タル同出張所筑後川改修事務所ノ附屬員トシテ同工區事務所主任ノ指揮ノ下ニ物品ノ購入及機械修繕ノ注文ニ關スル事務其ノ他ノ庶務一般ノ職務ニ從事中

第一 犯意繼續ノ上

一 原審共同被告人玉置佐太郎カ石材商ヲ營業ト爲シ豫テ前示事務所ニ石材ヲ納入シタル者ニシテ該事務所ノ石材ノ購入ニ付自己ニ之カ納入方ヲ命セラレ度旨請託ヲ爲シ爲ニ飲食ノ饗應ヲ爲スモノナルコトヲ知リナカラ同人ヨリ昭和二年十二月五日ヨリ昭和三年六月五日ニ至ル迄ノ間ニ九回ニ互リ久留米市日吉町丸藤料理店ニ於テ一人前合計金二百二十二圓七十九錢相當ノ饗應ヲ受ケ

二 (イ) 原審共同被告人廣津卯三郎カ金物商ヲ營業ト爲シ豫テ前示事務所ニ鐵類ヲ納入シタル者ニシテ該事務所ノ鐵類購入ニ付自己ニ之カ納入方ヲ命セラレ度旨請託ヲ爲シ飲食ノ饗應ヲ爲スモノナルコトヲ知リナカラ同人ヨリ

昭和二年十二月十八日ヨリ昭和三年一月三日ニ至ル迄ノ間ニ三回ニ互リ同市日吉町春ノ家料理店ニ於テ一人前合計金七十六圓九十錢相當ノ

昭和三年一月二十一日ヨリ同年五月十七日ニ至ル迄ノ間ニ十回ニ互リ同市日吉町曙料理店ニ

内務省下關土木出張所雇員ト公務員

於テ一人前合計金百八十圓十五錢相當ノ
各響應ヲ受ケ

(ロ) 右廣津卯三郎カ右ノ如キ者ニシテ前同様ノ請託ヲ爲シ金錢ヲ贈與スルモノナルコトヲ知
リナカラ同人ヨリ昭和二年十二月三十一日前記者ノ家料理店ニ於テ昭和三年一月中旬市莊島
町ナル當時ノ被告人新助居宅ニ於テ同年三月中旬所ニ於テ各金百圓合計金三百圓ヲ贈與ノ趣
旨ヲ以テ交付ヲ受ケ

三 原審共同被告人堀内鶴次郎カ金物商ヲ營業ト爲シ豫テ前示事務所ニ鐵類ヲ納入シタル者ニシテ
該事務所ノ鐵類購入ニ付自己ニ之カ納入方ヲ命セラレ度キ旨請託ヲ爲シ飲食ノ響應ヲ爲スモノナ
ルコトヲ知リナカラ同人ヨリ

(イ) 大正十五年二月九日ヨリ昭和二年九月三十日ニ至ル間ニ十九回ニ互リ同市東町料理店新
港ニ於テ一人前合計金百五十八圓十錢相當ノ

(ロ) 昭昭二年四月十五日ヨリ昭和三年五月二十六日ニ至ル迄ノ間ニ十八回ニ互リ同市西町料
理店忍亭ニ於テ一人前合計金三百十四圓二十二錢相當ノ
各響應ヲ受ケ

四 (イ) 原審共同被告人福岡助一カ石材商ヲ營業ト爲シ豫テ前示事務所ニ石材ヲ納入シタル者ニ

シテ該事務所ノ石材購入ニ付自己ニ之カ納入方ヲ命セラレ度キ旨請託ヲ爲シ飲食ノ響應ヲ爲スモ
ノナルコトヲ知リナカラ同人ヨリ昭和三年四月中及同年五月中ノ二回ニ久留米市莊島町松ノ家料
理店ニ於テ一人前合計金二十六圓相當ノ響應ヲ受ケ

(ロ) 右福岡助一カ右ノ如キ者ニシテ前同様ノ請託ヲ爲シ金錢ヲ貸與スルモノナルコトヲ知リ
ナカラ同人ヨリ昭和三年五月中同市莊島町ナル當時ノ被告人新助居宅ニ於テ金九十圓ヲ借受ケ

五 被告人樋口吉治カ金物商ヲ營業ト爲シ豫テ前示事務所ニ機械類並其ノ附屬品類及鐵材等ヲ納入
シタル者ニシテ該事務所ノ右ノ如キ物品購入ニ付自己ニ之カ納入方ヲ命セラレ度キ旨請託ヲ爲シ
被告人新助ノ金錢ノ貸與方ノ要請ヲ客ルルモノナルコトヲ知リナカラ久留米市莊島町旅館林松館
ニ於テ昭和三年五月二日金八百圓同年六月二十八日金二百圓同月二十九日金百圓ヲ各借受ケ

以テ各其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタルモノトス

(第二事實ハ略ス)

○ 理 由

辯護人松尾菊太郎上告趣意書第一點原判決ハ被告人新助カ所謂公務員ナルコトノ説明トシテ「被告人
新助ハ内務省土木出張所處務規程ニ基キ同省下關土木出張所ヨリ同出張所雇員ヲ任命セラレ同規程ノ
委任ニ基キ同出張所長ノ設定シタル同出張所工區事務所タル同出張所筑後川改修事務所ノ附屬員トシ

テ同工區事務所主任ノ指揮ノ下ニ物品ノ購入及機械修繕ノ注文ニ關スル事務其ノ他ノ庶務一般ノ職務ニ從事中ト判示セラレタリ蓋シ内務省土木出張所處務規定ハ明治三十八年四月内務省訓令第十號トシテ公布施行セラレタルモノモ其ノ後同省ノ訓令ヲ以テ公布施行セラレタルモノモ均シク所長ハ雇員以下ノ命免ヲ爲スコトヲ得ルコト及所中處務細則ヲ設クルコトヲ得ル旨ノ規定存シ而シテ内務省下關土木出張所工區事務所處務規程ニハ工區事務所ニ主任一名附屬員若干名ヲ置キ附屬員ハ主任ノ指揮ヲ受ケ工務ニ從事スル旨ノ規定存スルカ故ニ本件被告人ハ其ノ任用職務ニ關シ法令ノ根據アルヲ以テ公務員ナリト認定シタルモノノ如シ然レトモ凡ソ刑法ニ於テ公務員瀆職ノ罪ヲ規定シ之ヲ罰スル所以ハ公務員ノ威信ヲ保護シ其ノ公正ヲ維持スルヲ目的ト爲スニアルヲ以テ其ノ公務員ハ刑罰ヲ以テ其ノ威信ヲ保護シ公正ヲ維持スヘキ重要ナル公務ニ從事スル者ナラサルヘカラス單ニ形式的ニ法令ニ依テ其ノ命免ヲ規定セラレ居ルヤ否ノ如キハ必スシモ其ノ職務ノ重要ナルヤ否ヲ判斷スヘキ唯一ノ標準トハ爲シ能ハサルヤ言フ俟タス蓋如何ニ重要ナル公務ニテモ法令——成文法——ニ基カスシテ本人ノ同意ヲ得テ之ヲ公務員トシテ任用スルコトハ行政上妨ケナキト同時ニ法令ニ其ノ命免ヲ規定シタル場合ト雖其ノ公務ハ比較的重要ナラサル場合往々存スルヲ以テナリ例ヘハ國際會議ニ列席セシムル爲ニ特派セラルヘキ特派全權大使及其ノ隨員ノ如キハ其ノ公務ノ重要サニ至ツテハ國務大臣ニモ比肩スヘキモノナレトモ法令——成文法——ノ規定ヲ以テ其ノ任用ニ關スル規定ナキモノアリ又公立病院ノ看護婦

列車内ノ給仕ト雖病院又ハ鐵道省ノ内規タル處務規定ニ其ノ命免又ハ職務ヲ規定シタリトセハ之等ノ者マテモ公務員瀆職罪ノ主體タリ得ヘキ者ト解セサルヘカラサルコトトナルモ何人モ斯ル者ヲ目シテ公務員ナリト斷スルモノハナカルヘシ果シテ然ラハ刑法上收賄罪トシテ處罰セラルヘキヤ否ハ其ノ從務員カ法令——成文法——ノ文面ニ記載セラレ居ルヤ否ニ依テ判斷セラルヘキ事項ニ非スシテ專ラ其ノ職務ノ性質ニ依リテ判斷セラルヘキ事項ナリ而シテ其ノ職務權限カ公務ノ威信ト公正トヲ保持スル爲ニ特ニ刑法ノ保護ヲ必要トスル公務ニ從事スル者ニ限ルト斷セサルヲ得ス從テ上官ノ命ニ從ヒ機械的ノ業務ニ從フニ過キササルカ如キ場合ハ所謂公務員ニ非スト言ハサルヘカラス本件ニ付原判決ノ認定シタル事實ニヨレハ被告人ハ内務省下關土木出張所後川改修事務所ノ附屬員トシテ同工區事務所主任ノ指揮ノ下ニ物品ノ購入及機械修繕ノ注文ニ關スル事務其ノ他ノ庶務一般ノ職務ニ從事シタル者トアルヲ以テ被告人ハ獨立ノ職務權限ヲ有シタルモノニアラサルハ勿論單ニ該事務所主任ノ手足トナリテ雜務ニ從事シタルニ過キササルヲ以テ被告人ハ公務員ニアラサルコト寔ニ炳カナリ御院ハ曾テ(イ)北海道高島郡高島町ノ囑託ニ因ル工事監督員(ロ)岡山市雇ナル現場監督員(ハ)九州帝國大學建築課雇ニ對シ何レモ公務員ニ非スト判決セラレタリ(大正十四年(レ)四七一號同年七月二十九日第一四刑事部判決——判決集第四卷五一七頁同年(レ)第一〇九七號同年十月十六日第六刑事部判決——判決集第四卷六〇七頁同年(レ)第一五八九號同年十二月八日第六刑事部判決——判決集第四卷七二

三頁)而シテ(イ)ハ北海道高島郡高島町ノ囑託ニ係ル工事監督員トシテ其ノ工事監督及検査ニ從事シタル處其ノ職務ニ關シテ收賄シタリト云フ事案(ロ)ハ岡山市雇トシテ某小學校新築工事ノ現場監督ヲ命セラレ該工事ノ監督材料ノ検査等ノ職務ニ從事シタル處其ノ職務ニ關シテ收賄シタリト云フ事案(ハ)ハ九州帝國大學總長ヨリ同大學建築課雇ニ任命セラレ建築工事ノ監督又ハ検査ヲ爲スヘキ地位ニアリシ處其ノ職務ニ關シテ收賄シタリト云フ事案ニシテ本件被告人カ内務省下關出張所長ヨリ雇員ニ任命セラレ同出張所後川改修事務所ニ於テ同工區主任ノ指揮ノ下ニ物品ノ購入及機械修繕ノ注文ニ關スル事務其ノ他庶務一般ノ職務ニ從事シタルト其ノ地位職務ニ於テ毫モ異ルトコロナシ前三者カ公務員ニアラストセハ本件被告人モ亦公務員ニアラスト云ハサルヘカラス尤モ前三者ハ實際上公務ニ從事スルモ法令ニ於テ公務ニ從事スル職員ナルコトノ根據不明ナルモ本件被告人ニハ其ノ根據明白ナリト稱スルモノアランモ斯ノ如キ形式的ナル法令——成文法——上ノ根據ニ依リ刑事責任ヲ左右スルノ理由ハ之ヲ了解ニ苦シム所ナリ然ルニ原院カ偶内務省土木出張所處務規程及同出張所工區事務所處務規定ニ其ノ命免及職務規定アルノ單純ナル形式上ノ理由ニ依リ被告人ヲ公務員ト認定シ響應並金員貸借ヲ收賄罪ニ問擬シタルハ畢竟法律ヲ誤斷シ事實ノ認定ヲ誤リタルモノナルヲ以テ原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在レトモ○明治三十八年四月内務省訓令第十號トシテ公布施行セラレタル内務省土木出張所處務規程第三條ニハ所長ハ雇員以下ノ命免ヲ專行スルコトヲ得トアリ同第四

條ニハ所長ハ所中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得トアリ右訓令ハ其ノ後屢一部ノ改正アリタルモ第三條及第四條ニハ何等ノ變更ナク昭和二年四月二十一日同訓令第十號同處務規程ノ公布施行セラルル迄其ノ效力ヲ有シ後者ノ訓令ニ於テハ更ニ其ノ第一條ニ所長ハ雇員以下ノ命免ヲ專行スルコトヲ得第九條ニ所長ハ所中處務細則ヲ設クルコトヲ得ト規定シタリ而シテ右訓令ノ委任ニヨリ所長ノ制定ニ係ル内務省下關土木出張所工區事務所處務規程(證第三十九號)第三條ハ工區事務所及工場ニ各主任一名附屬員若干名ヲ置クト規定シ其ノ第六條ニハ其ノ附屬員ハ技師及技師以下ヲ以テ之ニ充テ主任ノ指揮ヲ受ケ工務ニ從事ストアリ其ノ附屬員ニハ雇員ヲ包含スルモノト解スヘキモノナルヲ以テ原判決ノ認定スル如ク内務省下關土木出張所長ニ依リ同所雇員ニ任命セラレ同出張所ノ工區事務所タル後川改修事務所附屬員トシテ同事務所主任ノ指揮ノ下ニ公務ニ關スルモノト認ムルニ足ル物品ノ購入及機械修繕ノ注文ニ關スル事務其ノ他庶務一般ノ職務ニ從事シ居リタル被告人ハ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ニ該當スルモノトス(論旨中引用ノ判例ハ本件ニ適切ナラス)而シテ收賄罪ノ成立ニハ其ノ從事スル公務カ性質上特ニ重要ナルト否トヲ問ハサルコト勿論ナルヲ以テ被告人カ公務員トシテ前示職務ニ從事中其ノ職務ニ關シ響應ヲ受ケ並金員ヲ收受シタル行爲ヲ收賄罪ニ問擬シタル原判決ハ正當ニシテ法律ヲ誤解シ事實ノ認定ヲ誤リタル等ノ違法アルコトナク論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事南部金夫關與

○治安維持法違反新聞紙法違反被告事件 (昭和五年(九)第一四六五號 棄却)
同年十一月十七日第五刑事部判決

【上告人】 被告人 吉田雅雄 辯護人

布施辰治
大森證夫
小河合平
林恭平

【第一審】 岡山地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

治安維持法第一條ニ所謂結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ト結社トノ關係

○判決要旨

治安維持法第一條所定ノ結社ノ存在ヲ知り其ノ結社ヲ支持シ之カ擴大強化ヲ圖ル行爲ヲ爲シタル者ハ同結社ト組織關係ヲ有セ又ハ其ノ機關ノ統制指揮ヲ受クルコトナキモ同條ニ所謂結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ニ該當ス

【參照】 治安維持法第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法令ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年六月ニ處シ未決句留日數百日ヲ本刑ニ算入シ訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ第六高等學校在學中大正十五年十一月頃同校社會科學研究會ニ加入シ間モナク共產主義ヲ信奉スルニ至リ同校校長ノ戒告アリタルニ拘ラス依然窃ニ其ノ研究ニ没頭スルト共ニ岡山市在住ノ各種

治安維持法第一條ニ所謂結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ト結社トノ關係

無産運動ノ闘士ト交際シ居リタルカ昭和三年三月頃「赤旗」等日本共産黨ニ關スル文書ヲ讀ミ同黨カ
ロシヤニ於ケル第三インターナショナル(國際共産黨)ノ一支部トシテ我國ニ於テ祕密ニ組織セラレ
我立國ノ大本タル立憲君主制ヲ廢止シ私有財産制度ヲ撤廢シ以テ無産階級獨裁政治ヲ行フ共産主義社
會ヲ實現センコトヲ目的トスル結社ナルコトヲ知ルニ及ヒ其ノ目的トスル所ニ共鳴シテ同黨ヲ支持セ
ンコトヲ決意シ當時同黨ノ活動方針カ黨組織擴大ノ爲先ツ労働者ヲシテ労働組合ヲ結成セシメ次テ之
ニ共産主義ヲ宣傳煽動スルニ在リシヲ以テ此ノ趣旨ニ基キ其ノ頃西某外二名ノ労働者ニ對シ無産者新
聞ヲ閱讀セシメマルクス主義ノ研究ヲ奨ムル等種々策動シタル爲遂ニ檢舉セラレ昭和三年十月三十一
日岡山地方裁判所ニ於テ懲役一年六月ニ處セラレタルカ右刑ハ三年間其ノ執行ヲ猶豫セラレタルノミ
ナラス同年勅令第二七〇號ニヨリ懲役一年一月十五日ニ減刑セララルノ恩典ニ浴シタルニ拘ラス尙其
ノ抱懷セル共産主義思想ヨリ脱スル能ハス昭和四年七月頃ヨリ再ヒ岡山市在住ノ無産運動者ト往來シ
或ハ無産者新聞ニ對シ岡山市ニ於ケル無産運動ノ情況ヲ通信シタルコトモアリシカ右日本共産黨ハ昭
和三年三月十五日及昭和四年四月十六日其ノ黨員ノ多數カ檢舉セラレタルモ未タ潰滅ニ至ラス依然存
在シテ活動ヲ續ケ居ルコトヲ知り又モ同黨ヲ支持シ其ノ目的トスル所ヲ他人ニ宣傳シ同黨ノ擴大強化
ヲ圖ラント決意シ犯意繼續シテ

第一 無産者新聞及第二無産者新聞カ孰レモ毎月六回發行セララルル合法新聞ニシテ日本共産黨指導ノ

下ニ同黨ノ政策ヲ大衆ノ間ニ煽動シ其ノ擴大強化ヲ圖ル目的ヲ以テ發行セラレ次ニ記載スル各號ハ
孰レモ之ニ副フ記事ヲ掲載シ居ルコトヲ知悉シツツ昭和四年八月下旬頃ヨリ同年十月中旬頃迄ノ
間ニ互リ無産者新聞終刊號及第二無産者新聞創刊號ヨリ第六號迄ヲ其ノ發賣所ナル東京市麴町區三
番町戦旗社ヨリ自己ノ祕密通信先ナル岡山市上西川町石原彌平内安東幸子方ニ取寄セタル上其ノ内
第二無産者新聞第二乃至四號及第六號ニ付テハ内務大臣ヨリ安寧秩序ヲ紊スモノトシテ其ノ發賣願
布ヲ禁止セラレタルコトヲ確實ニ了知シナカラ右取寄セタル全部ヲ其ノ頃回ヲ重ネ岡山市内ニ於テ
藤田俊徳 堺好明 伊藤敏雄等ニ手交又ハ郵送シ尙長門錠一ニハ其ノ祕密通信先ナル岡山縣吉備郡足
守町大木誠治方ニ郵送シ以テ之ヲ頒布シ同人等ノ閱讀ニ供シ

第二 昭和四年十月下旬頃ノ夜岡山縣和氣郡本莊村大字日室ノ山腹ニ在ル大師堂ニ於テ無産運動ニ興
味ヲ有スル恒次光高外四名ノ農民及労働者ト荻野ナル偽名ニテ密ニ會合シ同人等ニ對シ私有財産制
度ヲ認メタル資本主義社會ハ矛盾シ居ルヲ以テ革命ノ方法ニ依リ之ヲ改革シ無産階級ヲ解放セサル
ヘカラス而モ其ノ解放ハ日本共産黨ノ力ニ依ルノ外ナシ同黨ハ度々ノ檢舉ニ遭ヒタルモ依然コンミ
ンテルンノ一支部トシテ活動シ居ルヲ以テ諸君ハ日本共産黨ヲ支持シ其ノ指揮下ニ活動シ無産階級
ノ解放ヲ期セサルヘカラス又無産階級解放運動ニ關スル新聞雜誌ヲ讀ミテ階級意識ヲ高メ農民組合
労働組合ヲ組織シ團體ノ力ニ依リ無産運動ヲ起スヘキ旨說示シテ日本共産黨ノ存在及其ノ活動ヲ知

ラシムルト共ニ同黨ニ共鳴シ之ヲ支持スヘキ旨ヲ宣傳煽動シ以テ孰レモ日本共產黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行動ヲ爲シタルモノナリ法律ニ照スニ被告人ノ第一ノ各行爲及第二ノ行爲ハ夫々一面ニ於テ治安維持法第一條第一項後段ニ他面ニ於テ同條第二項ニ該當シ又第一ノ内ノ數箇ノ行爲ニ於ケル禁止ノ情ヲ知リテ新聞紙ヲ頒布シタル點ハ各新聞紙法第三十八條後段第二十三條第一項ニ該當スル處右各行爲ハ孰レモ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ各行爲ニ付夫々最モ重キ治安維持法第一條第一項後段所定ノ刑ニ從ヒ且ツ連續犯ナルヲ以テ刑法第五十五條ニ依リ一罪トシテ處分シ所定ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年六月ニ處シ同法第二十一條ニヨリ原審ニ於ケル未決勾留日數中百日ヲ其ノ本刑ニ算入スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○ 理 由

辯護人布施辰治 大森詮夫 河合篤 小林恭平 上告趣意書原判決ハ被告ノ犯罪事實ヲ「被告人ハ昭和四年七月頃ヨリ再ヒ岡山市在住ノ無産運動者ト往來シ或ハ無産者新聞ニ對シ岡山市ニ於ケル無産運動ノ情況ヲ通信シタルコトモアリシカ右日本共產黨ハ昭和三年三月十五日及昭和四年四月十六日其ノ黨員ノ多數カ檢舉セラレタルモ未ダ潰滅ニ至ラス依然存在シテ活動ヲ續ケ居レルコトヲ知リ又モ同黨ヲ支持

シ其ノ目的トスルトコロヲ他人ニ宣傳シ同黨ノ擴大強化ヲ圖ラント決意シ犯意繼續シテ第一無産者新聞及第二無産者新聞カ孰レモ毎月六回發行セラルル合法新聞ニシテ日本共產黨指導ノ下ニ同黨ノ政策ヲ大衆ノ間ニ宣傳煽動シ其ノ擴大強化ヲ圖ル目的ヲ以テ發行セラレ次ニ記載スル各號ハ孰レモ之ニ副フ記事ヲ掲載シ居レルコトヲ知悉シツツ昭和四年八月下旬頃ヨリ同年十月中旬頃迄ノ間ニ互リ無産者新聞終刊號及第二無産者新聞創刊號ヨリ第六號迄ヲ其ノ發賣所ナル東京市麴町區三番町戰旗社ヨリ自己ノ秘密通信先ナル岡山市上西川町石原彌平内安東幸子方ニ取寄セタル上其ノ内第二無産者新聞第二乃至四號及第六號ニ付テハ内務大臣ヨリ安寧秩序ヲ紊スモノトシテ其ノ發賣頒布ヲ禁止セラレタルコトヲ確實ニ了知シ乍ラ右取寄セタル全部ヲ其ノ頃回ヲ重ネ岡山市内ニ於テ藤田俊徳 堺好明 伊藤敏雄等ニ手交ハハ郵送シ尙長門錠一ニハ其ノ秘密通信先ナル岡山縣吉備郡足守町大木誠治方ニ郵送シ以テ之ヲ頒布シ同人等ノ閱讀ニ供シ第二昭和四年十月下旬頃ノ夜岡山縣和氣郡本莊村大字日室ノ山腹ニ在ル大師堂ニ於テ無産運動ニ興味ヲ有スル恒次光高外四名ノ農民及労働者ト荻野ナル偽名ニテ密ニ會合シ同人等ニ對シ私有財産制度ヲ認メタル資本主義社會ハ矛盾シ居ルヲ以テ革命ノ方法ニ依リ之ヲ改革シ無産階級ヲ解放セサルヘカラス而モ其ノ解放ハ日本共產黨ノ力ニ依ルノ外ナシ同黨ハ度々ノ檢舉ニ遭ヒタルモ依然コンミンテルンノ一支部トシテ活動シ居ルヲ以テ諸君ハ日本共產黨ヲ支持シ其ノ指導下ニ活動シ無産階級ノ解放ヲ期セサルヘカラス又無産階級解放運動ニ關スル新聞雜誌ヲ讀ミテ階級意

識ヲ高メ農民組合労働組合ヲ組織シ團體ノ力ニ依リ無産運動ヲ起スヘキ旨示シテ日本共産黨ノ存在及其ノ活動ヲ知ラシムルト共ニ同黨ニ共鳴シ之ヲ支持スヘキ旨ヲ宣傳煽動シ以テ孰レモ日本共産黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノナリ」ト認定シ治安維持法第一條第一項後段並第二項ヲ適用シテ懲役二年六ヶ月ノ嚴罰ニ處シテ居リマシタカ辯護人ノ慎重ニ檢討シタ治安維持法第一條第一項後段並第二項ノ解釋ト被告人ノ行爲トシテ原判決ノ認定シタ事實關係ハ事實ノ誤認若ハ擬律錯誤ノ不法タルコトヲ免レサル左記ノ如キ失當ヲ彈劾セラルヘキモノト確信シマス治安維持法第一條第一項後段並第二項後段ハ昭和三年六月二十九日勅令第一二九號ヲ以テ改正セラレタ際新ニ附加セラレタモノテ其ノ意義頗ル明確ヲ缺キ制定當時ノ立法者ノ説明亦曖昧ニシテ能ク其ノ意ヲ捉フルコトヲ得ナイ程漠然トシテ居タモノテアルカ實施後ノ適用ノ實際ニ於テハ何等明確ナル基準ナク日本共産黨ニ關スル限リ直接間接アラユル行爲ヲ此ノ條規ニ依テ律セントシ其ノ適用ハ驚クヘキ廣汎ナル範圍ニ互リ殆ト限界ナキカ如クテアルスノ如キハ實ニ人民ノ自由權ノ尊重ヲ以テ其ノ主要ナル使命トスル近代の法治國家ニ於ケル法律制度發展ノ傾向ニ逆行スルモノテアツテ嚴ニ慎ムヘキコトヲ要シ其ノ解釋適用ニハ明確ナル限界ヲ付スヘキモノテアル辯護人ハ第五十六議會衆議院昭和三年勅令一二九號治安維持法改正ノ件(承諾ヲ求ムル件)委員會ニ於ケル泉二刑事局長ノ説明ニ現ハレタル立法者ノ意思及制定後ニ於ケル適用ノ實際ト日本共産黨ノ組織統制及活動トヲ批判考覈シ「結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シ

タル者」ニ該當スヘキ要件ヲ左ノ如ク嚴格ニ分析スル一、結社ノ目的ハ國體變革又ハ私有財産制度否認ニ存スルコト二、行爲ノ主體ハ未タ結社ノ加入者ニ非サルコト三、行爲ハ國體ノ變革又ハ私有財産制度ノ否認ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協議シ又ハ其ノ目的タル事項ノ實行ノ煽動ヲ爲スコト而モ之等ノ行爲カ主觀的客觀的ニ結社トノ具體的關連ニ於テ爲サレルコト(此ノ點ニ於テ新規定第一條第一項後段及第二項後段ハ舊規定第二條第三條ニ包含セラレタ實質的内容ヲ二分シ結社トノ關連ヲ缺ク行爲ヲ第二條第三條ニ該當スヘキモノトシテ改正ニ依テ第二條第三條ノ内容以上ノモノカ新ニ附加サレタモノテハナイ)四、行爲ノ主觀的要件ハ(1)斯ノ如キ目的ヲ有スル結社ノ存在ヲ認識スルコト(2)行爲者自身ニ於テ結社ノ目的ヲ自己ノ行爲ノ目的トスルコト(3)既存ノ結社其ノモノノ爲ニスル積極的意欲アルコト五、行爲ノ客觀的要件ハ(1)行爲カ結社ノ機關ノ統制指導ノ下ニ爲サレルコト(2)目的實現ニ對シテ客觀的具體的ニ因果關係ヲ認メ得ヘキコト而シテ此ノ結社カ日本共産黨ヲ指ス場合ニ於テハ行爲主體ハ未タ黨員ニ非サル者即チ加入行爲(加入ヲ欲スル意思表示ニ對シテ黨ノ側カラ黨規則ニ定メラレタル機關ヲ通シテ承諾ヲ與ヘルコトニ依テ成立スル契約的行爲)ヲ了セサル者ヲ意味スル行爲ノ實質タル黨ノ目的タル事項ノ實行ニ關スル協議トハ目的意思ヲ同シクスル二人以上ノ特定人カ特定ノ題材ノ下ニ(實行ノ方法場所時期又ハ實行ノ爲ニ要スル資金ノ調達方法等具的ニ實行ニ關スルコトヲ要ス)討論シ當事者間ニ意見ノ合致ヲ得タルコトヲ謂ヒ又目的タル事項ノ

實行ノ煽動トハ不特定且多數人ニ對シテ目的實行ノ方法手段ヲ具體的且直接的ニ指摘シ其ノ結果相手方ノ意思ヲ刺激シ實行ノ決意ヲ生シタルコトヲ謂ヒ單ナル黨名義ノビラ撒キ又ハレポーターノ如キハ之ニ該當セス又一定ノ事項ヲ單ニ公衆ニ告知傳達スル演說講義研究發表ノ如キ宣傳(又ハ流布)ハ含マナイモノテアル從テ共產黨ノ目的乃至ハ共產主義理論ヲ何等積極的ニ他人ニ強制スル意思ナクシテ不特定人ニ傳達解明スル行爲ハ之ニ該當シナイ而シテ協議及煽動カ既遂タルニハ現ニ其ノ目的實現ノ可能狀態ヲ具體的ニ現出シタルコトヲ客觀的ニ認メラルルコトヲ要シ單ニ抽象的ニノミ其ノ關係ヲ認メ得ル場合ヲ除外スルコトハ其ノ未遂ヲ罰スル規定アルニ依テモ明白テアル行爲ノ主觀的要件トシテ日本共產黨ノ存在ノ認識ハ單ニ存在ノ推定ヲハナクシテ確定的認識アルコトヲ要シ又共產黨ノ目的ヲ自己ノ行爲ノ目的トスル爲ニハ具體的ニ黨ノ目的ヲ知悉シタル上ナルコトヲ要シ更ニ黨其ノモノノ爲ニスル意欲ハ單ニ理論的ニ支持シ或ハ感情のニ共鳴スルコトニ非スシテ積極的ニ之ヲ實踐化スル意思アルコトヲ要スル行爲ノ客觀的要件トシテハ行爲者カ黨ノ統制ノ下ニ置カレ其ノ機關ニ依リ傳達サレタ指令ニ依テ行爲ノ爲サレルコトヲ要シ此ノ連絡ナクシテ自然發生的ニ爲サレル場合ハ此ノ規定ニ該當セス又行爲ハ黨ノ目的ノ實現ニ對シテ何等ノ具體的因果關係ヲ有セサル行爲例ヘハ日本共產黨ノ存在スル事實ノ告知又ハ日本共產黨トコムメンタルトノ關係ノ解說等ノ如キハ此ノ規定ニ依テ律セラレヘキモノテハナイ此ノ點ニ付第二條第三條ノ協議煽動以上ニ目的實現ニ對シテ具體的可能性ヲ具備

スルコトヲ要スルコトハ其ノ擬セラレル刑ノ比較ヨリ觀ルモ明テアル被告人ノ所爲ヲ以上ノ諸點ニ照シテ觀ルニ一件記録ニ現ハレタルトコロハ左ノ如クテアル一、被告人ハ曾テ治安維持法違反被告事件ニ付有罪ノ判決ヲ受ケタコトハアルカ當該確定判決ノ摘示スル通り其ノ當時ニ於テ未タ黨員ニ非ス又其ノ後ニ於テモ黨關係者ト何等ノ接觸ナキコトハ豫審調第三回第四問答ニ於ケル被告ノ其ノ旨ノ供述ニ依テ明テアル二、被告人ハ日本共產黨ノ存在ヲ知了スト雖共產黨檢舉ニ關スル新聞ノ報導及警官ヨリ聞知シタル事實並黨ノ活動ニ關スル無產者新聞其ノ他諸新聞ノ報導ニ基クモノテ具體的ニ黨文書ノ配布又ハ黨關係者ノ告知ニヨルモノテハナイ(豫審調第三回第三問答)三、被告人カ日本共產黨ノ目的トシテ供述セル所ノ十三ヶ條ノ行動綱領及二箇ノ中心スロトガンノ如キハ既ニ共產黨檢舉等ニ關スル新聞雜誌其ノ他ノ記事報導ニ依テ一般公著トナツテ居ル範圍ヲ出テス被告人ハ黨ノ目的ニ關シテ特別ニ深キ認識ヲ有スルモノト云フヲ得ス(豫審調第三回第二問答)而シテ被告人ハ黨ノ掲ケタスロトガンニ就テ必スシモ無條件ニ其ノ正當性ヲ確信シテ之ヲ自己ノ行爲ノ目的トスルモノニ非サルモノナルコトハ記録ノ各所ニ現ハレテ居ルカ特ニ豫審調第三回第七問答豫審第七回第一審第二審ニ於ケル最終ノ陳述並豫審判事ニ提出シタル感想録中其ノ旨ノ供述ニヨリ明テアル四、被告人カ判示第一事實無產者新聞及第二無產者新聞ノ取次頒布及判示第二事實大師堂ニ於テ五名ノ農村青年ニ對シテ爲シタル座談カ毫モ日本共產黨其ノモノノ爲ニセントスル積極的意欲ニ出ツルモノニ非サルコトハ被告人

カ豫審第一審及第二審ヲ通シテ極力主張シテ居ル所テアル即チ右新聞ノ取次頒布ハ藤田俊徳ヨリ依頼ヲ受ケ之ヲ引繼イタモノテ無産階級解放運動ニ對スル一資料トスル意思ヲ以テ解放運動ニ從事セル者又ハ同情者ニ交付シタルモノテアツテ日本共産黨ノ目的遂行ノ爲ニセントスルカ如キ深キ思慮ト積極的意欲ノナカツタコト豫ハ審第一回第二問答第二回第一問答第三回第一問答第十七問答第二十一問答第二十七問答第二十八問答第五回第一問答第五問答第十四問答第十六問答及第一審第二審公判ニ於ケル其ノ旨ノ供述(記録第九九一丁第九九五丁第九九六丁第一〇九二丁)各審ニ於ケル被告ノ最終陳述及感想録ニ現ハレテ居ル又大師堂ニ於ケル座談會ニ臨ンタ動機ハ單純ニ招待ニ應シテ雜談スルト云フ以外ニ他意ナカツタコトハ豫審調第七回ニ於ケル供述第一審第二審ニ於ケル供述(特ニ記録一〇〇七丁)各審ニ於ケル最終陳述及感想録ニ明テアル五、被告人ニ日本共産黨ニ對シテ何等ノ組織的關連ナク又直接ニモ間接ニモ黨機關ヨリノ統制指揮ヲ受ケテ居タモノテナイコトハ一件記録ニ明白テアツテ新聞ノ送付ヲ受ケテ居タ東京市麴町區三番町戰旗社ハ純然タル雜誌「戰旗」ノ發行所ニシテ合法的ニ存在シ日本共産黨ト何等ノ關係ナク又被告ハ自己ノ發意ニ依テ送付ヲ受ケタ新聞ヲ自己ノ知レル無産階級運動者間ニ頒布シタモノテアリ又大師堂ノ會合カ農村青年ノ招待ヲ受ケタルモノテ全ク日本共産黨ト無關連ナルコトハ疑ヲ挿ム餘地ナキノミナラス被告人自身ニ於テ右新聞カ日本共産黨ト如何ナル關係ニアルカヲスラ理解シテ居ナカツタコトモ明白テアル(豫審調第五回第十六問答)此ノ點ニ於テ被告人

ノ所爲ハ共産黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲タルノ客觀的要件ノ一ヲ欠缺スルモノテアル六、最後ニ被告人ノ判示所爲ハ黨ノ目的實現ニ對シテ客觀的ニ何等ノ具體的因果關係ヲ及ホササルモノテアル今日ニ於テ日本共産黨ハ其ノ存在ヲ一般ニ知悉サレ公然ト論議ノ對象トセラレテ居ル問題テアツテ之ニ關スル記事ヲ掲載スル新聞ヲ頒布スルモノソレカ直ニ共産黨ノ目的實行ノ煽動行爲ト認メラルヘキモノテナイ又座談會ノ如キモ其ノ内容ハ未知ノ青年數人ニ對シ不景氣問題戰爭問題金解禁問題資本主義經濟組織ノ矛盾等ニ關シテ互ニ論議シタルニ止マリ偶話題カ日本共産黨ニ及ンタト云フ迄テアツテ具體的ニ日本共産黨ノ目的實行ノ爲ノ協議ト認メラルヘキモノテナイコトハ其ノ當時ノ談話ノ内容ニ關スル被告人ノ供述及證人恒次光高萬波文二徳長茂三衛廣瀬多市ノ豫審調ニ於ケル供述ニ依テ明白テアル此ノ座談會ニ會合セル人物ハ豫審調書ニ明ナル如ク僅ニ文藝雜誌「戰旗」ノ讀者ニ過キス其ノ意識水準極メテ低ク農民運動ニ多少ノ興味ヲ有セシ程度ノモノニシテ而モ全部被告人ニ未知テアツテ被告人カ斯ル會合者ニ對シ日本共産黨ノ爲ニ積極的ニ活動スヘキモノナル旨ノ運動ヲ爲スカ如キコトハ常識ヲ以テ考フヘカラサルコトテアル以上ノ判示ニ所爲ハ性質上日本共産黨ノ目的實現ニ對シ何等ノ因果關係ヲ認メ得サルノミナラス被告人ノ因果關係ニ對スル認識ニ於テモ亦新聞頒布ヲ受ケ又ハ被告人ノ談話ヲ聽取シタル者ニ對シテ及ホシタル影響ヨリ見ルモ共産黨目的遂行ノ促進ヲ結果シタモノトハ認メラレナイ(記録九九四丁九九五丁一〇〇七丁一〇九二丁)及各審ニ於ケル最終陳述並感想録證人

恒次ニ對スル豫審調第二十二問答同萬波十三問答同徳長第十一問答) 被告人ノ行爲ハ以上ノ如ク治安維持法第一條第一項後段及第二項後段ニ該當スヘキ主觀的客觀的の要件ヲ缺キ斷シテ同法條ヲ以テ處斷スヘキモノニ非スシテ該法條ハ嚴格ニ日本共產黨ニ對シテ具體的直接的の關連ニ立ツ準黨員又ハ黨員候補者ニ對シテノミ適用サルヘキモノテアル本件被告人ノ如ク合法的第二無產者新聞ノ配付及農村青年ニ對シテ農民運動ノ煽動ヲ爲シタル者ニ對シ漫然治安維持法第一條第一項後段及第二項ヲ適用シタル原判決ハ斷然不當ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノテアリマスト云フニ在レトモ○苟モ國體ノ變革又ハ私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社ノ存在スルコトヲ知リ該結社ヲ支持シ其ノ擴大強化ヲ圖ル行爲ヲ爲シタル者ハ同結社ト組織關係ヲ有セス又ハ其ノ機關ノ統制指揮ヲ受クルコトナキモ治安維持法第一條ノ所謂結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ニ該當スルモノトス蓋シ結社ヲ支持シ其ノ擴大強化ヲ圖ル行爲ハ畢竟結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ニ外ナラサレハナリ本件ニ付原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告人雅雄ハ日本共產黨カ露西亞ニ於ケル國際共產黨ノ一部トシテ我國ニ於テ秘密ニ組織セラレ我立國ノ大本タル立憲君主制ヲ廢止シ私有財産制度ヲ撤廢スルコトヲ目的トスル結社トシテ存在シ活動スルコトヲ知リ同黨ヲ支持シ其ノ擴大強化ヲ圖ラント決意シ第一、無產者新聞及第二無產者新聞カ執レモ日本共產黨指導ノ下ニ同黨ノ政策ヲ大衆ノ間ニ煽動シ其ノ擴大強化ヲ圖ル目的ヲ以テ發行セラレ其ノ目的ニ副フ記事ヲ掲載セルコトヲ知悉シ之ヲ取寄セ而モ無產者新聞ノ第二號乃至

【要旨】

第四號及第六號ハ內務大臣ヨリ安寧秩序ヲ紊スモノトシ發賣頒布ヲ禁止セラレタルコトヲ確知シナカラ之ヲ藤田俊徳 堺好明 伊藤敏雄 長門錠一等ニ頒布シ第二、岡山縣和氣郡本莊村大字日室ノ山腹ニ在ル大師堂ニ於テ無產運動ニ興味ヲ有スル恒次光高外四名ト荻野ナル偽名ヲ以テ密會シ無產階級ノ解放ハ日本共產黨ノ力ニ依ルノ外ナシ諸君ハ日本共產黨ヲ支持シ其ノ指導ノ下ニ活動シテ無產階級ノ解放ヲ期シ又階級意識ヲ高メ農民組合労働組合ヲ組織シ團體ノ力ニ依リ無產運動ヲ起スヘキ旨ヲ説示シ以テ日本共產黨ノ存在及活動ヲ知了セシムルト共ニ同黨ニ共鳴シ之ヲ支持スヘキ旨ヲ宣傳煽動シタリト云フニ在ルヲ以テ被告人雅雄ハ日本共產黨カ我國立憲君主制ノ廢止即チ國體ノ變革及私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社トシテ存在活動スルコトヲ知リ同黨ヲ支持シ其ノ擴大強化ヲ圖ル行爲ヲ爲シタルモノナルコトヲ識ルニ足リ右判示事實ハ其ノ舉示セル證據ニ依リ裕ニ之ヲ認ムルニ足リ記錄及證據ヲ精査スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認メ難キヲ以テ原判決カ被告人雅雄ヲ國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認スル結社タル日本共產黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者トシテ治安維持法第一條第一項後段及同條第二項ヲ適用處斷シタルハ相當ナリト謂フヘク論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事宮城長五郎關與

○警察犯處罰令違反被告事件(昭和五年(九)第一六四〇號 棄却)

【上告人】 被告人 磯野滋雄 辯護人 鹽田親雄

【第一審】 金澤區裁判所 【第二審】 金澤地方裁判所

○判示事項

喧嘩行爲ト警察犯處罰令第二條第十一號

○判決要旨

街路ニ於ケル喧嘩行爲ハ警察官ノ退去又ハ禁止ノ命ナキ以上個人行爲タルト團體行爲タルヲ問ハス警察犯處罰令第二條第十一號ノ適用アルモノトス

【參照】 警察犯處罰令第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二

十圓未滿ノ科料ニ處ス

十一 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧嘩シ、横臥シ又ハ泥酔シテ徘徊シル者治安警察法第十二條 集會又ハ多衆運動ノ場合ニ於テ放ラニ喧擾シ又ハ狂暴ニ渉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ現場ヨリ退去セシムルコトヲ得

同法第十六條 街頭其ノ他公衆ノ自由ニ交通スルコトヲ得ル場所ニ於テ文書、圖畫、詩歌ノ揭示、頒布、朗讀若ハ放吟又ハ言語形容其ノ他ノ作爲ヲ爲シ其ノ狀況安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ警察官ニ於テ禁止ヲ命スルコトヲ得

同法第二十六條 第十二條ニ依リ退去ヲ命セラレタル後仍退去セサル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
同法第二十九條 第十六條ノ禁止ノ命ニ違背シタル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

原審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法令ノ適用ヲ爲シ左記ノ如ク判決ヲ爲シタリ
被告人ハ昭和五年四月十三日午後十時頃金澤市尻垂坂通り街路ニ於テ藤田長作等ト共ニ喧嘩シタリ
法律ニ照スニ被告人ノ右所爲ハ警察犯處罰令第二條第十一號ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中拘留刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ拘留十五日ニ處シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項

喧嘩行爲ト警察犯處罰令第二條第十一號

第二百三十八條ニ依リ被告人及原審相被告人藤田長作ノ連帶負擔タルヘキモノトス

○理 由

辯護人鹽田親雄上告趣意書第一點原判決ハ理由不備若クハ擬律錯誤ノ違法アルモノト信ス原判決ハ被告人ノ行爲ヲ警察犯處罰令第二條第十一號ヲ以テ處斷シタルモ該法條ハ一個人ノ喧噪行爲ヲ處罰スヘキ規定ニシテ團體的若クハ多衆一團ト爲リテ行動シタル場合ニハ之カ適用ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ然ルニ原判決ノ冒頭ニ被告人ハ昭和五年四月十三日午後十時頃金澤市尻垂坂通り街路ニ於テ藤田長作等ト共ニ喧噪シタリト判示シナカラ其ノ證據理由ニハ被告人ノ供述トシテ「判示ノ日時判示ノ場所ヲ百名許リノ群衆カ走り居リテ其ノ群衆中ニハ或ハ手ヲ組メルモノ或ハ掛聲ヲナセル者モアリ誰レカカ私ニモ其ノ内ヘ這入り吳レト云ヒシ故私モ列ノ中程ニ這入り裁判所前ヘ來ル頃藤田長作ノ肩ヲ借りテ走り居タリ云々及原審第二回公判調書中證人森貫一郎ノ供述トシテ判示ノ日鮮人二百數十名カ一緒ニ横山鑛業部前カラワツシヨワツシヨト二人宛腕ヲ組ミテ裁判所前ノ方ヘ歩キ被告人及藤田長作ノ二人亦腕ヲ組ミワツシヨワツシヨト掛聲シテ右群衆ト共ニ歩キタル旨ノ記載ヲ綜合シテ之ヲ認ム」トアリ此ノ證據説明ニ據ルトキハ被告人ノ行爲ハ其ノ當時ノ環境其ノ他ヲ參酌考察スルモ一貫團體的ノ行動トシテ爲シタルコト明ニシテ個人的喧噪ノ行爲ナルヲ認ムルニ難シ凡ソ斯ノ如キ多數者ノ隊伍ニ列シ居ル場合其ノ各自ノ行動ノ態樣形式カ同一ノモノナル以上ハ之ヲ團體的行爲ト見做スヘク隊列中ノ

一人ノ行爲ノミヲ切離シ之ヲ個人的行爲トシテ見ルヲ得サルヘク斯ノ如キ團體的行爲ニ對シテハ特ニ之ニ適用スヘク設ケラレタル多數人ノ運動ヲ取締ルヘキ治安警察法ヲ適用スルハ格別個人ノ喧噪所爲ヲ取締ル可キ警察犯處罰令第二條第十一號ヲ適用スルハ誤リニシテ法律ノ精神ニモ反ス若シ夫レ被告人カ團體行爲ト全然離レテ警察犯處罰令ニ違反スル行爲ヲ爲シタルモノトモハ須ラク之カ理由ヲ附シ證據ヲ舉示セサルヘカラサルニ事茲ニ出テサリシハ理由不備ノ違法アルモノト信スト謂フニ在レトモ

○警察犯處罰令第二條第十一號ハ公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シタル者ヲ處罰スルモノニシテ右喧噪行爲カ個人單獨ノ行爲ナルト團體的ニ又ハ多數一團ト爲ツテ爲サレタルトヲ問フコトナシ唯若シ右ノ如キ喧噪行爲カ多衆運動ニ際シテ爲サレ其ノ態樣ニ於テ安寧秩序ヲ紊ス程度ニ及ヒ且警察官ノ制止ヲ受ケテ之ニ從ハサルニ於テハ之ニ對シ治安警察法第十二條第二十六條ノ適用アルヘク又若シ右行爲カ文書詩歌ノ朗讀放吟其ノ他ノ作爲ニ依リテ一定ノ意思表示ヲ爲スヲ内容トシ其ノ態樣ニ於テ安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スル程度ニ及ヒ且警察官ノ禁止命令ヲ受ケテ之ニ違背スルニ於テハ之ニ對シ治安警察法第十六條第二十九條ノ適用アルヘシト雖右ノ各要件ヲ具ヘサル喧噪行爲ニ對シテハ前記警察犯處罰令ノ規定ノ適用アルモノト謂ハサルヘカラス今原判決カ證據ニ依リテ認定シタル事實ハ被告人ハ昭和五年四月十三日午後十時頃金澤市尻垂坂通り街路ニ於テ藤田長作等ト共ニワツシヨワツシヨト掛聲ヲ爲シ喧噪シタリト謂フニ止マルヲ以テ右ノ行爲ニ對シテハ前記警察犯處罰令第二條第

十一號ノ規定ノ適用アルヘキモノニシテ前記治安警察法ノ各規定ノ適用アルヘカラサルヤ明ナリ果シテ然ラハ原判決カ被告人ノ本件行爲ニ付右警察犯處罰令ノ規定ヲ以テ間擬シタルハ正當ニシテ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事宮城長五郎關與

○常習賭博被告事件(昭和五年(九)第一六六一號 棄却)

(昭和五年十一月二十五日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 布施榮次郎 辯護人

佐々木廣副宣
武村高
遠藤利一
赤岡山幸夫
岡本喜賢

【第一審】 魚津區裁判所 【第二審】 富山地方裁判所

○判示事項

公訴時効完成ノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項

○判決要旨

公訴ノ時効完成シタリトノ主張ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ主張ニ該當セス

【参照】 刑事訴訟法第三百六十條 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ
法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ
刑法第八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス
同法第八十六條第一項 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第八十六條第一項ヲ適用シテ被告人布施榮次郎ヲ懲役六月被告人神保時平ヲ懲役四月被告人堀田收作 森内菊次郎ヲ各懲役二月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人四名ハ孰レモ賭博常習ノ習癖アルモノナルトコロ被告人森内菊次郎ハ昭和四年一月頃ヨリ其ノ

公訴時効完成ノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項

他ノ被告人ハ何レモ同年三月七日頃ヨリ被告人堀田收作ハ同年五月迄其ノ他ノ被告人ハ何レモ同年六月頃迄ノ間富山縣下新川郡三日市町大字三日市二千九百四十四番地被告人神保時平方外數箇所ニ於テ被告人布施榮次郎ハ約十一度被告人時平ハ約十度被告人收作ハ約七度被告人菊次郎ハ約十七度ニ互リ毎度數回被告人等外數名ト共ニ天朱骨牌(赤青チボ玉各名稱ノモノ各十二枚十二月ニ分ル外ニ鬼札一枚アリ)ヲ使用シ俗ニ「チボ玉」ト稱シ骨牌四十九枚ノ内鬼札一枚及十二月ノ札四枚ヲ除キ赤青チボ玉ノ各二月ノ札ヲ場ニ表ハシ置キ胴元ハ其ノ餘ノ四十枚ヲ適宜ニ四分シ一列ニ四ヶ所ニ重ネテ伏セ張手ハ場札四枚ノ内任意ノ札ニ對シテ金錢ヲ賭シ胴元ハ伏セ札ノ最下ニ在ルモノヲ右ヨリ順次起シテ其ノ名稱カ場札ノ名稱ト符合スルトキハ其ノ場札ニ張リタル張子ノ勝ト爲シ胴元ヨリ其ノ場札ニ賭シタル金額ノ三倍ヲ受取り其ノ他ノ者ヲ賭ト爲シ賭金全部ヲ胴元ノ所得ト爲シテ勝負ヲ決ス尙胴元ハ毎回張子ヨリ附目ト稱スル一枚ノ與ヘラレタル札(伏セ札ノ内最下ニ在ルモノヲ除キタル爾餘ノ札ノ内ヨリ與ヘラル)ヨリモ月數一月多キ伏セ札起キタルトキハ場札ト符合スルト否トヲ論セス場札全體ニ張ラレタル賭金全部ヲ取得スル方法ニ依リ一回一人ニテ普通一圓乃至十圓ヲ賭シ一日ノ勝負高合計少クトモ三百圓乃至千圓ニ達スル賭博ヲ爲シタルモノナリ

記録ニ依レハ本案被告事件ニ付檢事ハ被告人四名ニ對シ各常習賭博ノ犯罪事實ヲ摘示シテ昭和五年四月二十二日公訴ヲ提起シ第二審公判ニ於テ被告人時平辯護人ハ同被告人ハ賭博常習者ニ非ス本件賭博

ハ通常賭博ナルヲ以テ公訴ノ時効完成シタルニヨリ免訴ノ言渡アルヘキモノナル旨主張シタルカ第二審ハ證據ニ依リ常習賭博ノ事實ヲ認定シタルモ判文中特ニ右辯護人ノ主張ニ對スル説明ヲ與ヘス

○理由

被告人時平辯護人佐々木廣宣上告趣意書第二點原判決ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ違背スルモノトス原審公判調書ヲ閱スルニ被告人ノ辯護人ハ被告人時平ハ賭博常習者ニ非ス本件賭博ハ單純賭博ナルヲ以テ公訴時効完成シタル故免訴ノ言渡アルヘキ旨主張シタルコトハ同公判調書第四〇三丁ノ記載ニ徴シ明白ナリトス仍テ原判決ニ於テハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ規定ニ依リ辯護人ノ此ノ主張ニ對シ相當ノ判斷ヲ與ヘサルヘカラサルモノナリトス然ルニ此ノ主張ニ對シ何等ノ判斷ヲ與ヘサル原判決ハ前記法條ノ規定ニ違背シ刑事訴訟法第四百十條第二十號ニ依リ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ○原判決ハ既ニ被告人ノ行爲ヲ常習賭博ノ行爲トシテ認定シ之カ判示ヲ爲シタルヲ以テ所論辯護人ノ主張ハ自ラ之ヲ排斥シ該主張ニ對スル判斷ヲ示シタルモノト云フコトヲ得ヘキノミナラス常習賭博ノ行爲アリトシテ訴追セラレタル被告事件ニ付被告人ノ賭博常習者ニ非サルコトヲ主張シ從テ單純賭博罪トシテハ既ニ公訴ノ時効完成セルヲ以テ免訴ノ言渡アルヘキモノナリト主張スルハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ事由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張ニ該當セサルヲ以テ論旨ハ其ノ理由ナシ

被告人榮次郎辯護人赤井幸夫上告趣意書第三點原判決ハ昭和五年四月二十八日附申島榮作ニ對スル檢事廳取書ヲ罪證ニ供シタリ然レトモ右ハ本件ニ付既ニ公訴ノ提起アリ且ツ第一回ノ公判開廷後ニ於テ檢事カ同人ヲ取調ヘタル上作成シタルモノニ係ル然レトモ公訴提起後檢事ハ事件ニ付取調ヲ要スル證人等アラハ其ノ喚問ヲ裁判所ニ請求スヘキモノニシテ自ラ之ヲ喚問取調ヘテ爲スカ如キハ違法裁權ノ處分ナリ從テ斯ル處分トシテ作成セラレタル前示廳取書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ○檢事ハ公訴提起ノ前後ヲ問ハス捜査權ヲ有スルモノナルヲ以テ公訴提起後檢事ノ作成シタル廳取書ト雖之ヲ罪證ニ供スルコトヲ妨ケス然ラハ原判決カ所論廳取書ヲ本件ノ斷罪ノ資料ニ供シタルハ正當ニシテ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事矢追秀作關與

○建造物損壞家宅侵入被告事件(昭和五年(九)第一六二〇號
同年十一月二十七日第五刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 松本桂一 辯護人 小林龜郎
小野富雄

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

刑法第二百六十條ニ所謂建造物ノ損壞

○判決要旨

建造物ヲ移動シ其ノ用方ニ從ヒ使用スルコト能ハサル状態ニ至ラシムルコトハ刑法第二百六十條ニ所謂建造物ノ損壞ニ該當ス

【參照】 刑法第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役

ニ處ス因テ人ヲ死傷シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

同法第三百十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅建造物若クハ艦船ニ侵入シ

又ハ要求ヲ受ケテ其ノ場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ

罰金ニ處ス

○事實

原審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三月ニ處シ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ宣告シタリ

被告人ハ建築請負業小田末吉ニ被雇其ノ工事現場監督ニ從事シタルモノナルトコト豫テ小田末吉カ松崎伊三郎ヨリ請負ヒタル東京府北豐島郡瀧野川町田端四百八十番地女子庭訓學校舍建築工事ノ現場

刑法第二百六十條ニ所謂建造物ノ損壞

監督トシテ右工事ニ携ルニ當リ右敷地内ニアリタル松崎伊三郎所有ニ係リ同人ノ賃借人タル石川三龜同田中佳哉ノ居住セル家屋二棟カ工事進捗ノ妨ケトナレルトコロヨリ被告人ハ恣ニ強制的ニ右石川居住家屋ヲ移動セシメ田中居住家屋ノ一部ヲ無斷切取り以テ右家屋二棟ヲ損壞セント企テ

第一 昭和四年二月二日右石川三龜方現場ニ於テ情ヲ知ラサル人夫七八名ヲ指揮シテ故ナク前記番地所在石川三龜方邸内ニ侵入セシメ同人等ノ手ニ依リ同邸内ナル右石川居住家屋ノ南側床下見板土臺等ヲ取外シテ右家屋ヲ地上ヨリ三尺位持上ケシメ次テ翌三日同様人夫八名位ヲ指揮シテ故ナク同邸内ニ侵入セシメ同人等ノ手ニ依リ同家屋ヲ家人居住ノ儘定著地點ヨリ東南ニ約十數間移動セシメテ以テ之ヲ損壞シ

第二 同月十七日頃前同様人夫數名ヲ指揮シテ同人等ヲシテ同番地所在田中佳哉居住ノ家屋ノ一部ヲ構成シ居リタル南側軒先ノ木造露除ケ六尺二箇所ヲ取毀テ以テ右家屋ヲ損壞シ

タルモノニシテ右ノ所爲ノ中邸宅侵入竝建造物損壞ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリニ法律ニ照スニ被告人ノ判示邸宅侵入ノ所爲ハ刑法第三百三十條第五十五條ニ判示建造物損壞ノ所爲ハ同法第二百六十條第五十五條ニ各該當スルトコロ右侵入ト損壞トハ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ重キ損壞罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月ニ處スヘキ處被告人ニ對シテハ刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀アリト認め同法第二十五條ニ則リ三年間右刑

ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

○理由

辯護人小林龜郎小野富雄上告趣意書第六點刑法第二百六十條ニ所謂建造物ノ損壞トハ建造物ヲ物質的ニ損壞セサルヘカラス單ニ其ノ場所ヲ移轉スルカ如キハ刑法上之ヲ損壞ト稱スルコト能ハサルヤ勿論ナリ而シテ原判決ノ認メタル第一ノ犯罪行爲ハ石川三龜居住家屋ヲ同人居住ノ儘南方へ十數間移動シタリト云フニ在リテ其ノ移動ノ結果右家屋ハ何等ノ損傷ヲ生シタルモノニアラサルコトハ檢事ノ實況見分書ニヨリ洵ニ明白ニシテ斯ル事實ニ對シ刑法第二百六十條ヲ適用シ得ヘキ限リニアラス然ルニ原判決ハ此ノ罪トナラサル事實ニ對シテ有罪ヲ斷シタルハ不法ナリト謂フニ在レトモ○刑法第二百六十條ニ所謂損壞トハ物質的ニ建造物又ハ艦船ノ形態ヲ變更又ハ滅盡セシムル場合ノミナラス事實上建造物艦船ヲ其ノ用方ニ從ヒ使用スルコト能ハサル狀態ニ至ラシメタル場合ヲ包含スルモノト解スルヲ相當トス今本件ニ於テ所論ノ點ニ付原判決カ證據ニ依リテ認定シタルトコロハ石川三龜居住家屋南側床下見板土臺石等ヲ取外シテ右家屋ヲ地上ヨリ三尺位持上ケ其ノ翌日同家屋ヲ家人居住ノ儘其ノ定著地點ヨリ東南約十數間移動セシメタリト謂フニ在ルヲ以テ右家屋ヲ三尺位持上ケ置キタル行爲竝家人居住ノ儘從來ノ定著地點ヨリ約十數間移動セシメタル行爲ハ取りモ直サス其ノ間事實上該建造物ヲ其ノ用方ニ從ヒ使用スルコト能ハサル狀態ニ至ラシメタルモノニ外ナラスト謂フヘク原審カ右行爲ヲ刑

法第二百六十條ニ問擬シタルハ正當ナリ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事松井和義關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和五年(九)第一四九四號 棄却)
(同年十一月二十八日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 武田十苗 辯護人 則元卯太郎

【第一審】 長崎地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

衆議院議員選舉法第一百一條ノ選舉運動費用

○判決要旨

衆議院議員選舉法第一百一條ノ選舉運動ノ費用トハ適法ナル選舉運

動ニ付要スル費用ヲ指稱スルモノトス

【參照】 衆議院議員選舉法第一百一條 立候補準備ノ爲ニ要スル費用ヲ除クノ外選舉運動ノ費用ハ選舉事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス但シ議員候補者、選舉委員又ハ選舉事務員ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ妨ケス
議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ハ選舉運動ノ費用ヲ支出スルコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ノ費用ハ此ノ限ニ在ラス
同法第二百二條 選舉運動ノ費用ハ議員候補者一人ニ付左ノ各號ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ選舉人名簿確定ノ日ニ於テ之ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ四十錢ニ乘シテ得タル額
 - 二 選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行フ場合ニ於テハ選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ選舉人名簿確定ノ日ニ於テ關係區域ノ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ四十錢ニ乘シテ得タル額
 - 三 第三十七條ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ前號ノ規定ニ準シテ算出シタル額但シ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)必要アリト認ムルトキハ之ヲ減額スルコトヲ得
- 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ選舉ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル後直ニ前項ノ規定ニ依ル額ヲ告示スヘシ
- 衆議院議員選舉法第一百一條ノ選舉運動費用

同法第百五條 選舉事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帳簿ヲ備ヘ之ニ選舉運動ノ費用ヲ記載スヘシ

同法第百六條 選舉事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ選舉運動ノ費用ヲ精算シ選舉ノ期日ヨリ十四日以内ニ第八十八條第五項ノ届出アリタル警察官署ヲ經テ地方長官

(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ届出ツヘシ

地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ前項ノ規定ニ依リ届出アリタル選舉運動ノ費用ヲ告示スヘシ

同法第百三十四條 第百一條ノ規定ニ違反シテ選舉運動ノ費用ヲ支出シタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

同法第百三十五條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第百五條ノ規定ニ違反シテ帳簿ヲ備ヘス又ハ帳簿ニ記載ヲ爲サス若ハ之ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタルトキ

二 第百六條第一項ノ届出ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ禁錮一月ニ處シ未決勾留日數中十日ヲ本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ豫テ原審共同被告人馬場博人 馬場牧男 寺田精 茂次郎太ノ四名ト親交アリ相共ニ居村南串

山村ニ於テ土曜會ナル團體ヲ作り村治ニ關シ常ニ同一行動ヲ執リ來リタルカ昭和五年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ右居村ヲ包括スル長崎縣第二區ヨリ則元由庸ノ立候補ヲ見タルモ其ノ形勢危シト聞クヤ前記博人 牧男 精 次郎太ト同様該選舉ニ付テハ法定ノ選舉運動者ニアラサルニモ拘ラス同月十六日被告人ノ肩書住居ニ前記博人 牧男 次郎太 精ト會合ノ上右則元候補ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ自己等ノ組織スル南串山村農產物生産組合ニ屬スル組合員二百數十名ハ勿論其ノ他ニ於テ尙約百票ノ投票ヲ蒐集センコトヲ畫策シ之カ方法トシテハ各自其ノ緣故ヲ辿リテ投票ノ獲得方ヲ依頼スヘク但シ其ノ内投票勸誘ニ付金員ノ供與ヲ要スル者ニ對シテハ一票一圓位ノ割合ニテ買収スヘキコトヲ共謀シ之ニ基キテ

(一) 被告人自ラ同夜其ノ肩書住居ニ於テ前記牧男等ト共ニ三木六三郎ニ對シ右候補者ノ爲同村田ノ平方面ニ於ケル投票蒐集方ヲ依頼シテ其ノ承諾ヲ得タルニ依リ同月十八日頃右住居ニ於テ被告人ヨリ六三郎ニ對シ投票買収資金並其ノ運動ノ報酬トシテ金四十五圓ヲ供與シ

(二) 同月十八日頃前記精 次郎太ノ兩名ニ於テ居村増田鐵十 田中繁三郎ヲ介シ同村選舉人酒井瀧 松 吉田留五郎 平野好造ニ對シ各其ノ居村ニ於テ右候補者ニ投票方依頼ヲ爲スト同時ニ之カ投票報酬ニ對スル金員供與ノ申込ヲ爲シ

(三) 被告人自ラ同月十七日頃居村板引ナル生産組合倉庫ニ於テ右生産組合員ナル馬場重忠及石田善市

ノ兩名ヲ介シ同村下鬼塚部落ノ選舉人山村末繁 本村彌三郎ニ對シ其ノ投票方ヲ依頼シ其ノ投票ノ對價トシテ金員供與ノ申込ヲ爲シ

(四) 被告人ハ前記馬場博人ト共ニ同月十八日被告人ノ前記住居ニ於テ法定ノ選舉運動者ニアサル本田保及福田万龜ノ兩名ニ對シ右同村溜水方面ニ於ケル投票ノ蒐集方依頼ヲ爲シ其ノ承諾ヲ得タルヲ以テ即座ニ之カ運動ノ報酬及買収金トシテ金四十一圓ヲ供與シ

(五) 前記牧男ニ於テ同月十八日居村ニ於テ原審共同被告人三宅喜代太郎ニ對シテ右則元候補ノ爲同村加例川方面ニ於ケル投票蒐集方依頼ヲ爲シ

タルモノニシテ金錢供與及其ノ申込ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中無資格選舉運動ノ點ハ衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條刑法第六十條ニ判示(一)及(四)ノ選舉運動者ニ金錢ノ供與ヲ爲シタル點判示(二)及(三)ノ選舉人ニ對シ金錢ノ供與スルノ申込ヲ爲シタル點ハ右選舉法第一百十二條第一號刑法第五十五條第六十條ニ各該當スル處右(一)乃至(四)ノ無資格選舉運動ノ點ト選舉人又ハ選舉運動者ニ金錢ヲ供與シ若ハ其ノ申込ヲ爲シタル點ハ夫々一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルニ依リ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ選舉運動者ニ金錢ヲ供與シタル罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ該刑期範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷シ刑法第二十一條ニ依リ主文掲記ノ如ク未決勾留日數ヲ本刑ニ算入スヘキモノトス

○ 理 由

辯護人則元卯太郎上告趣意書原判決ハ其ノ犯罪事實ニ付「被告人ハ…法定ノ選舉運動者ニアラサルニモ拘ラス…(一)被告人自ラ同夜其ノ肩書住居ニ於テ前記牧男等ト共ニ三木六三郎ニ對シ右候補者ノ爲同村田ノ平方面ニ於ケル投票蒐集方ヲ依頼シテ其ノ承諾ヲ得タルニ依リ同月十八日頃右住居ニ於テ被告人ヨリ六三郎ニ對シ投票買収金並其ノ運動ノ報酬トシテ金四十五圓ヲ供與シ…(四)被告人ハ前記馬場博人ト共ニ同月十八日被告人ノ前記住居ニ於テ法定ノ選舉運動者ニアラサル本田保及福田万龜ノ兩名ニ對シ右同村溜水方面ニ於ケル投票ノ蒐集方依頼ヲ爲シ其ノ承諾ヲ得タルヲ以テ即座ニ之カ運動ノ報酬及買収金トシテ金四十一圓ヲ供與シト判示シ又法律ノ適用ニ付「法律ニ照ラスニ被告人ノ判示所爲中無資格選舉運動ノ點ハ衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條刑法第六十條ニ判示(一)及(四)ノ選舉運動者ニ金錢ノ供與ヲ爲シタル點…ハ右選舉法第一百十二條第一號刑法第五十五條第六十條ニ各該當スル所右(一)乃至(四)ノ無資格選舉運動ノ點ト選舉人又ハ選舉運動者ニ金錢ヲ供與シ若ハ其ノ申込ヲ爲シタル點ハ夫々一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルニ依リ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ右選舉運動者ニ金錢ヲ供與シタル罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ該刑期範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷シ刑法第二十一條ニ依リ主文掲記ノ如ク未決勾留日數ヲ本刑ニ算入スヘキモノトス」ト判示セリ而シテ被告人ハ右判定ノ如ク選舉運動者ニアラスシテ投票

買收金並其ノ運動報酬金ヲ供與シタルモノニシテ其ノ投票買收金並報酬金ハ衆議院議員選舉法ニ所謂選舉費用ニ外ナラスシテ又被告ハ選舉事務長ニアラサルコト明白ナレハ右判示事實ニ付擬律スルニハ衆議院議員選舉法第百一條及第三百四條ヲ適用スヘキニ拘ラス之ヲ爲ササリシハ判決ニ依リ定マリタル被告事件ノ事實ニ付法律ヲ適用セサル不法アルモノト信スト云フニ在リ○按スルニ衆議院議員選舉法第百五條第百六條ニ依レハ選舉事務長ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ選舉運動ノ費用ヲ記載シ又其ノ費用ヲ精算シ法定ノ期間内ニ警察官署ヲ經テ之ヲ地方長官ニ届出ツルヲ要シ之ニ違反スルトキハ同法第百三十五條ノ制裁ヲ受ケサルヘカラス然レハ若選舉運動ノ費用中所論ノ如ク投票買收費並運動報酬等不適法ナル選舉運動ノ費用ヲ包含スト解センカ法カ敍上ノ制裁ヲ設ケテ選舉事務長ニ同法第百五條第百六條等ノ義務ヲ要求スルハ實ニ難ヲ強ユルモノト謂フヘク若又所論ノ如クセンカ法カ各候補者ニ均等ノ運動ヲ許容スル趣旨ノ下ニ同法第百二條ノ定ムル費用額ノ算定方法ハ何ヲ基準トシタルヤ之ヲ解スルニ苦マサルヲ得ス然リ然ラハ敍上各法條ノ所謂選舉運動ノ費用トハ同法カ設ケタル運動方法ノ制限内ニ於ケル適法ノ選舉運動ニ付當然要スルトコロノ費用ヲ指稱スト解スルヲ妥當トス而シテ同法第百一條ノ選舉運動ノ費用モ亦之ト異ナルヘキ理由アルコトナク原判決ノ認定事實ハ論旨所掲ノ如クニシテ被告人ハ法定ノ選舉運動者ニアラスシテ判示六三郎保万龜ニ對シ投票買收費並運動ノ報酬金ヲ供與シタリト云フニ在リテ右金員ハ適法ナル運動費用ト爲スヘキニ非サレハ之ヲ以テ同法第百一條カ禁止

【要旨】

スル選舉運動ノ費用ノ支出ナリト謂フヘカラス然レハ原判決カ同法第百三十四條ヲ適用セサリシハ相當ニシテ論旨ハ其ノ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事溝淵孝雄關與

○強盜殺人放火竊盜未遂死體損壞建造物損壞住居侵入被告事件

(昭和五年(九)第一五七八號 同年十一月二十二日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 三井 旭 辯護人

大布 施長
小森 証
河合 茶
市原 統
馬平 夫 治

【第一審】 甲府地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

住居侵入ト放火トノ關係

○判決要旨

住居ニ侵入シテ放火ヲ爲シタル行爲ハ刑法第五十四條ニ所謂手段結果ノ關係アルモノトス

住居侵入ト放火トノ關係

【參照】 刑法第五十四條 一箇ノ行為ニシテ數箇ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行為ニシテ他ノ罪名ニ觸レルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

同法第百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

同法第百九條 火ヲ放チ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ艦坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

○ 事 實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實、認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ死刑ニ處シ訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トストノ判決ヲ言渡シタリ

被告人ハ昭和三年六月中山梨縣北巨摩郡下條村小澤儀一郎二女小澤國子ト内縁ノ夫婦關係ヲ結ヒ同棲スルニ至リタルカ性來怠惰ニシテ永ク一定ノ職ニ止ラス徒食シ居ルコト多カリシ爲生活ニ窮シ同年十一月中國子ニ無斷ニテ同人ノ世帯道具ヲ前同村中込鼎一ニ入質シ金二十五圓ヲ借受ケタルコトアリシ處之カ完済ヲ爲ス能ハス昭和四年三月以來右國子ヲ右儀一郎方ニ遣シテ獨リ他ヲ放浪シ居リタルヨリ

國子等ハ右中込鼎一ヨリ右債務辨濟ナキニ於テハ擔保品ヲ競賣ニ付スヘキ旨ヲ以テ迫ラレ痛ク困惑シ居リタル折柄被告人ハ同年十二月二十一日右儀一郎方へ歸來シタルカ右儀一郎等夫婦ハ前述ノ如キ事情ヨリ被告人ニ對シ甚タ快カラサルモノアリテ同月二十八日儀一郎妻ことカ事ニ託シテ被告人ニ對シ暗ニ國子トノ關係ヲ絶ツテ同家ヲ退去スヘキコトヲ求メタルヨリ被告人ハ已ムナク同夜九時頃右儀一郎方ヲ立出テタルカ如何ニカシテ右辨濟資金ヲ得儀一郎等ノ感情ヲ融和シ舊ノ如ク國子ト關係ヲ繼續セシメ度シト思ヒ焦慮ノ末豫テ知合ナル同縣同郡駒井村坂井小川啓藏(當時七十八年)カ煙草小賣商ヲ營ミ孤獨ノ生活ヲ爲シ居ルニ乘シ同家ニ忍ヒ入りテ賣溜金ヲ竊取セント企テ同夜十一時頃密ニ啓藏方裏手ニ到リ同人ノ寢靜マルヲ窺ヒ有合セタル古鎌ヲ以テ小川ふみの等ノ所有ニ係ル右啓藏居室勝手口脇ノ土壁ノ一部巾三寸乃至五寸長サ二尺位ヲ搔キ落シ以テ他人ノ建造物ヲ損壞シ其ノ穴ヨリ手ヲ差入レテ戸ノ鍵ヲ外シ啓藏方屋内ニ侵入シ直チニ啓藏ノ寢臥セル奥二十疊間ニ進ミ金錢ヲ搜索中疊二十日九日午前一時過頃同人カ目ヲ覺マシ或ハ發見セラレヘキ虞レアル狀況ニ爲リタルヨリ爰ニ被告人ハ發見セラレタル場合ニハ寧ろ啓藏ヲ殺害シテ金錢ヲ強奪セント決意シ同家勝手場ニ在リタル薪割用ノ斧(押第一三四號ノ八)ヲ携へ來リ再ヒ啓藏ノ寢所ニ戻リ金品搜索中果セル哉啓藏カ目ヲ覺マシ將ニ寢床ヨリ起上ラントシタルヨリ被告人ハ矢庭ニ右斧ノ峰ヲ以テ啓藏ノ頭部ヲ二回強打シ因テ同人ノ前頭骨ニ骨缺損ヲ伴ヘル粉碎骨折顛頂骨ニ陥沒骨折右前頭葉ニ腦實質缺損ヲ伴ヘル挫創ヲ負ハシメ因テ同人

住居侵入ト放火トノ關係

ヲ即死セシメ同人ノ所有ニ係ル現金十四圓餘ト共ニセル地提袋一箇煙草「ゴアルデンバット」十二箇ヲ強取シタル後更ニ其ノ犯跡ヲ隠蔽センカ爲啓藏ノ居室ニ放火シテ該死體ヲモ共ニ燒燬センコトヲ計畫シ同日前四時頃有合セタル數葉ノ紙片ヲ九メテ右二十疊間ニ設ケラレタル炬燵爐ノ西北側ニ於テ右炬燵ノ掛布圍ト疊トノ間ニ差込ミ之ニ燐寸ヲ以テ點火シタル上其ノ場ヲ逃走シ因テ右炬燵爐ノ周圍東西約二尺七寸南北約四尺ノ間ニ於ケル床板ヲ燒失シ且右爐ニ接セル部分ノ根太本約四尺ノ間ヲ三分乃至一寸ノ深サニ炭化セシメテ該家屋ヲ燒燬スルト共ニ右啓藏ノ死體ノ頭面部其ノ他身體各所ヲ燒燬セシメテ之ヲ損壞シタルモノニシテ

以上竊盜未遂ト強盜殺人ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノナリ

法律ニ照スニ判示被告人ノ所爲中建造物損壞ノ所爲ハ刑法第二百六十條前段住居侵入ノ所爲ハ同法第二百三十條竊盜未遂ノ所爲ハ同法第二百三十五條第二百四十三條強盜殺人ノ所爲ハ同法第二百四十條後段放火ノ所爲ハ同法第九條第一項死體損壞ノ所爲ハ同法第九十條ニ夫々該當スルトコロ竊盜未遂ト強盜殺人トハ連續犯ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ則リ重キ後者ノ刑ニ從フヘク右放火ト死體損壞トハ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第二項前段第十條ニ則リ重キ右放火罪ノ刑ニ從フヘク以上建造物損壞住居侵入及強盜殺人トノ間並住居侵入及放火トノ間並ハ夫々手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ結局最モ重キ右強盜殺人罪ノ刑

ニ從ヒ同條所定ノ死刑ヲ選擇シテ被告人ヲ處斷スヘキモノトス

○ 理 由

辯護人市原統上告趣意書第一點原審判決法律理由(七七九頁)ニ於テ結局最モ重キ強盜殺人ノ刑ニ從ヒ同條所定ノ死刑ヲ選擇シテ被告人ヲ處斷スヘクトアルモ如何ナル規定ニ基キテ結局以下ノ結論ヲ生スルモノナリヤ或ハ刑法第五十四條第五十五條ニ因ルモノナルヤ或ハ刑法第四十五條ニ基クモノナリヤ或ハ同判決ニ認定シタル放火ノ事實ニ付テハ法律ヲ適用セサル擬律ニ陥リタルモノナリヤ之ヲ明ニスルコトヲ得サルハ畢竟適當ナル適用法律ヲ示ササル不法アルモノト信スルノ外前科ニ付全然判斷ヲ缺ケル違法アリト思料スト云フニ在リ

○ 因テ按スルニ住居侵入ハ強盜若ハ放火ニ對シ通常用キラルヘキ手段ナルヲ以テ住居ニ侵入シテ強盜若ハ放火ヲ爲シタル場合ニハ右住居侵入ハ強盜若ハ放火ニ對シ刑法第五十四條ニ所謂手段結果ノ關係アルモノトス原判決ノ認メタル事實ト其ノ法律適用トヲ對照シテ閱スルニ竊盜未遂ト強盜殺人トハ連續犯トシテ刑法第五十五條第十條ニ依リ重キ強盜殺人罪ノ刑ニ從ヒ放火ト死體損壞トハ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ放火罪ノ刑ニ從ヒ建造物損壞住居侵入及強盜殺人トノ間並住居侵入及放火トノ間並ニ夫々手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ結局最モ重キ右強盜殺人罪ノ刑ニ從ヒ同條所定ノ死刑ヲ選擇シテ被告人ヲ處斷シタルハ擬律上正當ナリ若シ夫レ死刑若ハ無期ノ懲役

住居侵入ト放火トノ關係

又ハ禁錮ニ處スヘキ一罪以外ノ之ヨリ輕キ他ノ犯罪ニシテ之ト併合罪ノ關係ニアルトキハ前科ニ付刑
 法果犯ノ規定ヲ適用スヘキモノナルモ本件放火罪ト強盜殺人トハ住居侵入罪トノ關係上結局一罪タル
 關係ニ在ルヲ以テ刑法第五十四條ヲ適用シ定メタル最重ノ刑ハ死刑又ハ無期ノ懲役ニ當ル結果同法第
 五十六條ノ趣旨ニ從ヒ累犯ノ法條ヲ適用スヘカラサル場合ニ至リタルモトス論旨理由ナシ(其ノ他
 ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事南部金夫關與

○詐欺偽證教唆被告事件並附帶私訴事件

(昭和五年(九)第一六七六號 公訴上告(棄却)
 同年十二月二十八日第一刑事部判決 私訴一部破毀自判)

【公私訴上告人】 被告人 藤井清四郎 辯護人 淺田六郎

【私訴被告上告人】 株式会社柴田商店 法律上代理人 取締役 柴田徳郎

【第一審】 益田區裁判所 【第二審】 松江地方裁判所

○判示事項

支拂猶豫令ト遲延利息

○判決要旨

昭和二年勅令第九十六號支拂猶豫令第一條ハ不法行爲ニ因ル損害
 賠償債務ニモ適用アルモノトス

【參照】 昭和二年四月勅令第九十六號支拂猶豫令第一條 昭和二年四月二十二日以前ニ
 發生シ同日ヨリ同年五月十二日迄ノ間ニ於テ支拂ヲ爲スヘキ私法上ノ金錢債務ニ
 シテ勅令ヲ以テ指定スル地區内ニ住所又ハ營業所ヲ有スル債務者ノ負擔スルモノ
 ニ付テハ二十一日間共ノ支拂ヲ延期ス但シ債務者ガ其ノ地區外ニ他ノ營業所ヲ有
 スル場合ニ於テ該營業所ノ取引ニ關スル債務ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

民法第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生
 シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

同法第七百二十二條第一項 第四百十七條ノ規定ハ不法行爲ニ因ル損害ノ賠償ニ之
 ヲ準用ス

支拂猶豫令ト遲延利息

○事實

第二審ハ公訴ニ付左記ノ事實ヲ認定シ刑法第二百四十六條第一項第六十九條第六十一條第一項第四十五條第四十七條第十條ヲ適用シ被告人ヲ懲役一年ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ

第一 明治四十三年六月頃石田市太郎ヨリ其ノ所有ニ係ル島根縣美濃郡豊川村大字大谷字小芦谷三千三百九十二番ノ一山林ノ一部ヲ實地ニ就キ境界ヲ定メ同番ノ七トシテ分筆セシメタル上交換ニ依リ讓受ケ更ニ之ヲ明治四十四年四五月頃同郡益田村増野庄三郎ニ賣却シ同人ハ更ニ大正十四年十一月右山林ノ立木ヲ福岡縣築上郡八屋町株式會社柴田商店ニ代金六千七百八十五圓ニテ賣却シタルカ右立木引渡ニ際シ被告人ハ増野庄三郎ヨリ右山林境界ニ付實地指定ノ依囑ヲ受ケタルヨリ當時前示賣買ニ關係セシ石田市太郎及増野ノ代人中村久吉カ死亡セルヲ奇貨トシ茲ニ不正ノ利益ヲ得ンコトヲ企テ右兩山林ノ境界カ岩石路上ニ露出セル箇所ヲ起點トシ北方ニ見通シタル線ナルコトヲ熟知セルニ拘ラス之ヲ秘シ同年十一月頃右山林内ニ於テ柴田商店主任阿部良平ニ對シ兩山林ノ境界ハ右岩石露出箇所ヨリ西方十一間三尺増野庄三郎所有ノ二千三百九十二番ノ七山林内ニ入込ミタルコトカ木(合歡木)生立セル地點ヲ起點トシ北方ニ見通シタル線ナリト詐稱シ尙右兩線内ハ二千三百九十二番ノ一ニ屬シ居

ルモ同地域内ノ立木ハ前示山林交換ノ際石田市太郎ヨリ貰受ケ自己ニ於テ所有セルモノナレハ貰受ケ吳レ度キ旨申向ケ同人ヲ欺罔シタル上立木賣買代金名義ノ下ニ同年十二月八日金百圓同月二十二日金百二十圓合計二百二十圓ヲ美濃郡益田縣前柴田商店出張所ニ於テ阿部主任ヨリ受取リテ騙取シ

第二 右詐欺被告事件ニ付昭和四年七月二十五日益田區裁判所ニ於テ有罪判決ノ言渡ヲ受ケ松江地方裁判所ニ控訴中自己ニ有利ナル證據ヲ作爲スル爲同年十一月初旬頃居村石田角太郎方ニ於テ原審相被告人桐田虎治ニ對シ前示二千三百九十二番ノ一及同番ノ七山林ノ境界ハコトカ木ニシテ該樹ト其ノ西方小徑邊ノ岩石トノ間ノ立木ハ被告人カ石田市太郎ヨリ貰受ケタルモノナル旨虛偽ノ證言ヲ爲スヘク教唆シ桐田ヲシテ同年十一月十一日同郡豊川村大字大谷字小芦谷山林ノ實地ニ於テ松江地方裁判所受命判事今西秀樹ニ對シ宣誓ノ上前同趣旨ナル虛偽ノ證言ヲ爲サシメタルモノナリ

私訴ニ於テ被告上告人(民事原告人)ノ請求原因トスル事實ハ原告會社ハ大正十四年十一月三十日美濃郡益田町増野庄三郎ヨリ其ノ所有ニ係ル同郡豊川村大字大谷字小芦谷二千三百九十二番ノ七外三十筆ノ山林毛上ヲ代金六千七百八十五圓ニテ貰受ケタル處被告ハ原告會社益田出張所店員ニ對シ右二千三百九十二番ノ七ノ一部地上ニ存スル立木ヲ同番ノ一ノ地域内ニ存スルモノナリト主張シ尙同立木ハ自己ノ所有ナレハ貰受ケタレト申向ケ同店員ヲ欺罔シタル上同年十二月八日右立木ヲ代金二百二十圓ニテ貰受ケノ契約ヲ爲サシメ同日金百圓同月二十二日金百二十圓ヲ原告會社ヨリ受取リタリ然レトモ右

立木ハ依然増野庄三郎ノ所有ニシテ被告ノ所有ニアラサルコト判明シタルヲ以テ原告會社ハ被告ノ爲二百二十圓ヲ詐取セラレ損害ヲ蒙レルカ故ニ右金員ト之ニ對スル交付ノ日以降ノ法定利率ニ依ル損害金ノ賠償ヲ求ムト云フニ在リ之ニ對スル上告人ノ答辯ハ原告主張ノ如ク居村字小芦谷ノ山林毛上ヲ代金二百二十圓ニテ原告會社ニ賣却シ其ノ代金ヲ受ケ取リタルコトハ之ヲ認ムルモ右毛立ハ同所二千三百九十二番ノ一地上ニ存シ該毛上及同番ノ七山林ハ元居村石田市太郎ノ所有ニ係リ明治四十三年中被告カ青木喜六ヨリ買得シタル田地ト交換ニヨリ其ノ所有權ヲ取得シ同番ノ七ハ増野ニ賣却シタルモ右立木ハ其ノ確保有シ居リタルモノニシテ決シテ原告ヲ欺罔シテ代金ヲ詐取シタルモノニ非スト云フニ在リ

第二審ハ被告上告人主張ノ事實ヲ認メ其ノ請求全部ヲ認容シテ「被告ハ原告ニ對シ金二百二十圓及内金一百圓ニ對スル大正十四年十二月八日ヨリ内金百二十圓ニ對スル同月二十二日ヨリ支拂濟ニ至ル迄年五分ノ損害金ヲ支拂フヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トス」トノ判決ヲ爲シ此ノ判決ニ對シ上告人ヨリ上告ヲ爲シタル結果當院ハ上告ノ一部ヲ理由アリト爲シ「原私訴判決中昭和二年四月二十二日ヨリ同年五月十二日迄ノ年五分ノ損害金ノ支拂ヲ命シタル部分ヲ破毀シ此ノ部分ニ關スル私訴被告上告人ノ請求ヲ棄却ス其ノ他ノ部分ニ對スル私訴上告人ハ之ヲ棄却ス私訴上告費用ハ總テ私訴上告人ノ負擔トス」トノ判決ヲ言渡シタルヲ

○理由

辯護人加藤行吉上告趣意書第四點原私訴判決ハ法令ヲ無視シタル違法アルモノトス原私訴判決ハ其ノ主文ニ於テ「被告ハ原告ニ對シ金二百二十圓及内金一百圓ニ對スル大正十四年十二月八日ヨリ内金百二十圓ニ對スル同月二十二日ヨリ支拂濟ニ至ル迄年五分ノ損害金ヲ支拂フヘシ」ト判決シタル然レトモ昭和二年四月二十二日勅令第九十六號支拂猶豫令ニ依リ昭和二年四月二十二日以前ニ生シタル債務ニ付テハ昭和二年四月二十二日ヨリ二十一日間支拂ヲ猶豫セラレタルモノナルヲ以テ其ノ間ニ於テハ上告人ニ於テ判示金員ヲ支拂フノ義務ナキモノナリトス依テ原私訴判決ニ於テ年五分ノ損害金ノ支拂ヲ上告人ニ命スルニハ昭和二年四月二十二日ヨリ二十一日間ノ分ハ之ヲ控除セサルヘカラサル筋合ナルニ事茲ニ出テスシテ右支拂猶豫期間モ亦年五分ノ損害金ヲ支拂フヘシト言渡シタルハ右勅令第九十六號ヲ無視シテ上告人ニ不法ノ支拂ヲ命シタルモノニシテ原私訴判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信ス(昭和三年(オ)第五三號同年九月八日大審院第三民事部判決參照)ト云フニ在リ○仍テ案スルニ昭和二年勅令第九十六號支拂猶豫令ニ依レハ同年四月二十二日以前ニ發生シ同日ヨリ同年五月十二日迄ノ間ニ支拂ヲ爲スヘキ私法上ノ金錢債務ニ付テハ右五月十二日迄ノ支拂ヲ延期セラレタルモノナルヲ以テ苟モ一定ノ叙上債務ニシテ右四月二十二日以前ニ於テ既ニ支拂フヘキモノナルニ於テハ其ノ債務ノ發生カ契約ニ基キタルト將タ又不法行爲ニ基キタルトヲ問ハス右猶豫期間中ハ絶對ニ其

ノ支拂ヲ猶豫セラレ隨テ右債務ニシテ利息ノ定メナキ以上遲延利息ノ發生ヲ停止スヘキモノトス今原
 審ノ確定シタル事實ニ依レハ本件私訴上告人ノ債務ハ不法行為ニ因ル金錢債務ニシテ昭和二年四月二
 十二日以前ニ於テ既ニ支拂フヘキモノナレハ原私訴判決カ私訴上告人ニ對シ年五分ノ損害金ノ支拂ヲ
 命スルニ當リテハ須ラク昭和二年四月二十二日ヨリ二十一日間ノ分ハ之ヲ控除セサルヘカラス然ルニ
 原私訴判決カ事茲ニ出テスシテ右支拂ノ猶豫期間ニ付テモ年五分ノ損害金ヲ支拂フヘキ旨言渡シタ
 ルハ寔ニ不當ニシテ論旨ハ理由アリ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ニ因リ公訴上告ニ付テハ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ私訴上告ニ付テハ同法第六百五
 條第六百六條第五百七十二條第五號民事訴訟法第八十九條第九十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事溝淵孝雄關與

○町會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和五年(九)第一二七七號 事實審理)
 (同年十二月一日第二刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 中川 藤平 (秋田 彰一 西園寺 正雄 外一名) 辯護士

【第一審】 徳島地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

町村會議員選舉ニ於ケル選舉事務員ト運動報酬

○判決要旨

町村會議員ノ選舉ニ付選舉事務員ナル名稱ノ下ニ運動ニ從事スル
 者力運動ノ報酬ヲ受クルニ於テハ町村制第三十七條衆議院議員選
 舉法第一百十二條第四號第一號ノ犯罪ヲ構成ス

【參照】 町村制第三十六條ノ二 町村會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第九十
 一條第九十二條、第九十八條、第九十九條、第二項、第一百條及第四十二條ノ規定ヲ準用ス
 同法第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選
 舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス
 衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非
 サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此ノ限ニ
 在ラス

同法第九十七條 選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ハ選舉運動ノ爲ニ要スル飲食

町村會議員選舉ニ於ケル選舉事務員ト運動報酬

物、船車馬等ノ供給又ハ旅費、休泊料其ノ他ノ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得演説又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲ス者其ノ運動ヲ爲スニ付亦同シ
選舉事務員ハ選舉運動ヲ爲スニ付報酬ヲ受クルコトヲ得
同法第百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得サシメル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
- 四 第一號若ハ前號ノ供與、要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

○事實

上告審ハ事實審理ヲ經テ左記理由記載ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人藤平ヲ禁錮二月ニ被告人健藏ヲ罰金百五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル勞役留置期間ヲ七十五日ト定メ被告人健藏ヨリ金二十圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

○理由

各被告辯護人秋田彰一 西園寺正雄上告趣意書第十點ハ其ノ理由アルコト前示當院ノ決定ニ於テ説明シタルカ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ原判決ヲ破毀シ被告事件ニ

付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ審按スルニ

- 第一 昭和四年十月二十一日施行セラレタル德島縣美馬郡半田町町會議員選舉ニ際シ被告人藤平ニ立候補ノ意圖アリタルニ依リ同人ニ同情ヲ有スル原審共同被告人中川光春 谷武八等數名ハ同月十四日頃同町大字半田口字平良石ナル光春方ニ會シテ談合ヲ逐ケ被告人藤平ノ當選ヲ期スルニハ投票買收ノ途ニ出ツルノ外ナキ旨ヲ謀議シ光春ヨリ被告人藤平ニ之ヲ勸説シタリ茲ニ於テ被告人藤平ハ遂ニ之ニ同意シ立候補ヲ爲シタル上右ニ要スル費用トシテ金二百五十圓ヲ武八ニ交付スルニ至リタルカ自ラモ投票ノ買收ヲ爲サンコトヲ決意シ犯意繼續シテ左ノ犯行ヲ爲シタリ
- (一) 昭和四年十月十六日頃同町大字半田口字平良石岡武平方ニ於テ同人ニ對シ選舉有權者ノ投票買收方ヲ依頼シ之カ買收費トシテ金十圓ヲ交付シ同人ヲシテ其ノ頃同町内ニ於テ選舉有權者南器之資及宮脇喜三郎ニ對シ夫々自己ニ投票方ヲ依頼シ其ノ投票報酬トシテ各金五圓ヲ供與セシメ
 - (二) 同月二十日頃肩書自宅ニ於テ同町大字半田口字下竹師水坊太ニ對シ選舉有權者ノ投票買收方ヲ依頼シ之カ買收費トシテ金十圓ヲ交付シ同人ヲシテ其ノ頃同町内ニ於テ選舉有權者前野多賀吉ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金五圓ヲ供與セシメ
 - (三) 前同日頃同町大下梅藏ヲ介シテ同町大字半田口字白石ナル第一審相被告塩田幸吉方ニ於テ同人ニ對シ選舉有權者ノ投票買收方ヲ依頼シ買收費トシテ金五十圓ヲ交付シ右幸吉ヲシテ同月二十

一日同町内ニ於テ選舉有權者ナル小松次吉ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金十圓ヲ供與セシメ
(四) 同月二十一日肩書自宅附近ノ道路上ニ於テ選舉有權者ナル岡本伍平ニ對シ自己ニ投票方ヲ依
頼シ其ノ投票報酬トシテ金三圓ヲ供與シ

(五) 同月二十一日同町大字半田口字平良石ナル原審相被告人谷武八方前道路上ニ於テ選舉有權者
ナル同町高岡金造 高岡龜市ノ兩名ニ對シ自己ニ投票方ヲ依頼シ武八ノ手ヲ經テ右投票ノ報酬ト
シテ各金五圓ヲ供與シタリ

第二 被告人健藏ハ右選舉ニ際シ被告人藤平ノ爲選舉運動ノ事務ニ從事シタル者ニシテ犯意ヲ繼續シ
(一) 同月十七日同町大字半田口字白石ナル第一審相被告人武岡鶴吉方ニ於テ同人ニ對シ候補者藤
平ノ爲選舉有權者ノ投票買收方ヲ依頼シ其ノ買收費トシテ同日原審相被告人武八ヨリ受取り來リ
タル金三十圓ヲ交付シ右鶴吉ヲシテ同日同町内ニ於テ選舉有權者武原淺市及藤原彦吉ニ對シ夫々
候補者藤平ニ投票方ヲ依頼セシメ之カ投票報酬トシテ淺市ニ金五圓彦吉ニ金十圓ヲ夫々供與セシ
メ

(二) 同日前記谷武八ヨリ前示同居宅ニ於テ前記選舉運動ノ報酬トシテ金二十圓ノ供與ヲ受ケ之
ヲ費消シタルモノナリ
(證據説明ハ略ス)

【要旨】

法律ニ照スニ各被告人ノ判示金員供與ノ所爲ハ孰レモ町村制第三十七條衆議院議員選舉法第一百十二條
第一號ニ被告人健藏ノ判示金員ノ供與ヲ受ケタル所爲ハ町村制第三十七條衆議院議員選舉法第一百十二
條第四號第一號ニ該當ス此ノ點ニ付被告人健藏ハ當公廷ニ於テ自分ハ選舉事務員トシテ運動ニ從事シ
相當時間勞務ニ服シタルモノナレハ謝禮ヲ受クルモ差支ナシト思惟シ收受シタル旨辯解シ同被告人カ
選舉事務員ナル名稱ノ下ニ運動ニ從事シタルコトハ記録上明白ナレトモ町村會議員ノ選舉ニ付テハ町
村制第三十六條ノ二ニ依リ衆議院議員選舉法第九十一條第九十二條第九十八條第九十九條第二項第百
條第四百十二條ヲ準用スルニ止リ同第九十六條第九十七條第九十九條第一項等選舉事務員ニ關スル規定
ヲ準用セサルカ故ニ町村會議員ノ選舉ニ付テハ選舉事務員ナルモノハ法ノ公認セサルモノト解スヘク
從テ被告人健藏カ縱令選舉事務員ナル名稱ノ下ニ選舉運動ニ從事シタリトスルモ單純ナル選舉運動者
ニ外ナラスト謂フヘク苟モ選舉運動ニ對スル報酬ヲ收受シタル以上町村制第三十七條衆議院議員選舉
法第一百十二條第四號第一號ノ犯罪ヲ構成スルモノトス故ニ縱シ同被告人カ衆議院議員選舉ノ場合ニ於
ケルト同様選舉事務員ハ報酬ヲ受クルヲ得ルモノト思惟シタリトスルモ這ハ法ノ誤解ニ過キスシテ之
カ爲ニ其ノ責ヲ免ルヘカラス右辯解ハ其ノ理由ナシ而シテ被告人等ノ所爲ハ連續犯ナルヲ以テ各刑法
第五十五條ヲ適用シ其ノ所定刑中被告人藤平ニ付テハ禁錮刑ヲ被告人健藏ニ付テハ罰金刑ヲ選擇シ各
其ノ刑ノ範圍内ニ於テ被告人等ヲ主文掲記ノ刑ニ處シ被告人健藏ニ付テハ刑法第十八條第一項第四項

ニ依リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル勞役場留置期間ヲ定メ尙同被告人カ收受シタル金二十圓ハ沒收スルコト能ハサルヲ以テ町村制第三十七條衆議院議員選舉法第一百四條ニ依リ同被告人ヨリ右金額ヲ追徴スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○偽造公私文書行使詐欺未遂被告事件 (昭和五年(九)第八五七號 棄却)
(昭和五年(九)第八五七號 棄却)

【上告人】 被告人 田邊正藏 辯護人 坂大井田 中政靜武 義雄勇

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

勾留更新ノ理由ノ明示

○判決要旨

勾留更新ノ決定ニハ之ヲ繼續スルノ必要アルコトヲ明示スルヲ以テ足り其ノ必要ノ理由ヲ明示スルノ要ナシ

【參照】 刑事訴訟法第十三條 勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得

同法第四十九條 裁判ニハ理由ヲ附スヘシ

上訴ヲ許ササル決定又ハ命令ニハ理由ヲ附セサルコトヲ得

○事實

第二審判決ハ左記事實ヲ認定シ被告人正藏ノ行爲ニ對シ刑法第六十一條第一項第五百十九條第一項第五十五條第五百五十八條第一項第五百五十五條第一項第五十五條第二百五十條第二百四十六條第一項第五十四條第一項後段及第十條ヲ適用シ被告人正藏ヲ懲役八月ニ處シ押收ノ偽造文書ハ刑法第十九條ニ依リ沒收スル旨ヲ言渡タリ

被告人龍之助ハ東京市外上澁谷百三十五番地ノ被告人中村政徳方ニ寄寓中苦米地せきカ東京府荏原郡目黒町大字三田大島耕地二百六番地ニ所有スル建物十四棟ノ權利證及附屬書類ヲ偽造行使シテ他ヨリ金錢ヲ騙取セント企テ之ヲ被告人政徳及亡倉藤克己ニ洩ラシ成功ノ上ハ互ニ贓金ヲ分配スヘキ默契ノ

下ニ同人等ノ了解協力ヲ得因テ

(一) 龍之助及克己ハ右詐欺ノ用ニ供センカ爲ニ合田彰三郎ヲシテ買求メ來ラシメタル櫻樹ノ印材活字等ヲ利用シテ(イ)東京區裁判所澁谷出張所印(ロ)同出張所受付登記済印(ハ)冊數登記番號順位印(ニ)澁谷町長ノ印(ホ)苦米地印(小判形)(ヘ)代書人吉田印(ト)印鑑ノ證明文アル澁谷町長藤田信次郎ノ記名判等ヲ偽造シ右政徳方ニ於テ之等ヲ利用シ同年六月中旬ヨリ同月二十五日頃迄ノ間ニ何レモ苦米地せきノ署名ヲ冒用シ其ノ右偽造印ヲ押捺シテ(イ)同人カ其ノ荏原郡目黒町大字三田大島耕地二百六番地ニ所有スル建物十四棟ノ所有權保存登記ヲ東京區裁判所澁谷出張所ニ對シテ申請スル旨ノ大正十四年四月二十日附私文書一通(押第九五六號二二)(ろ)せき名義ノ澁谷町長ニ對スル大正十五年六月十八日附印鑑證明願一通(同上ノ二〇)(は)大正十五年七月附(日ハナシ)せき名義ノ白紙委任狀一通(同上ノ二一)(に)竝司法代書人吉田ノ署名ヲ冒用シ其ノ前記偽造印ヲ押捺シテ同人カ大正十五年六月二十四日ニ苦米地せき所有ノ前記建物十四棟ニ係ル登記簿ヲ閱覽シ之ニ何等ノ負擔乃至權利ノ移動等ノ無キコトヲ確メタル上記載シタル證明書一通(同上ノ一九)ヲ夫々偽造シタル上右(イ)及(ろ)ノ各末尾ニハ夫々前記(イ)乃至(ハ)及(ニ)(ト)ノ各偽造印ヲ適宜ニ配合押捺シ以テ前記出張所カ出願ノ日ニ之ヲ受理シテ其ノ願ノ趣キヲ登記シタルコトヲ證スヘキ公文書一通ト澁谷町長藤田信次郎カ右同様該印鑑ニ相違ナキコトヲ

證明シタル公文書一通ト夫々偽造シ尙最後ニ(ホ)苦米地せきノ署名ヲ冒用シテ同人振出名義額面金五百圓ノ大正十五年六月二十五日付約束手形一通(同上ノ五〇)ヲ偽造シ以テ詐欺ノ準備ヲ整ヘタルカ愈是等ノ偽造文書及手形ヲ使用シテ金策セントスルニ當リ被告人政徳ハ同月二十七八日頃其ノ宅ニ來リタル被告人正藏及伊重郎ニ右一切ノ書類ヲ交付シテ其ノ偽造ニ係ル情ヲ推察了解セシメタル上金策ノ事ヲ之ニ託シ以テ同人等ヨリ其ノ一味ノ前記計畫ニ加擔セシメタルカ斯クテ

(二) 被告人正藏及伊重郎ハ同月末頃伊重郎方(當時ハ東京市外澁谷町大字下澁谷千四百九番地)ニ於テ偶同家ニ來合セタル澁谷町大字下澁谷四百三十四番地萩原金七ニ對シ一味ノ爲ニ偽造ニ係ル前記權利證及附屬書類(手形ヲ除ク)ヲ何レモ真正ニ作成セラレタルモノノ如ク裝ヒテ夫々提供行使シタル上該書類ヲ擔保トシテ金融セラレ度旨申込ミタルモ金七カ之ヲ肯セサリシ爲ニ詐欺ノ目的ヲ遂クルニ至ラス

本件勾留更新ノ決定ニハ被告人ニ對シ爲シタル勾留ハ尙繼續ノ必要アルヲ以テ更新スト記載セラレタリ

○ 理 由

辯護人坂出武勇大井靜雄田中正義上告趣意書第七點原判決ハ其ノ證據理由中相被告中村政徳第三回豫審調書及同杉山伊重郎第二回豫審調書ヲ援用セリ殊ニ中村ノ調書ハ被告田邊ニトリテハ殆ント唯一ノ

勾留更新ノ理由ノ明示

八四三

(103)

證據ト云フヘキモノナリ依テ之等調書ノ證據力ヲ閱スル爲其ノ作成當時ニ於ケル相被告中村 杉山兩名ノ状態ヲ調査スルニ中村 杉山兩名ハ何レモ大正十五年八月二十三日ヨリ昭和二年七月二十三日迄三百三十五日間未決勾留ニ處セラレ其ノ間五回勾留更新ノ決定アリタルカ勾留執行ノ日第一回訊問(所謂勾留訊問)アリタル後中村ハ昭和二年四月二十二日第二回訊問迄二百四十三日間(第三回訊問ハ同年六月六日)杉山ハ同年六月十七日第二回訊問迄二百九十九日間何等ノ取調ナカリシモノニシテ而モ其ノ間相被告ニ付テモ僅カニ後レテ起訴サレタル山内龍之助 合田彰三郎ノ取調アリタルノミニシテ其ノ他何等取調ヲ爲シタル事迹ノ看ルヘキモノナシ抑モ我刑事訴訟法カ獨逸一九二〇年新刑事訴訟法草案ニ則リ第百十三條ニ「勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得」ト規定シタルハ被告人ノ自由ヲ尊重スルノ趣旨ニ出テタルモノナレハ特ニ止ムヲ得サル場合ノ外勾留期間ハ二箇月ニ限り紊ニ之カ更新ヲ許スヘキモノニアラサルコト同條ノ規定自體竝之カ制定ノ際ノ討論等ニ依リ毫モ疑ナキトコロナリサレハ勾留更新ノ決定ニハ其ノ繼續スヘキ必要アル理由ヲ明示セサルヘカラス(平沼博士新刑事訴訟法要論第二七七丁法曹會發行刑事訴訟法案衆議院貴族院委員會議錄第三〇五丁及第四六九丁林政府委員答辯御參照)然ルニ本件勾留更新ノ決定ニハ單ニ「被告人ニ對シ爲シタル勾留ハ尙繼續ノ必要アルヲ以テ更新ス」トアルノミニシテ特ニ繼續ノ必要アル理由ヲ明示セサルヲ以テ形式上無効ナリ而シテ何等事件取調上ノ必要ナキニ拘ラス不必要

ナル拘束ヲ加ヘタルモノナレハ斯カル状態ニ於テ爲シタル訊問ハ實質上無効ナリ故ニ右調書ハ形式上實質上共ニ無効ニシテ之ヲ證據ト爲スヘカラサルニ拘ラス之ヲ罪證ニ供シタル原判決ハ探證ノ法則ニ背反スルノ甚シキモノト信スト云フニ在リテ〇勾留更新ノ濫ニ之ヲ爲スヘカラサルコトハ敢テ所論ヲ俟タスト雖苟モ勾留ヲ繼續スルノ必要アリト認メタルトキハ固ヨリ之ヲ更新スルヲ得ヘキコトハ刑事訴訟法第百十三條ノ明定スル所ナリ而シテ其ノ決定ニハ理由ヲ附スルヲ要スルコト勿論ナレトモ所謂理由ヲ附ストハ勾留ヲ更新スル所以ヲ示スノ謂ナルヲ以テ當該決定書ニ勾留ヲ繼續スルノ必要アル旨ノ記載アルニ於テハ即チ所謂理由ヲ附シタルモノトスルニ間然スル所無シト謂フヘシ蓋勾留ヲ更新スル所以ハ之ニ依リテ明ナルヲ以テナリ所論勾留ヲ繼續スルノ必要ヲ生シタル原由タル事情ノ如キハ勾留ヲ更新スル所以即チ勾留更新ノ理由ソノモノニ非スシテ其ノ理由ノ因テ來タル緣由換言スレハ理由ノ理由タルニ過キササルヲ以テ必スシモ之ヲ當該決定書ニ記載スルヲ要スルモノニ非ス而シテ所論各被告人ニ對スル各勾留更新決定書ニハ孰レモ當該被告人ニ對シテハ勾留ヲ繼續スル必要アル旨ノ記載存スルカ故ニ該決定ハ理由ヲ附セサルモノト謂フヲ得ヌ又勾留シタル被告人ニ對シテハ成ル可ク迅速ニ其ノ取調ヲ爲スヲ以テ理想トスト雖先受ノ事件更ニ緊急ヲ要スル事件等ノ幅濶其ノ他ノ事情アリテ自然當該被告人ニ對スル事件ノ取調ヲ理想ノ如ク進行シ難キ場合ヲ生シ得ヘキコトハ數ノ免レサル所ナレハ本件ニ於テ所論各被告人ニ對スル取調カ遅延シタリトノ事實ノミヲ見テ直チニ所論ノ如ク取調上

勾留ノ必要ナカリシモノト斷スルハ早計ニ失スルノ譏ヲ免レサルノミナラス記録ニ徴シ本件取調ノ經過ニ顧ルトキハ所論各被告人ニ對シ何等取調上必要ナキニ拘ラス勾留ヲ繼續シタルモノトハ認め難キカ故ニ該勾留ノ不法ナルコトヲ前提トシテ該被告人等ニ對スル各豫審調書ノ無効ナルコトヲ主張スル論旨ハ採用スルニ由無シ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス) 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス 檢事宮城長五郎關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和五年(九)第一五一〇號 棄却)

【上告人】 被告人 横田勘太郎 辯護人 (三)上 英雄 金末多志雄

【第一審】 八王子區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求ト其ノ代理

○判決要旨

略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求ニ付テハ代理ヲ許ササルモノトス

【参照】 刑事訴訟法第五百三十一條第一項 正式裁判ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得 同法第五百二十八條 略式命令ヲ受ケタル者ハ謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得 正式裁判ノ請求ハ略式命令ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ正式裁判ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

○事實

第二審裁判所ハ左ノ如ク本件訴訟手續上ノ事實ヲ認定シ代理人ニヨル本件正式裁判ノ請求ヲ不適法ナリト解シ正式裁判ノ請求ヲ棄却スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ衆議院議員選舉法違反被告事件ニ付昭和五年四月十日八王子區裁判所ニ於テ同年(は)第一

略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求ト其ノ代理

一一號略式命令ヲ以テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ一日一圓ノ割合ヲ以テ勞役場ニ留置スヘキ旨ノ裁判ヲ受ケ該命令ハ同年同月十四日被告人ニ送達セラレタルモノニシテ右事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニヨリ明ナリ而シテ本件記録編綴ノ被告人名義ノ佐々木不溫ニ對スル訴訟委任狀及正式裁判請求書ノ各記載ニ徵スレハ被告人ハ同年同月十五日辯護士佐々木不溫ニ右略式命令ニ對シ正式裁判請求ヲ爲ス件ヲ委任シ該委任ニ基キ佐々木不溫ハ同月十九日被告人ノ代理人トシテ右略式命令ニ對シ前示裁判所ニ正式裁判ノ請求ヲ爲シタルモノナルコトヲ認ムルニ充分ナリ

仍テ按スルニ刑事訴訟手續ニ於ケル被告人ノ訴訟行爲ハ本人自身之ヲ爲スヲ要シ其ノ選任ニ係ル代理人ヲシテ之ヲ爲サシメ得ルハ特ニ之ヲ許容シタル明文アル場合ニ限ル然ルニ略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求ハ代理人ニヨリ之ヲ爲スコトヲ許容シタルモノト認ムヘキ規定存セス然ラハ本件正式裁判ノ請求ハ不適法ナルコト明白ナルヲ以テ之ヲ棄却スヘキモノトス

○理 由

辯護人三上英雄 金末多志雄上告趣意書原判決ハ「被告人ハ頭書ノ被告事件ニ付昭和五年四月十日八王子區裁判所ニ於テ同年(は)第一一一號略式命令ヲ似テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ一日一圓ノ割合ヲ以テ勞役場ニ留置スヘキ旨ノ裁判ヲ受ケ該命令ハ

同年同月十四日被告人ニ送達セラレタルモノニシテ右事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニヨリ明ナリ而シテ本件記録編綴ノ被告人名義ノ佐々木不溫ニ對スル訴訟委任狀及正式裁判請求書ノ各記載ニ徵スレハ被告人ハ同年同月十五日辯護士佐々木不溫ニ右略式命令ニ對シ正式裁判請求ヲ爲ス件ヲ委任シ該委任ニ基キ佐々木不溫ハ同月十九日被告人ノ代理人トシテ右略式命令ニ對シ前示裁判所ニ正式裁判ノ請求ヲ爲シタルモノナルコトヲ認ムルニ充分ナリ仍テ案スルニ刑事訴訟手續ニ於ケル被告人ノ訴訟行爲ハ本人自身之ヲ爲スヲ要シ其ノ選任ニ係ル代理人ヲシテ之ヲ爲サシメ得ルハ特ニ之ヲ許容シタル明文アル場合ニ限ル然ルニ略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求ハ代理人ニヨリ之ヲ爲スコトヲ許容シタルモノト認ムヘキ規定存セス然ラハ本件正式裁判ノ請求ハ不適法ナルコト明白ナルヲ以テ之ヲ棄却スヘキモノトス」ト判示シ上告人ノ正式裁判請求ヲ棄却シタリ刑事訴訟法第五百二十八條ニハ「略式命令ヲ受ケタルモノハ謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得正式裁判ノ請求ハ略式命令ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ」ト規定シアリテ正式裁判ノ請求ハ被告人カ特定ノ略式命令ニ對シ正式裁判ノ請求ヲ爲ス旨ノ意思ヲ書面ニ依リテ表示シクルトキハ假令其ノ手續ニ多少ノ缺陷アリト雖之ヲ不適法トシテ直ニ之ヲ棄却スヘキモノニアラサルナリ被告人ハ衆議院議員選舉法違反被告事件ニ付昭和五年四月十日八王子區裁判所ニ於テ同年(は)第一一一號略式命令ヲ以テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ一日一圓ノ

割合ヲ以テ勞役場ニ留置スル旨ノ裁判ヲ受ケ該略式命令ハ同月十四日被告人ニ送達セラレ被告人ハ辯護士佐々木不温ヲ代理人トシテ同月十九日前示裁判所ニ正式裁判ノ請求ヲ爲シタルコトハ爭ナク又刑事訴訟法上略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求ハ代理人ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得トノ明文ナキハ原判決判示ノ如クナルモ苟モ被告人ニ於テ該略式命令ニ對シ正式裁判ノ請求ヲ爲ス旨ノ意思ヲ書面ニ依リテ認メ得ラルル場合而カモ該書面ハ正式裁判請求期間内ニ原裁判所ニ到達シタルモノナルトキハ之ヲ有效トセサルヘカラサルモノトス本件ニ付之ヲ觀ルニ昭和五年四月十九日申立代理人辯護士佐々木不温名義ノ正式裁判請求書ニ添付シタル被告人ノ委任狀ナル書面ニハ「自分ニ係ル八王子區裁判所昭和五年(は)第一一一號略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求ヲ爲ス件」ト記載シテアリテ該書面ハ同日原裁判所ニ到達シアル以上假令其ノ方式ハ他人ニ對スル委任狀ナリトスルモ被告人ニ於テハ右八王子區裁判所ノ昭和五年(は)第一一一號略式命令ニ對シ正式裁判ノ請求ヲ爲スノ意思ヲ書面ニ依リテ表示シタルコト疑ヒナキヲ以テ其ノ請求手續ニ多少ノ缺陷アリトスルモ之カ爲メ其ノ請求ノ效力ノ發生ヲ妨クルモノニアラスト信ス(大正十五年(れ)第二七八號同年五月二十六日大審院第四刑事部判決參照)第一審ニ於テ右委任狀ノ記載ト被告人ノ意思ヲ尊重シ右正式裁判請求ヲ適法トシテ審理裁判ヲ爲シタルハ法律カ略式命令ニ對スル正式裁判請求ヲ認メ被告人ヲ保護シタル法意ニ適フモノト謂フヘシ然ルニ原判決ハ此ノ點ヲ看過シ被告人ノ正式裁判請求ハ不適法ナリトシテ直ニ之ヲ棄却シタルハ不當ノ甚

【要旨】

タシキモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニアリ○按スルニ略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求ハ我刑事訴訟法ノ解釋トシテハ代理ヲ許ササルモノト云ハサルヲ得ス蓋シ刑事訴訟法ハ所謂代理ニ因リテ生スヘキ弊害ヲ顧慮シ訴訟行爲ハ代理ヲ許ササルヲ原則トシ只其ノ必要ヲ認メタル場合ハ特ニ明文ヲ設ケテ之ヲ認許スルノ法制ヲ採リタルコト法文ノ全體ヲ通シテ看取シ得ヘキ概念ナルニ拘ラス略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求ニ付テハ同法第五百二十八條ニ略式命令ヲ受ケタル者ハ謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ト規定スルニ止マリ他ニ略式命令ヲ受ケタル者ニ代ハリテ正式裁判ノ請求ヲ爲シ得ヘキ條規存在セス而シテ正式裁判ノ請求モ亦一般上訴ト均シク一種ノ訴訟行爲ニ外ナラサルカ故ニ其ノ代理ハ之ヲ許容セサル法意ナリト解スルヲ妥當トナセハナリサレハ代理人ニ依リテ爲サレタル正式裁判ノ請求ハ其ノ請求自體不適法ノモノト云ハサルヲ得ス記録ヲ調査スルニ本件ノ略式命令ヲ受ケタル被告人横田勘太郎ハ正式裁判ノ請求權ヲ辯護士佐々木不温ニ委任シタル事實竝同辯護士ハ該委任ニ基キ右横田勘太郎ノ爲ニ其ノ代理人トシテ正式裁判ノ請求ヲ爲シタル事實換言スレハ辯護士佐々木不温ハ横田勘太郎ヲ代理シテ本件ノ正式裁判ノ請求ヲ爲シタル事實ハ各之ニ關スル訴訟代理委任狀又ハ正式裁判請求ト題スル書面ノ記載ニ依リ之ヲ認メ得ヘキモ所論ノ如ク横田勘太郎自身自己ノ名義ヲ以テ正式裁判ノ請求ヲ爲シタルモノトハ認メ難キカ故ニ本件正式裁判ノ請求ハ委任ニ因ル代理人ニ依リテ爲サレタルモノニ係リ冒頭説明ノ理由ニ照シ許スヘカラサル不適

法ノモノナルコト勿論ナリ然ラハ原審カ所論控訴事件ニ付本件正式裁判ノ請求ノ適否ニ付辯論ヲ制限シ正式裁判ノ請求ヲ不適法トシテ棄却ノ判決ヲ爲シタルハ正當ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ不法アリト爲スヲ得ス論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事宮城長五郎關與

○横領被告事件(昭和五年(九)第一六六九號
同年十二月五日第四刑事部決定) 事實審理)

【上告人】 被告人 宮城彦造 辯護人 高井千尋 赤井幸夫

【第一審】 富山地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

強制處分ニ於テ宣誓シタル證人ノ豫審ニ於ケル宣誓ノ要否

○決定要旨

強制處分手續ニ於テ宣誓ヲ爲サシメタル證人ヲ更ニ豫審ニ於テ訊問スルトキハ新ニ宣誓ヲ爲サシムヘキモノトス

【參照】 刑事訴訟法第九十六條 證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

同法第二百一條 證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スヘシ

- 一 十六歳未満ノ者
- 二 宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者
- 三 現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者
- 四 第四百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニシテ證言ヲ拒マサルモノ
- 五 第四百八十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者
- 六 被告人ノ雇人又ハ同居人

前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、偽證ノ罪、虛偽ノ鑑定、通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ノ共犯ト看做ス
第一項ニ掲クル者宣誓ヲ爲シタルトキト雖其ノ供述ハ證言タルノ效力ヲ妨ケラレルコトナシ

強制處分ニ於テ宣誓シタル證人ノ豫審ニ於ケル宣誓ノ要否

同法第二百二條 證人ノ供述證人若ハ之ト第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ノ恥辱ニ歸シ又ハ其ノ財産上ニ重大ナル損害ヲ生スル虞アルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

同法第二百十三條 豫審判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

同法第二百五十五條 檢事捜査ヲ爲スニ付強制ノ處分ヲ必要トスルトキハ公訴ノ提起前ト雖押收、搜索、檢證及被疑者ノ勾留、被疑者若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ其ノ所屬地方裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區裁判所ノ判事ニ請求スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル判事ハ其ノ處分ニ關シ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

○ 事 實

第二審判決ハ左記ノ如ク事實ヲ認定シ法律ヲ適用シテ被告人ヲ懲役一年二月ニ處ス但シ五年間右刑ノ執行ヲ猶豫スル旨宣告シタリ
被告人ハ昭和二年中富山縣下ノ各地ニ勃發シタル富山電氣株式會社（現在ハ日本海電氣株式會社ト改稱）ニ對スル電氣料金値下運動即チ所謂電氣爭議ニ共鳴シ同年十二月頃東岩瀨町電氣料金値下期同盟會ナルモノヲ組織シ自ラ其ノ顧問トナリ右會社ニ對シ電氣料三割五分ノ値下ヲ要求シ其ノ運動ヲ繼續中當時ノ富山縣知事ノ調停ニヨリ一割三分七厘ノ値下ヲ爲サシムルコトトナリテ該爭議ハ解決セシ

爲右同盟會モ翌昭和三年八月中解散スルコトトナリシモ右調停ニ慊ラサル被告人ハ果シテ右會社ニ於テ値下ヲ實行スルヤ否ヲ監視スル必要アリトテ更ニ東岩瀨町電氣需要者協會ヲ組織シ其ノ代表者トナリタル爲メ右會社ハ斯クテハ電氣料金ノ徵收モ意ノ如クナラサルノミナラス再ヒ爭議ノ惹起セサルヤヲ憂慮シタル結果昭和四年一月中旬頃ヨリ其ノ社員池上禎次ヲシテ被告人ト交渉セシメタル末同月二十五日ニ至リ富山市星井町ナル右會社ニ於テ被告人ヲ初メ右協會ノ幹部タル四十谷庄松 坂坂榮吉外二名ハ同會社常務取締役新田與一ト會見シタル上右取締役ヨリ同會社ハ右協會ニ對シ昭和二年十二月ヨリ昭和三年十二月迄ノ間ニ於ケル東岩瀨町在住ノ全需要家ノ未拂電氣料金ノ總額ニ對スル一割五分ニ該當スル約金三千百圓ヲ集金手數料名義ノ下ニ提供スルニヨリ同協會ニ於テ極力右會社ノ集金ニ應援アリタキ旨ノ意嚮ヲ聽取シタルニヨリ被告人等協會ノ幹部ハ右會社ヨリ提供スル金員ヲ電氣料未拂者ニ其ノ未拂額ニ應シテ分配スルコトト定メ之ヲ翌二十六日協會ノ臨時總會ニ發表セントスルニ至リシカ斯克テハ從來料金ヲ支拂ヒ來タリシ需要家所謂既納者ノ反感ヲ惹起シ却テ集金ノ困難ハ益其ノ度ヲ加フルノ虞ヲ生スルコト必然ナルニ因リ右會社ハ右金員ヲ未納者ニ分配セサル様被告人等ニ懇請シタルモ肯カレサリシノミナラス却テ既納者ニ對シテモ同様ノ恩典ヲ與フルニ如カスト主張セラレタルヲ以テ更ニ同月二十九日三十日ニ互リ再度ノ會見ヲ爲シ折衝ヲ重ネタル末右會社モ止ムナク其ノ要求ヲ容ルルコトトナリ昭和二年二月一日同會社ヨリ右協會ニ對シ既納者中山爲義外約千三百名ニ對シ拂

強制處分ニ於テ宣誓シタル證人ノ豫審ニ於ケル宣誓ノ要否

戻スヘキ前記期間内ノ既收料金二萬五千七百二十九圓三十七錢ニ對スル一割五分ニ相當スル金三千八百五十九圓四十一錢ヲ集金手數料ノ義ニテ提供シ之ヲ各既納者ヘ拂戻スヘキコトヲ委託シ被告人ハ該金員ヲ會社ヨリ受領保管中該金員カ集金手數料ナル名目ニテ提供セラレ在ルヲ奇貨トシ之ヲ既納者ニ拂戻サスシテ擅ニ協會ノ費用ニ充テントトテ決意シ翌二日東岩瀬町松本樓ニ於テ開催セラレタル同協會實行委員會ノ席上ニ於テ該金員ハ協會カ集金手數料トシテ受領シタルモノナリト發表シ既納者ニ拂戻ヲ爲ササル旨ノ決議ヲ爲サシメ以テ該金圓全部ヲ自己ニ於テ領得シ横領シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百五十二條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年二月 處シ尙刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀アリト認ムルヲ以テ同法第二十五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ニ依リ裁判確定ノ日ヨリ五年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

尙豫審判事ハ宮城彦造ニ對スル横領被疑事件ニ付檢事ノ請求ニ依リ強制處分トシテ證人板坂榮吉同四谷庄松ニ對シ宣誓ヲ爲サシメテ訊問シ該事件カ豫審ニ繫屬スルニ及ンテ更ニ同證人等ヲ訊問シタルモ宣誓ヲ爲サシメサリシモノニシテ第二審判決ハ右兩名ノ豫審調書ヲ證據トシテ採用シタリ

○理 由

被告人辯護人高井千尋 赤井幸夫ト告趣意書第四點原判決ハ證人板坂榮吉ニ對スル第二回豫審訊問調書同四谷庄松ニ對スル第三回豫審訊問調書ナル書面ヲ斷罪ノ資料ニ供シタリ仍テ記録ヲ閱スルニ本

件公訴提起後ニ於テ豫審判事カ右證人ヲ訊問スルニ當リ刑事訴訟法第八十六條ノ關係ヲ問查シタル上宣誓ヲ爲サシメタル事跡ノ見ルヘキモノナシ尤モ右兩名ハ起訴前ノ強制處分ニ於テ證人トシテ訊問セラレタル時ハ宣誓ヲ爲シタリト雖豫審判事カ起訴前ニ於ケル強制處分トシテ訊問スル場合ト公訴提起後ニ於テ證人トシテ訊問スル場合トハ其ノ性質ヲ異ニスルヲ以テ前ニ起訴前ノ強制處分トシテ訊問セル場合ニ於テ宣誓ヲ爲サシメタリトノ理由ヲ以テ公訴提起後ニ於テ證人ヲ訊問スル場合ニ於テ其ノ宣誓手續ノ省略スルヲ得サルモノナリト信ス果シテ然ラハ右證人ノ訊問手續ハ違法ナルヲ以テ前示證人訊問調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ○依テ記録ヲ查スルニ本件豫審請求後ニ於テ豫審判事カ所論證人板坂榮吉同四谷庄松ヲ訊問スルニ當リ宣誓ヲ爲サシメタル事跡ナキコト竝原判決カ之等ノ訊問調書ヲ採テ罪證ニ供シタルコト所論ノ如クニシテ該證人等カ刑事訴訟法第二百一條第二百二條ニ該當スルモノナルコトハ之ヲ認メ難シ但シ本件公訴提起前檢事ノ請求ニ依リ同一豫審判事カ取調ヲ爲シタル前示各證人訊問調書ニハ各證人ヲシテ宣誓ヲ爲サシメタル旨ノ記載アレトモ起訴前ノ強制處分ト豫審處分トハ別箇ノ訴訟手續ニ屬スルモノナルヲ以テ縱令強制處分手續ニ於テ已ニ一タヒ宣誓ヲ爲サシメタル證人ト雖豫審請求ニ基キ更ニ之カ訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ新ニ宣誓ヲ爲サシメサルヘカラス否ラスンハ其ノ訊問調書ハ違法ニシテ無効ナリトス原判決カ前記ノ如ク是等無効ノ豫審訊問調書ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ採證ノ法則ニ違背スルノミナラ

強制處分ニ於テ宣誓シタル證人ノ豫審ニ於ケル宣誓ノ要否

ス其ノ不法ハ事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスコト明白ナレハ論旨ハ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス依テ刑
事訴訟法第四百四十條ニ依リ主文ノ如ク決定ス

○機船底曳網漁業取締規則違反被告事件

(昭和五年(九)第一六五七號
同年十二月八日第二刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 一柳房太郎 辯護人 花本福次郎

【第一審】 高知區裁判所 【第二審】 高知地方裁判所

○判示事項

新舊兩法ニ於ケル刑ノ輕重

○判決要旨

機船底曳網漁業取締規則ニ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ

處ストアルヲ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
ト改メタル新法ノ刑ハ舊法ヨリ輕シトス

【參照】 刑法第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

大正十年農商務省令第三十一號機船底曳網漁業取締規則第十九條 機船底曳網漁業ヲ爲ス船舶ノ船長又ハ船長ノ職務ヲ執リタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
二 禁止區域内ニ於テ操業シタルトキ
昭和五年農林省令第五號改正機船底曳網漁業取締規則第十九條ノ三 機船底曳網漁業者漁業法第六十四條ノ規定ニ依リ第十八條又ハ第十九條ノ適用ヲ受クル場合ニ於テ違反行爲ヲ爲シタル當該機船底曳網漁船ノ船長、船長ノ職務ヲ執ル者又ハ操業ノ指揮ヲ爲ス者モ亦三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人房太郎幸太郎ヲ各罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ各被告人ヲ二十五日間勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ全部被告人兩名ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人房太郎ハ機船底曳網漁業船第一喜昌丸被告人幸太郎ハ同漁船第二喜昌丸ノ各船長トシテ乘組ミ

新舊兩法ニ於ケル刑ノ輕重

共謀ノ上昭和五年三月四日午前十一時三十五分同漁業禁止區域タル土佐國室戸崎ヨリ烏帽子山頂上ニ至ル線内ナル高知縣安藝郡和喰村陸地ヲ距ル五海里半ノ沖合ニ於テ二艘曳機船底曳網漁業ノ操業ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ所爲ハ刑法第六十條機船底曳網漁業取締規則第十九條第一項第二號大正十年九月二十二日農商務省告示第二百二十三號機船底曳網漁業禁止區域第二十九號ニ各該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ各被告人ヲ罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條第一項ニ則リ各被告人ヲ二十五日間勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ヲ適用シ全部被告人兩名ヲシテ連帶シテ負擔セシムヘキモノトス

第二審ハ昭和五年九月十三日本件判決ヲ言渡シタル處同月十五日農林省令第五號ヲ以テ機船底曳網漁業取締規則ヲ改正シ同令ハ同日公布セラレ同附則ニ依リ第一條ヲ除キ公布ノ日ヨリ施行セラレタルモノトス

上告審ハ原判決ヲ破毀シ第二審ト同一主文ノ判決ヲ言渡シタリ

○理由

仍テ職權ヲ以テ第二審判決後刑ノ變更アリタルヤ否ヲ調査スルニ大正十年農商務省令第三十一號機船

【要旨】

底曳網漁業取締規則第十九條第一項第二號ハ昭和五年九月十三日第二審判決アリタル後同年同月十五日農林省令第五號同取締規則第十九條ノ三ヲ以テ改正セラレ即日施行セラレタルモノニシテ舊法ニ於テハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ストアリタルヲ新法ニ於テ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處スト變更セラレタルモノナルヲ以テ同省令實施前ノ被告兩名ノ原判示行爲ニ付テハ刑法第六條第十條ニ則リ新舊兩法ノ刑ノ輕重ヲ比照シ其ノ輕キモノヲ適用スヘキモノトス而シテ前記ノ如ク新法ハ舊法ノ刑ヲ改正シ新ニ選擇刑トシテ懲役刑ニ比シ輕キ禁錮刑ヲ加ヘ其ノ自由刑ノ裁量範圍ヲ擴張シタルモノナレハ即新法ノ刑ハ舊法ニ比シ輕キモノト謂ハサルヘカラス從テ原判決ハ右新舊兩法ヲ比照シ輕キ新法ヲ適用ヤサリシ點ニ於テ違法アリテ本件上告ハ其ノ理由アリ破毀ヲ免レス仍テ原判決ノ認定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告兩名ノ所爲ハ舊法ニ於テハ機船底曳網漁業取締規則第十九條第一項第二號大正十年九月二十二日農商務省告示第二百二十三號機船底曳網漁業禁止區域第二十九號ニ該當シ新法ニ於テハ同取締規則第十九條ノ三及前示機船底曳網漁業禁止區域第二十九號ニ該當スル處犯罪後法令ニ因リ刑ノ變更アリタルヲ以テ刑法第六條第十條ニ則リ右新舊兩取締規則ノ刑ノ輕重ヲ比照スルニ新法ノ刑輕キヲ以テ同法ニ從ヒ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ被告兩名ヲ各罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條第一項ニ則リ各被告人ヲ二十五日間勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ全部被告人兩名ヲ

シテ連帶負擔セシムヘキモノトシ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事三橋市太郎關與

○銃砲火藥類取締法違反幫助銃砲火藥類取締法施行規則違反幫助
等被告事件 (昭和五年(九)第一六四一號 一部被覆自判)
(同年十二月十二日第一刑事部判決 一部棄却)

【上告人】 被告人 淺田長太郎 辯護人

外二名

大堀 勝
佐々木 保
柳 直
赤井 幸
井崎 直
幸夫 義

【第一審】 金澤地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト想像的競合罪——營業者ノ火藥類讓渡罪

ヲ幫助スル非營業者ノ處分

○判決要旨

一營業者力許可ヲ受ケサル者ニ拳銃又ハ火藥類ヲ讓渡スル場合ニ於テ一面營業者ノ讓渡ヲ幫助スルト同時ニ他面讓受人ノ拳銃ノ入手又ハ火藥類ノ讓受ヲ幫助スル行爲ハ刑法第五十四條第一項ニ所謂一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノニ該當シ併合罪ヲ以テ論スヘキモノニ非ス【要旨第一】

二營業者力許可ヲ受ケサル者ニ火藥類ヲ讓渡スル場合ニ於テ其ノ讓渡ヲ幫助スル非營業者ヲ從犯トシテ處罰スルニハ刑法第六十五條第二項ニ依リ銃砲火藥類取締法第六條第十九條ノ刑ニ照シ減輕スヘキモノニシテ同法施行規則第四十二條第四十五條ノ刑ニ照シ減輕スヘキモノニ非ス【要旨第二】

【參照】 銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條 拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ職務又ハ銃砲ニ關スル營業ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ授受、運搬又ハ携帯スルコトヲ得ス

拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト想像的競合罪 營業者ノ火藥類讓渡罪ヲ幫助スル非營業者ノ處分

前項ノ規定ハ仕込刀劔其ノ他ノ武器ニ之ヲ準用ス

同第四十二條 營業者ハ許可ヲ受ケサル者ニ銃砲火藥類又ハ第三十九條ノ武器ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ讓受ニ付許可ヲ要セサル場合及銃砲火藥類取締法施行區域外ニ居住スル者ニシテ當該行政官廳ニ依リ移入ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シ銃砲火藥類ヲ移出讓渡スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

同第四十五條 第七條、第八條第二項、第十條第一項、第十三條、第十四條、第十五條ノ第二項、第二十二條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第三十一條、第三十二條、第三十六條第一項、第三十七條第一項、第三十八條、第四十二條及第四十三條ノ規定ニ違反シタル者、第三十三條ノ規定ニ違反シ又ハ本令ニ依ル許可若ハ指定ノ範圍ヲ超エテ火藥類ヲ貯藏シタル者並本令ニ基キテ發スル内務大臣ノ命令ノ規定ニ適合セサル火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

同第四十六條 第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

銃砲火藥類取締法第六條 軍用銃砲、火藥類ノ讓渡又ハ讓受ハ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

同法第十九條 第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

刑法第五十四條第一項 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

同法第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

同法第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

同法第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其ノ身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人淺田長太郎ヲ懲役八月被告人宮田惠二ヲ懲役六月被告人高橋保治ヲ懲役二月ニ處ス但シ各被告人ノ未決勾留日數中四十日ヲ各本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一(A)イ 神戸市三ノ宮町一丁目銃砲火藥商「イデオデグー」ハ其ノ店員ナル被告富士山靜吉ト共謀ノ

上同人取扱ノ下ニ昭和二年八月二十五日頃中島雪之介ノ依頼ヲ受ケ同人カ銃砲火藥類ノ讓受ニ付法定ノ資格ナキモノナルコトヲ知り乍ラ後記被告人淺田長太郎ノ幫助行爲ノ下ニ拳銃四百挺ヲ右雪之介ニ讓渡シテ交付シ

(ロ) 被告人淺田長太郎ハ前記讓渡ニ付無資格者ヘノ讓渡ナルコトノ情ヲ知り乍ラ其ノ頃銃砲火

拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト想像的競合罪 營業者ノ火藥類讓渡罪ヲ幫助スル非營業者ノ處分

藥商瀧本正教ト共謀ノ上同人ノ代理人名義ノ前記拳銃ノ虛偽ノ買受證受取證ヲ右「イーデグ」方ニ於テ被告入富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ主家ノ帳簿ニ其ノ旨記載セシメ以テ右ノ如キ不正賣買ニ付之ヲ營業者間ノ正當賣買ノ如ク假裝シ以テ右讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(B) (1)イ

右「イーデグ」ハ被告人富士山靜吉ト共謀ノ上同人取扱ノ下ニ右「イーデグ」方ニ於テ前記中島雪之介ニ昭和二年八月二十三日頃拳銃二百挺同月三十一日頃拳銃三百挺昭和三年五月十九日頃拳銃三百挺計八百挺昭和二年七月下旬頃ヨリ昭和三年五月下旬頃迄ノ間ニ數回ニ拳銃用實包約十萬箇ヲ前同様後記被告人淺田長太郎河内梅次郎ノ幫助行爲ノ下ニ密賣讓渡シテ交付シ

(ロ) 被告人淺田長太郎及銃砲火藥商河内梅次郎ハ共謀ノ上右讓渡ニ付密賣ノ情ヲ知り乍ラ營業者タル梅次郎名義ノ各該當ノ虛偽ノ買受證受取證ヲ「イーデグ」方ニ於テ數回ニ被告人富士山靜吉ニ交付シ以テ前同様正當ノ賣買ノ如ク假裝シ該讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(2) (1)イ

右「イーデグ」ハ被告人富士山靜吉ト共謀ノ上同人取扱ノ上右「イーデグ」方ニ於テ被告人宮田惠二ノ依頼ニ基キ同人カ拳銃實包ノ讓受ニ付法定ノ資格ナキモノナルコトヲ

知り乍ラ同被告人ニ對シ昭和二年十二月二十二日頃拳銃百九十挺昭和三年一月十日頃拳銃二百挺同年四月十七日頃拳銃百挺同月二十七日頃拳銃九十五挺同年五月二十一日頃拳銃百挺計六百八十五挺昭和二年七月下旬ヨリ昭和三年五月下旬迄ノ間數回ニ拳銃用實包計十八萬五百五十箇ヲ後記被告人淺田長太郎河内梅次郎ノ幫助行爲ノ下ニ讓渡シテ交付シ

(ロ) 被告人淺田長太郎河内梅次郎ハ該拳銃實包ノ讓渡讓受ニ付其ノ大連方面へ送付スルノ情ヲ知り乍ラ共謀ノ上前記各讓渡ノ都度其ノ頃營業者タル被告人梅次郎名義ノ各虛偽ノ買受證受取證ヲ「イーデグ」方ニ於テ被告人富士山靜吉ニ數回ニ交付シ同被告人ヲシテ其ノ旨主家ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該不正讓渡竝之ニ對スル被告人宮田惠二ノ讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(ハ) 被告人宮田惠二ハ前記日時場所ニ於テ其ノ讓受ノ資格ナクシテ前記拳銃實包ヲ讓受ケ其ノ頃更ニ之ヲ野尻佐吉ニ賣却スル爲メ其ノ販賣ニ付法定ノ資格ナクシテ數回ニ神戸港ヨリ大連ニ發送シテ販賣シ以テ同被告人ノ後記販賣ト相俟テ銃砲火藥類ノ無免許販賣營業ヲ爲シ
(3) (1) 被告人富士山靜吉ハ「イーデグ」ト共謀ノ上火藥實包ノ讓受ニ付法定ノ資格ナキ小松六太郎ニ對シ昭和二年七月下旬頃ヨリ昭和三年五月下旬頃迄ノ間ニ拳銃用實包三萬箇ヲ被告人淺田長太郎河内梅次郎三輪義雄ノ後記幫助行爲ノ下ニ讓渡シ

拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト想像的競合罪 營業者ノ火藥類讓渡罪ヲ幫助スル非營業者ノ處分

(ロ) 被告人淺田長太郎 河内梅次郎 三輪義雄ハ右讓渡ニ付共謀ノ上其ノ無資格者ヘノ讓渡ナルコトノ情ヲ知り乍ラ其ノ頃營業者タル被告人梅次郎名義ノ虛偽ノ買受證受取證ヲ「イーデグー」方ニ於テ被告人富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ其ノ旨主家ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該不正讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ幫助シ

(C) (1) (イ) 前示「イーデグー」ハ被告人富士山靜吉ト共謀ノ上同人取扱ノ下ニ昭和三年二月十八日頃ヨリ同年三月二十九日頃迄ノ間數回ニ拳銃千挺同年二月二十日頃ヨリ同年三月十二日頃迄數回ニ實包四十三萬箇ヲ前記宮田惠二ニ對シ其ノ讓受ニ付法定ノ資格ナキコトヲ知り乍ラ被告人淺田長太郎原審相被告室石清秀 坂本五三松ノ後記幫助行爲ノ下ニ各讓渡シ

(ロ) 被告人淺田長太郎ハ原審相被告室石清秀及銃砲火藥商坂本五三松ト共ニ該拳銃實包ノ讓渡讓受ニ付大連ニ發送スルノ事情ヲ知悉シ共謀ノ上其ノ都度營業者タル坂本五三松ノ營業主任室石清秀名義ノ各前記物件ニ該當スル虛偽ノ買受證受取證ヲ「イーデグー」方ニ於テ數回ニ被告人富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ其ノ旨主家ノ帳簿ニ記載セシメ所謂籍拔ヲ爲シ以テ該不正ノ讓渡竝ニ之ニ對スル被告人宮田惠二ノ後記讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(ハ) 被告人宮田惠二ハ前記日時場所ニ於テ其ノ讓受竝販賣ノ無資格ナルニ前記拳銃實包ヲ讓受ケ其ノ頃之ヲ野尻佐吉ニ賣却スル爲メ數回ニ神戸港ヨリ大連ニ發送シテ販賣シ以テ其ノ無免許販賣營業行爲ヲ爲シ

(2) (イ) 右「イーデグー」ハ被告人富士山靜吉ト共謀ノ上同人取扱ノ下ニ昭和三年三月六日頃及同月十二日頃實包六萬箇ヲ前記無資格者小松六太郎ニ被告人淺田長太郎 三輪義雄及原審相被告室石清秀 坂本五三松ノ後記幫助行爲ノ下ニ讓渡シ

(ロ) 被告人淺田長太郎 三輪義雄ハ右室石清秀 坂本五三松ト右實包讓渡ニ付共謀ノ上其ノ頃其ノ情ヲ知り乍ラ營業者タル右坂本五三松ノ營業主任室石清秀名義ノ前記各物件ニ該當スル虛偽ノ買受證受取證ヲ「イーデグー」方ニ於テ被告人富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ主家ノ帳簿ニ其ノ旨記載セシメ以テ讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(D) (1) (イ) 右「イーデグー」ハ被告人富士山靜吉ト共謀ノ上同人取扱ノ下ニ昭和三年六月七日頃拳銃五百挺同年七月七日頃拳銃百挺同月二十日頃拳銃二百挺同年八月十日頃拳銃三百挺同月十四日頃拳銃三百五十挺計千四百五十挺昭和三年六月六日頃ヨリ同年八月十六日頃迄ノ間數回ニ實包十六萬箇ヲ被告人淺田長太郎 塚原彦平原審相被告八田安吉ノ後記幫助行爲ノ下ニ前記其ノ讓受ニ付無資格者タル中島雪之介ニ讓渡シテ交付シ

(ロ) 被告人淺田長太郎 塚原彦平ハ右拳銃實包ノ讓渡ニ付共謀ノ上又同年七月上旬頃右八田拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト想像的競合罪 營業者ノ火藥類讓渡罪ヲ幫助スル非營業者ノ處分

安吉ト共謀ニテ執レモ右情ヲ知り乍ラ同年六月ヨリ七月上旬頃迄ハ營業者タル被告人塚原彦平名義其ノ後右八田安吉ト共謀後ハ被告人塚原彦平ノ支配人倉本信吾(八田安吉ノ偽名)名義ノ各前記ニ該當スル虛偽ノ買受證受取證ヲ數回ニ「イーデゲー」方ニ於テ被告人富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ其ノ旨主家ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該不正ノ讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメ

(2イ) 右「イーデゲー」ハ被告人富士山靜吉ト共謀ノ上同人取扱ノ下ニ昭和三年六月九日頃ヨリ同年八月十八日頃迄ノ間數回ニ拳銃二千四十六挺同年六月上旬頃ヨリ同年八月中旬頃迄ノ間ニ數回ニ實包十五萬五千箇ヲ前記被告人宮田惠ニ同人カ法定ノ資格ナクシテ讓受クルモノナルコトヲ知り乍ラ被告人淺田長太郎 塚原彦平 八田安吉ノ後記幫助行爲ノ下ニ讓渡シテ交付シ

(ロ) 被告人淺田長太郎 塚原彦平ハ右拳銃實包ニ付大連方面ヘノ發送ノ情ヲ知りナカラ右讓渡ノ都度同年六月ヨリ七月上旬頃迄ハ被告人淺田 塚原兩名共謀ノ上營業者タル被告人塚原彦平名義其ノ後ハ右情ヲ知レル原審相被告八田安吉ヲ加ヘ三名ノ共謀ニテ右塚原彦平ノ支配人倉本信吾(八田安吉ノ偽名)名義ノ各前記拳銃實包ニ該當スル虛偽ノ買受證受取證ヲ「イーデゲー」方ニ於テ數回ニ被告人富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ其ノ旨主家ノ帳簿

ニ記載セシメ以テ該讓渡讓受行爲竝ニ之ニ對スル被告人宮田惠ニ讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(ハ) 被告人宮田惠ニハ法定ノ資格ナクシテ前記ノ如ク拳銃實包ヲ讓受ケ之ヲ其ノ頃野尻佐吉ニ賣却スル爲數回ニ神戸港ヨリ大連ニ發送シテ販賣シ以テ無免許販賣營業行爲ヲ爲シ

(3イ) 右「イーデゲー」ハ被告人富士山靜吉ト共謀ノ上同人取扱ノ下ニ昭和三年六月上旬頃ヨリ同年八月中旬頃迄ノ間數回ニ實包十四萬箇ヲ「イーデゲー」方ニ於テ前記小松六太郎ニ對シ被告人淺田長太郎 塚原彦平 三輪義雄及原審相被告人八田安吉等ノ後記幫助行爲ノ下ニ讓渡シ

(ロ) 被告人淺田長太郎 塚原彦平 三輪義雄ハ執レモ該讓渡ニ付其ノ情ヲ知り乍ラ同年六月ヨリ七月上旬頃迄ハ淺田 塚原 三輪共謀ニテ營業者タル被告人塚原彦平名義其ノ以後ハ右情ヲ知レル原審相被告八田安吉ヲ加ヘタル四名ノ共謀ニテ被告人塚原彦平ノ支配人倉本信吾(八田安吉ノ偽名)名義ノ各虛偽ノ買受證受取證ヲ「イーデゲー」方ニ於テ數回ニ被告人富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ其ノ旨主家ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該不正讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(4イ) 右「イーデゲー」ハ被告人富士山靜吉ト共謀ノ上同人取扱ノ下ニ昭和三年六月上旬ヨリ

拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト想像的競合罪 營業者ノ火藥類讓渡罪ヲ幫助スル非營業者ノ處分

同年八月中旬頃迄ノ間數回ニ實包十三萬箇ヲ其ノ讓受ニ付無格者タル矢部郁太郎ニ被告人淺田長太郎、塚原彦平及原審相被告八田安吉ノ後記幫助ノ行爲ノ下ニ讓渡シ

(ロ) 被告人淺田長太郎、塚原彦平ハ該讓渡ニ付キ其ノ情ヲ知リ乍ラ同年七月上旬頃迄ハ淺田塚原兩名ノ共謀ニテ營業者タル被告人塚原彦平名義其ノ後ハ右情ヲ知レル八田安吉ヲ加ヘタル三名共謀ニテ被告人塚原彦平ノ支配人倉本信吾名義ノ各虛偽ノ買受證受取證ヲ「イーデグー」方ニ於テ數回ニ被告人富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ其ノ旨主家ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

第二A(1)

被告人淺田長太郎、河内梅次郎ハ銃砲商タル其ノ主人内芝傳一カ三輪義雄ト共謀ノ上同人ノ取扱ニテ昭和二年九月一日頃拳銃二百挺同月三日頃同三百挺同月三十日頃同三百挺計八百挺ヲ其ノ讓受ニ付法定ノ資格ナキ前記中島雪之介ニ讓渡スルニ際リ其ノ頃右情ヲ知リ乍ラ共謀ノ上營業者タル被告人河内梅次郎名義ノ右ニ該當スル虛偽ノ買受證受取證ヲ右傳一方ニ於テ數回ニ三輪義雄ニ交付シ同人ヲシテ主家ノ帳簿ニ其ノ旨記載セシメ以テ該讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(2) 被告人淺田長太郎、河内梅次郎ハ内芝傳一カ三輪義雄ト共謀ノ上同人ノ取扱ニテ昭和三年三月二十二日頃拳銃三百挺同年四月二日頃同三百挺同月四日頃同五百挺同年五月二十一日頃

同三百挺同年六月一日頃同二百挺同月七日頃同二百挺同年七月七日頃同三百挺計二千百挺ヲ其ノ讓受資格ナキ小松六太郎ニ讓渡交付スルニ際リ其ノ頃右ノ情ヲ知リ乍ラ營業者タル被告人梅次郎名義其ノ虛偽ノ買受證受取證ヲ前記内芝方ニ於テ三輪義雄ニ數回ニ交付シ同人ヲシテ其ノ旨主家ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(B) 被告人淺田長太郎ハ原審相被告人室石清秀及坂本五三松ト共謀シ内芝傳一カ三輪義雄ト共謀ノ上同人ノ取扱ニテ昭和三年二月三日頃拳銃二百挺同月四日同二百挺同月十八日頃同二百挺

同月二十日頃同二百挺同年三月五日頃同二百挺同月十四日頃同三百挺計千三百挺ヲ其ノ讓受資格ナキ前記小松六太郎ニ讓渡スルニ當リ其ノ頃右ノ情ヲ知リ乍ラ共謀ノ上營業者タル被告人坂本五三松ノ營業主任室石清秀名義ノ右物件ニ該當スル虛偽ノ買受證受取證ヲ前記内芝方ニ於テ三輪義雄ニ數回ニ交付シ同人ヲシテ其ノ旨主家ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(C) 被告人淺田長太郎、塚原彦平ハ内芝傳一カ三輪義雄ト共謀ノ上同人ノ取扱ヒニテ昭和三年六月二十八日頃拳銃二百五十挺同年七月三日頃二百五十挺同月二十四日頃同三百挺同月三十日

頃同二百挺同年八月六日頃同三百挺同月十日頃同三百挺同月十二日頃同二百挺計千八百挺ヲ其ノ讓受資格ナキ小松六太郎ニ讓渡スルニ際リ孰レモ右ノ情ヲ知リ乍ラ同年七月上旬頃迄ハ

拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト想像的競合罪 營業者ノ火藥類讓渡罪ヲ幫助スル非營業者ノ處分

淺田塚原兩名ノ共謀ニテ營業者タル被告人塚原彦平名義ノ其ノ後ハ情ヲ知レル原審相被告八田安吉ヲ加ヘタル三名ノ共謀ニテ右塚原彦平ノ支配人倉本信吾(八田安吉ノ偽名)名義ノ各虛偽ノ買受證受取證ヲ右内芝方ニ於テ三輪義雄ニ數回ニ交付シ同人ヲシテ其ノ旨主家ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

第三(A1)

(1) 被告人高橋保治ハ銃砲火藥商ナル處昭和二年九月一日頃拳銃四百挺ヲ前記肩書住居自宅店舗ニ於テ其ノ讓受ニ付法定ノ資格ナキ中島巖ニ被告人淺田長太郎原審相被告小橋章義ノ後記幫助行爲ノ下ニ讓渡シテ交付シ

(2) (ロ) 被告人淺田長太郎ハ右小橋章義及瀧本正教ト共謀シ右讓渡ニ付其ノ情ヲ知リ乍ラ高橋保治ヨリ營業者タル右小橋章義ニ章義ヨリ更ニ營業者タル瀧本正教ニ各讓渡シタル如ク營業帳簿上假裝シ以テ該讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(イ) 被告人高橋保治ハ昭和二年十一月十一日頃拳銃三百挺ヲ其ノ讓受ニ付無資格者タル矢部郁太郎ニ讓渡スルニ當リ原審相被告人タル有資格者小橋章義及有資格者久木田宗太郎ノ自稱代理人富田秀雄等ノ幫助ニ依リ恰モ同人等ニ讓渡スルカ如ク營業帳簿ヲ假裝シ以テ容易ニ右矢部郁太郎ニ該讓渡行爲ヲ爲シ

(B)

(1) 被告人高橋保治ハ昭和三年二月二十一日頃ヨリ四月十四日頃迄ノ間數回ニ自宅店舗ニ於

テ實包二十四萬箇ヲ其ノ讓受ニ付法定ノ資格ナキ矢部郁太郎ニ被告人淺田長太郎原審相被告坂本五三松室石清秀ノ後記幫助行爲ノ下ニ讓渡シ

(ロ) 被告人淺田長太郎ハ右坂本五三松室石清秀ト共謀シ右讓渡ニ付其ノ情ヲ知リ乍ラ數回ニ被告人高橋保治方ニ於テ營業者タル坂本五三松代人室石清秀名義ノ虛偽ノ買受證受取證ヲ被告人高橋保治ニ交付シ同被告人ヲシテ自己ノ帳簿ニ其ノ旨記載セシメ該讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(C)

(1) 被告人高橋保治ハ昭和三年四月二日頃及同年五月二十五日頃ノ二回ニ實包二十六萬箇ヲ其ノ讓受ニ付法定ノ資格ナキ矢部郁太郎ニ被告人淺田長太郎河内梅次郎ノ後記幫助行爲ノ下ニ讓渡シ

(ロ) 被告人淺田長太郎河内梅次郎ハ該讓渡ニ付其ノ情ヲ知リ乍ラ共謀ノ上營業者タル被告人河内梅次郎名義ノ虛偽ノ買受證ヲ被告人高橋保治肩書場所ニ於テ同被告人ニ交付シ同人ヲシテ其ノ旨自己ノ營業帳簿ニ記載セシメ以テ該讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(D)

(1) 被告人高橋保治ハ昭和三年八月十一日頃實包十萬箇ヲ其ノ讓受ニ付法定ノ資格ナキ矢部郁太郎ニ被告人淺田長太郎塚原彦平ノ後記幫助行爲ノ下ニ讓渡シ

(ロ) 被告人淺田長太郎塚原彦平ハ右讓渡ニ付其ノ情ヲ知リ乍ラ共謀ノ上其ノ頃營業者タル拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト想像的競合罪 營業者ノ火藥類讓渡罪ヲ幫助スル非 營業者ノ處分

被告人塚原彦平名義ノ虚偽ノ買受證受取證ヲ被告人高橋方ニ於テ同人ニ交付シ同被告人ヲシテ其ノ旨自己ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(E) (1) (イ) 被告人高橋保治ハ昭和二年八月頃ヨリ同年十一月中旬頃迄ノ間ニ實包十八萬箇ヲ其ノ讓受ニ付法定ノ資格ナキ中島巖ニ被告人淺田長太郎及日本商事株式會社大阪支店主任佐々木伊勢營業者瀧本正教ノ後記幫助行爲ノ下ニ讓渡シ

(ロ) 被告人淺田長太郎ハ右讓渡ニ付其ノ頃右ノ情ヲ知リ乍ラ右佐々木伊勢瀧本正教ト共謀ノ上被告人高橋保治ヨリ右日本商事會社ヘ讓渡シタル如ク同會社ノ營業帳簿上假裝シ更ニ瀧本正教カ同會社ヨリ讓受シタル如ク正教名義ノ虚偽ノ買受證ヲ大阪市西區川口町ノ同會社ニ於テ佐々木ニ交付シ該讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(2) 被告人高橋保治ハ昭和二年八月下旬頃ヨリ同年十一月中旬迄ノ間ニ數回ニ實包十萬箇ヲ其ノ讓受ニ付無資格者タル矢部郁太郎ニ前同様營業帳簿上他ノ營業者ヘ讓渡シタルモノノ如ク裝ヒテ讓渡シ

第四(A) (1) 被告人淺田長太郎 河内梅次郎ハ原審相被告人ニシテ銃砲火藥商ナル小橋章義ト共謀シ同人カ(イ)昭和二年二月及三月中旬ノ二回ニ未タ神戸税關ニ於テ通關手續ヲ經サル拳銃千挺(ロ)昭和二年四月中及昭和三年四月中ノ二回ニ宮田惠二カ西班牙ローヤ拳銃製造元

「ベテングイーエルマース」支配人「レノートシツキンカー」ヨリ船荷證券ノ儘買入レタル拳銃三千挺ノ内未タ神戸税關ニ於テ通關手續ヲ經サルモノ千挺ニ付各自ラ通關名義人ト爲リテ同被告人ノ爲通關シ遣リ宮田惠二ニ入手セシメタルモノノ内五百挺ニ付宮田惠二カ大連ヘ發送スルコトノ情ヲ知リナカラ昭和二年二月ヨリ四月頃迄ノ間ニ小橋方ニテ同人ニ對シ營業者ナル河内梅次郎名義ノ虚偽ノ買受證等ヲ交付シ小橋ヲシテ其ノ旨帳簿ニ記載セシメ宮田惠二ノ讓受行爲ヲ容易ナラシメテ幫助シ

(2) 被告人淺田長太郎ハ原審相被告坂本五三松 室石清秀及前記小橋章義ト共謀ノ上前記(A) (1) (ロ)ノ内五百挺ニ付昭和三年四月十一日宮田惠二カ大連ヘ發送スルモノナルコトノ情ヲ知リナカラ右小橋方ニ於テ營業者タル相被告坂本五三松ノ營業主任室石清秀名義其ノ虚偽ノ買受證ヲ小橋章義ニ交付シ同人ヲシテ其ノ旨帳簿ニ記載セシメ以テ被告人宮田惠二ノ讓受行爲ヲ容易ナラシメテ幫助シ

(B) 被告人宮田惠二ハ前記第四ノ(A) (1) (イ) (ロ)ノ如キ被告人小橋章義ノ通關手續ニテ入手シタル拳銃ノ一部ヲ前記第四ノ(A) (1) (2)ノ如ク其ノ籍拔ヲ爲シ貫ヒタル上各其ノ頃野尻佐吉ニ賣却ノ爲數回ニ神戸港ヨリ大連ニ發送シ以テ無免許ニヨル其ノ販賣營業行爲ヲ爲シ

第五 被告人淺田長太郎 河内梅次郎ハ共謀ノ上昭和二年八月七日頃ヨリ同年九月二十九日頃

拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト想像的競合罪 營業者ノ火藥類讓渡罪ヲ幫助スル非營業者ノ處分

迄ノ間ニ中島巖カ自ラ實包讓受ノ資格ナキニ拘ラス前記日本商事株式會社大阪支店ヨリ實包十四萬七千箇ヲ讓受クルニ當リ其ノ情ヲ知リ乍ラ其ノ頃被告人河内梅次郎名義虛偽ノ買受證受取證ヲ右會社ニ於テ支店主任佐々木伊勢ニ交付シ同人ヲシテ右會社ノ帳簿ニ其ノ旨ノ記載ヲ爲フシメ以テ右ノ巖ノ讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

第六

(イ) 被告人宮田惠二ハ昭和三年三月十九日大阪市西區立賣堀北通銃砲火藥商小倉商店ヨリ拳銃四百挺ヲ被告人淺田長太郎河内梅次郎ノ後記幫助行爲ノ下ニ讓受ケ其ノ頃法定ノ資格ナクシテ野尼佐吉ニ賣却ノ爲メ神戸港ヨリ大連ニ發送シ以テ無免許營業行爲ヲ爲シ

(ロ) 被告人淺田長太郎河内梅次郎ハ右拳銃ノ讓受ニ付支那方面ヘ發送スルモノナルコトノ情ヲ知リ共謀ノ上其ノ頃營業者タル被告人河内梅次郎名義ノ虛偽ノ買受證受取證ヲ前示小倉商店ニ於テ同店員ニ交付シ其ノ旨帳簿ニ記載セシメ所謂籍拔ヲ爲シ依テ被告人宮田惠二ノ前記讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

第七

被告人淺田長太郎 高橋保治 河内梅次郎ハ共謀ノ上拳銃讓受ニ付法定ノ資格ナキ本田辰次郎カ昭和三年三月二十九日頃大阪市西區京町堀五丁目銃砲火藥商株式會社粟谷商店ヨリ拳銃二百十九挺ヲ讓受クルニ際リ其ノ情ヲ知リ乍ラ其ノ頃營業者タル被告人河内梅次郎名義虛偽ノ買受證受取證ヲ同會社ニ於テ店員ニ交付シ依テ該讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ

幫助シ

タルモノナリ

而シテ以上被告人等ノ各所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルモノニシテ尙被告人淺田長太郎ハ大正十五年七月二十六日大審院ニ於テ銃砲火藥類取締法違反ニ依リ懲役三月ニ處セラレ當時右刑ノ執行ヲ受ケ終了シタルモノナリトス

法律ニ照スニ

(一) 被告人淺田長太郎ノ所爲中 (イ) 拳銃實包讓受ノ幫助ノ點ハ各銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條第四十五條刑法第六十二條第一項ニ該リ右ハ各連續關係ニアリ而カモ其ノ内ニハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルモノアルヲ以テ結局一罪トシ刑法第五十五條第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ拳銃讓渡幫助ノ罪ノ刑ニ從ヒ (ロ) 拳銃讓受ノ幫助ノ點ハ各銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條第一項第四十六條刑法六十二條第一項實包讓受ノ幫助ノ點ハ各銃砲火藥類取締法第六條第十九條刑法第六十二條第一項ニ該當スル所右ハ各連續關係ニアリ其ノ内ニハ一箇ノ所爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノアルヲ以テ結局一罪ト爲シ刑法第五十五條第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ拳銃讓受幫助ノ罪ノ刑ニ從ヒ何レモ其ノ懲役刑ヲ選擇シ累犯ナルヲ以テ刑法第五十六條第五十七條ニ依リ夫々法定ノ加重ヲ爲シ更ニ刑法第六十三條第六十八條第三號ニ從ヒ減刑シ以上ハ併合

拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト想像的競合罪

營業者ノ火藥類讓渡罪ヲ幫助スル非營

罪ニ付同法第四十五條第四十七條第十條ニ依リ重キ拳銃讓受幫助ノ刑ニ同法第四十七條但書ノ制限加重ヲ爲シ被告人ヲ懲役八月ニ處シ尙同法第二十一條ニ則リ未決勾留日數ノ一部四十日ヲ右本刑ニ算入スヘク

(二) 被告人宮田惠二ノ所爲中(イ)拳銃讓受ノ點ハ各銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條第一項第四十六條ニ實包ノ讓受ノ點ハ各銃砲火藥類取締法第六條第十九條第一項ニ該リ(ロ)無免許販賣營業點ハ銃砲火藥類取締法三條第一項十六條ニ該富ル處右拳銃讓受ト實包讓受トハ各續關係アリ且其ノ内ハ一行ニシテ一個罪名ニ觸ルルモアリ尙無免許販賣營業トハ手段結果ノ關係アルヲ以テ結局一罪ニ爲シ刑法五十五條第十四條第一項前段及後段十條ヲ適用シ最モ重キ無免許販賣營業ノ罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定懲役刑ヲ選擇シ同被告人ヲ懲役六月ニ處シ尙刑法第二十一條ニ依リ未決勾留日數ノ一部四十日ヲ右本刑ニ算入スヘク

(三) 被告人高橋保治ノ所爲中拳銃實包讓受ノ點ハ各銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條第四十五條刑法第五十五條ニ該リ拳銃讓受幫助ノ點ハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條第十六條刑法第十五條第六十二條第一項ニ各該富スルヲ以テ各所定懲役刑ヲ選擇シ尙刑法第六十三條第六十八條第二號ニ依リ減刑シ以上ハ併合罪ニ付同法第四十五條第四十七條第十條ニ依リ重キ誣渡ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニテ被告人保治ヲ懲役二月ニ處シ刑法第二十一條ニヨリ未決勾留

日數中四十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

當院ハ被告人長太郎ノ上告理由アリトシ原判決中同被告人ニ關スル部分ヲ破毀シ更ニ同被告人ニ對シ原判決主文ト同旨ノ判決ヲ爲シ被告人惠二及保治ノ上告ヲ棄却シタリ

○ 理 由

被告人長太郎辯護人堀勝介上告趣意書第一點原判決ハ刑法第六十五條第一項第二項ノ適用ヲ遺脱シタル不法アリ(一)被告人淺田長太郎ハ前記事情 知り乍ラ銃砲火藥商濫本正教ト共謀ノ上同人ノ代理人名義ノ前記拳銃ノ虛偽ノ買受證ヲ右イデーケー方ニ於テ被告人富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ主家ノ帳簿ニ其旨記載セシメ以テ右ノ如キ不正賣買ニ付之レヲ營業者間ノ正當賣買ノ如ク假裝シ以テ讓渡行爲ヲ容易ナラシメテ幫助シ(二)被告人淺田長太郎 河内梅次郎ハ共謀ノ上右讓渡ニ付密賣ノ情ヲ知り乍ラ營業者タル被告人梅次郎名義ノ各該當ノ虛偽ノ買受證ヲイデーケー方ニ於テ數回ニ被告人富士山靜吉ニ交付シ前同標正當ノ賣買ノ如ク假裝シ讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ(三)被告人淺田長太郎 河内梅次郎ハ該拳銃實包ノ讓渡讓受ニ付大連方面ヘ送附スルノ情ヲ知り乍ラ共謀ノ上前記各讓渡ノ度其頃被告人梅次郎名義ノ各虛偽ノ買受證ヲ取證チイデーケー方ニ於テ被告人富士山靜吉ニ數回ニ交付シ同被告人ヲシテ其旨ノ家ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該不正讓渡及之ニ對スル被告人宮田惠二ノ讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之レヲ幫助シ(四)被告人淺田長太郎 河内梅次郎 輪義雄ハ右讓渡ニ付共謀ノ上其無資格者ノ讓渡ナルコトノ情ヲ知り乍ラ其頃營業者タル被告人梅次郎名義ノ虛偽ノ買受證ヲ取證チイデーケー方ニ於テ被告人富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ其旨主家ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該不正讓渡行爲ヲ容易ナラシメテ之レヲ幫助シ(五)被告人淺田長太郎 原審相被告人宇石清秀 坂本五三松ト共ニ該拳銃實包讓渡ニ付大連ニ發送スル事情ヲ知悉シ其都度營業者タル被告人坂本五三松 營業主任宇石清秀名義 各前記物件ニ對當スル虛偽ノ買受證ヲ取證チイデーケー方ニ於テ數回ニ被告人富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ其旨主家ノ帳簿ニ記載セシメテ所謂請拔ヲ爲シ以テ該不正讓渡及之ニ對スル被告人宮田惠二ノ讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之レヲ幫助シ(六)被告人淺田長太郎三

拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト相似同競合罪 營業者ノ火藥類讓渡非テ幫助ヘル非營業者ノ處分

輪義雄ハ右石室清秀 坂本五三松ト右實見讓渡ニ付坂本五三松ノ營業主任石室清秀名義ノ前記物件ニ該當スル虚偽ノ受取證受取證ヲ
 イーデー方ニ於テ被告人富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ主家ノ帳簿ニ其旨記載セシメ以テ讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ
 幫助シ(7)被告人淺田長太郎 塚原彦平ハ右拳銃實包ノ讓渡ニ付共謀ノ上同年七月上旬頃者八田安吉ト共謀シ執レモ右情ヲ知りナ
 カラ同年六月ヨリ七月上旬頃迄ハ營業者タル被告人塚原彦平名義其後右八田安吉ト共謀後ハ被告人塚原彦平ノ支配人倉本信吾(八田
 安吉ノ偽名)名義ノ各前記ニ該當スル虚偽ノ買受證受取證ヲ數回ニイーデー方ニ於テ被告人富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ其
 旨主家ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該不正ノ讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ(8)被告人淺田長太郎 塚原彦平ハ右拳銃實
 包ニ付大連方面へ發送ノ情ヲ知り乍ラ右讓渡ノ都度同年六月ヨリ七月上旬頃迄ハ被告人淺田長太郎 塚原彦平共謀ノ上營業者タル被
 告人塚原彦平名義其後ハ右情ヲ知レル原審相被告人八田安吉ヲ加ヘ三名ニテ右塚原彦平ノ支配人倉本信吾(八田安吉ノ偽名)名義ノ
 各前記拳銃實包ニ該當スル虚偽ノ買受證受取證ヲイーデー方ニ於テ數回ニ被告人富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ其旨主家ノ帳
 簿ニ記載セシメ以テ該讓渡行爲並ニ被告人宮田惠二ノ讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ(9)被告人淺田長太郎 塚原彦平 三輪
 義雄ハ執レモ讓渡ニ付其情ヲ知り乍ラ同年六月ヨリ七月上旬頃迄ハ淺田 塚原 三輪共謀ニテ營業者タル被告人彦平名義其以後ハ右情
 ヲ知レル原審相被告人八田安吉ヲ加ヘタタル四名ノ共謀ニテ被告人塚原彦平ノ支配人倉本信吾(八田安吉ノ偽名)名義ノ各虚偽ノ買受
 證受取證ヲイーデー方ニ於テ數回ニ被告人富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ其旨主家ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該不正讓渡讓受行爲
 ヲ容易ナラシメテ幫助シ(10)被告人淺田長太郎 塚原彦平ハ該讓渡ニ付其ノ情ヲ知り乍ラ同年七月上旬頃迄ハ淺田 塚原兩名ノ共謀
 ニテ營業者タル被告人塚原彦平名義其後ハ右情ヲ知レル八田安吉ヲ加ヘタル三名ノ共謀ニテ被告人塚原彦平ノ支配人倉本信吾名義ノ
 各虚偽ノ買受證受取證ヲイーデー方ニ於テ數回ニ被告人富士山靜吉ニ交付シ同被告人ヲシテ其旨主家ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該讓渡
 讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ(11)被告人淺田長太郎 河内梅次郎ハ執砲商タル主人内芝傳一カ三輪義雄ト共謀ノ上同人
 取扱ノ下ニ昭和二年九月一日頃拳銃二百挺同月三日頃同三百挺同月三十日頃同三百挺計八百挺ヲ其讓受ニ付無資格者タル前記中島雪
 之介ニ讓渡スルニ際リ其頃右情ヲ知りナカラ共謀ノ上營業者タル被告人河内梅次郎名義右ニ該當スル虚偽ノ買受證受取證ヲ右傳一方ニ
 於テ數回ニ被告人三輪義雄ニ交付シ同被告人ヲシテ主家ノ帳簿ニ其旨記載セシメテ該讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ(12)被

告人淺田長太郎 河内梅次郎ハ内芝傳一カ三輪義雄ト共謀ノ上同人取扱ノ下ニ昭和三年三月二十一日頃拳銃三百挺同年四月二日頃同
 三百挺同月四日頃同五百挺同年五月二十一日頃同三百挺同年六月一日頃同二百挺同月七日頃同三百挺同年七月七日頃同三百挺計二千
 百挺ヲ其讓受資格ナキ小杉六太郎ニ讓渡交付スルニ際リ其ノ頃被告人淺田長太郎 河内梅次郎ハ共謀ノ上右ノ情ヲ知りナカラ營業
 者タル被告人梅次郎名義其ノ虚偽ノ買受證受取證ヲ前記内芝方ニ於テ三輪義雄ニ數回ニ交付シ同人ヲシテ其ノ旨主家ノ帳簿ニ記載セ
 シメ以テ該讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ(13)被告人淺田長太郎ハ原審相被告人石清秀及坂本五三松ト共謀シ三輪義雄
 ト内芝傳一カ共謀ノ上同人取扱ノ下ニ昭和三年二月三日頃拳銃二百挺同月四日頃同二百挺同月十八日頃同二百挺同月二十日頃同三百
 挺同年三月五日頃同二百挺同月十四日頃同三百挺計千三百挺ヲ其ノ讓受資格ナキ小杉六太郎ニ讓渡スルニ際リ其ノ頃右情ヲ知り乍ラ
 共謀ノ上營業者タル被告人坂本五三松ノ營業主任石室清秀ノ右物件ニ該當スル虚偽ノ買受證受取證ヲ前記内芝方ニ於テ三輪義雄ニ數
 回ニ交付シ同人ヲシテ其ノ旨主家ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ(14)被告人淺田長太郎 塚
 原彦平ハ内芝傳一カ三輪義雄ト共謀ノ上同人取扱ノ下ニ昭和三年六月二十八日頃拳銃二百五十挺同年七月三日頃同二百五十挺同月二
 十四日頃同三百挺同月三十日頃同二百挺同年八月六日頃同三百挺同月十日頃同三百挺同月十五日頃同二百挺計千八百挺ヲ其ノ讓受資
 格ナキ小杉六太郎ニ讓渡スルニ際リ執レモ右情ヲ知り乍ラ同年七月上旬頃迄ハ淺田長太郎 塚原彦平兩名ノ共謀ニテ營業者タル被告
 人塚原彦平名義其ノ後ハ情ヲ知レル原審相被告人八田安吉ヲ加ヘタル三名ノ共謀ニテ塚原彦平ノ支配人倉本信吾(八田安吉ノ偽名)
 名義ノ虚偽ノ買受證受取證ヲ右内芝方ニ於テ三輪義雄ニ數回ニ交付シ同人ヲシテ其ノ旨主家ノ帳簿ニ記載セシメ以テ該讓渡讓受行爲
 ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ(15)被告人淺田長太郎ハ小橋章義及瀧本正教ト共謀シ右讓渡ニ付高橋保治ヨリ營業者タル瀧本正教
 ニ各讓渡シタル如ク營業帳簿上假裝シ以テ該讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ(16)被告人淺田長太郎ハ坂本五三松 室石
 清秀ト共謀シ右讓渡ニ付其ノ情ヲ知り乍ラ數回ニ被告人高橋保治方ニ於テ營業者タル被告人坂本五三松ノ代人室石清秀名義ノ虚偽ノ
 買受證受取證ヲ被告人高橋保治ニ交付シ同被告人ヲシテ自己ノ帳簿ニ其ノ旨記載セシメ以テ該讓渡讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助
 シ(17)被告人淺田長太郎 橋保治 河内梅次郎ハ共謀ノ上拳銃讓受ニ付資格ナキ本田辰次郎カ昭和三年三月二十九日頃大阪市西區
 京町堀五丁目銃砲火藥商株式會社稗谷商店ヨリ拳銃二百十九挺ヲ讓受クルニ際リ其ノ情ヲ知り乍ラ其ノ頃營業者タル被告人河内次
 郎 拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト想像的結合罪 營業者ノ火藥類讓渡罪ヲ幫助スル非營
 業者ノ處分 八八三 (三四七)

即名義ノ虚偽ノ買受證受取證ヲ同會社ニ於テ出員ニ交付 依テ該讓受行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シタルモノナリ以上ノ犯罪事實ニ對シ原審ハ結局銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條ヲ適用シ同第四十五條ノ時期範圍内ニテ處斷セラレタリ然レモ銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條(營業者ハ許可ヲ受ケサルモノニ銃砲火藥類又ハ第三十九條ノ武器ヲ讓渡スルコトヲ得ス)ハ免キヲ受ケテ銃砲火藥類ノ販賣ヲ營業トスル者即チ一定ノ身分ヲ有スルモノノミニ適用セラレル條項ニシテ該法條ニ違反セル場合ハ第四十五條ニヨリテ處斷セラレルコトハ法規ノ明ニ規定セル所ナリ反之非營業者カ許可ナクシテ拳銃ノ授受運搬携帶セル場合ハ同第三十九條(拳銃短銃又ハ仕込銃ハ職務又ハ銃砲ニ關スル營業ノ爲メニニ場合ヲ除ク外所轄警察署ノ許可ヲ受クルニ非ラサレハ之レヲ授受運搬又ハ携帶スルコトヲ得ス)ヲ適用シ同第四十六條ニヨリテ處斷セラレルナリ而シテ第四十五條ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處セラレヘキコトヲ明定シ之ニ反シ第四十六條ハ三月以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處セラレルコトヲ規定ス斯如其ノ營業者ナルト否トニヨリ其ノ刑罰ニ輕重ノ差アル場合ハ刑法第六十五條第一項ニ所謂身分ニ因ル特ニ刑ノ輕重アルトキニ該當スルヲ以テ營業者カ第四十五條ニ違反スル行爲ヲ爲ストキ非營業者カ其ノ犯罪行爲ニ加功セル場合非營業者ノ處罰ハ刑法第六十五條第一項第二項ノ適用ニヨリ非營業者ニハ第四十五條ヲ適用セス其ノ輕キ第四十六條ノ刑罰範圍内ニテ處斷ヘキ筋合ナリ本件被告人淺田長太郎ハ銃砲火藥類ノ販賣ヲ營業トシ、爲スモノニアラス然モ本件犯行中前陳ノ事實ハ何レモ營業者ヲ幫助シタル行爲ナリサレハ其ノ處罰ハ刑法第六十五條第一項第二項ヲ適用シ輕キ第四十六條ノ刑罰範圍内ニテ處斷セラレヘキモノナルニ拘ラス原審裁判ハ該法條ノ適用ヲ遺脱シタルハ不法ナルヲ以テ原判決ハ破毀ノ免レスト思料仕候ト云フニ在レトモ○銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條ハ營業者カ許可ヲ受ケサル者ニ對シ銃砲火藥類又ハ第三十九條ノ武器ヲ讓渡スルコトヲ禁シタルモノナルニ反シ同第三十九條ハ營業者ニ非サル者カ拳銃短銃仕込銃仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ヲ所轄警察署ノ許可ナクシテ授受運搬又ハ携帶スルコトヲ禁シタルモノニシテ右ニ所謂讓渡ト授受トハ全然其ノ觀念ヲ異ニシ前者ハ相手方ヲシテ拳銃等ヲ取得セシムルノ目的ヲ以テ爲ス處分行爲ヲ意味シ必スシモ目的物ノ現實ノ交付アレコトヲ必要トサレニ反シ後者ハ單ニ拳銃等ヲ實ニ交付シ又ハ交付ヲ受クル行爲ヲ指稱スルモノナルノミナラス讓渡ト運搬又ハ携帶トハ其ノ觀念 異ニスルコト多ク要セサレハ兩條ハ全ク其ノ規定ノ趣旨ヲ異ニスルモノナルヲ以テ右第四十二條ノ行爲ヲ處罰スル同法第四十五條ノ規定ト第三十九條ノ行爲ヲ處罰スル同法第四十六條ノ規定トノ關係ハ

刑法第六十五條第二項ニ所謂身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アル場合ニ該當セス故ニ論旨ハ其ノ理由ナシ

同追加上告趣意書第二點原判決ハ罰トナラサル行爲ヲ處罰シタル不法アリ原判決ハ拳銃讓受ノ幫助ノ點ハ各銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條第一項第四十六條刑法第六十二條第一項ニ該當スル旨擬律セラレタリ然レトモ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ云フ授受ハ現實ナル引渡行爲其ノ自體ト解釋ヘキモノニシテ取締第六條ニ所謂讓受トハ法律上ノ觀念ヲ異ニスルモノナリ非營業者カ拳銃ノ讓受ヲ爲シタル場合ニ於テ法律上之レヲ處罰スルコトヲ要求 唯軍用銃砲ノ讓受ニ付テハ第六條ニヨリテ處斷セラレルナリ果シテ然ラハ罰トナラサル拳銃讓受行爲ヲ幫助シタリトテ何等處斷セラレヘキモノニアラス此ノ點ニ關シ原判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ所謂拳銃ノ讓受トアルハ所論拳銃ノ授受ヲ意味スルモノナルコトハ同被告人ニ對スル原判決ノ全趣旨ニ徴シテ明白ナルヲ以テ論旨ハ其ノ理由ナシ

同第三點原判決ニ擬律ノ錯誤アリ原判決ハ法律ノ適用ニ(一)被告人淺田長太郎ノ所爲中(イ)拳銃實包讓渡ノ幫助ノ點ハ各銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條第四十五條第六十二條第一項ニ該リ右ハ各連繼關係ニヨリテ而モ其ノ内ニハ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノアルヲ以テ云々トシテ刑法第五十四條第一項前段ノ規定ヲ適用セラレタリ然レトモ拳銃ノ讓渡ト實包ノ讓渡ト實包ノ讓渡ハ執レモ第四十二條ノ規定スル處ニシテ何等法條ヲ異ニシテ規定セラレタルモノニアラス從テ拳銃ノ讓渡ト實包ノ讓渡行爲カ同一行爲ニヨリテ行ハレタルトスルモノニ箇ノ罪名ニ觸ルルモノニアラス果シテ然ラハ原判決ハ如何ナル行爲ヲ二箇ノ罪名トシテ取扱ヒタルモノナリトシテ該法條ヲ適用シタルカ其ノ理由ヲ知ルニ由ナシ唯漠然トシテ拳銃ノ讓渡實包ノ讓渡ト二箇ノ罪名トシテ取扱ヒタルモノトセハ該判決ハ擬律ニ錯リアリト謂ハサルヘカラス以上ノ理由ニヨリ原判決ハ破毀ヲ免レスト思料仕候ト云フニ在リ○仍テ按ルニ營業者カ許可ヲ受ケサル者ニ拳銃及實包ヲ讓渡スルニ當リ之ヲ幫助セル行爲ハ銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條第四十五條ノ罪ニ觸ルル單純一罪ヲ構成スルニ止マリ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノニ非ス從テ原判決ノ擬律ハ違法ナルコト洵ニ所論ノ如シト雖結局一罪ヲ以テ處斷シタルモノナレハ單純一罪トシテ處斷シタルト刑ノ量定其ノ他ニ於テ異ナルコトナク前示違法ハ判決ニ影響ヲ及ボササルヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得テ論旨ハ其ノ理由ナシ

拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト想像的競合罪 營業者ノ火藥類讓渡罪ヲ幫助スル非營業者ノ處分

ヲ幫助スル行爲ハ該讓渡ノ當然ノ結果タル許可ヲ受ケサル者ノ銃砲火藥類ノ讓渡行爲ニ對シテモ同時ニ之ヲ幫助スル關係ニ立ツモノナルコト言フ俟タス然レトモ營業者カ右銃砲火藥類ヲ讓渡シタル違犯行爲ニ對シ責任ヲ負フ以外ニ其ノ當然ノ結果タル許可ヲ受ケサル者ニ銃砲火藥類ヲ讓受ケシメタルコトニ付責任ヲ負フヘキモノニアラサルト等シク其ノ幫助者モ亦營業者ノ違犯行爲ノ從犯トシテ處罰セラルル以外ニ讓受行爲ニ對シテ從犯トシテ處罰セラルルヘキモノニアラス原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告人淺田長太郎ハ銃砲火藥商タル「イーテグー」ノ店員富士山靜吉同商内芝傳一ト其ノ代理人三輪義雄及同商高橋保治等カ銃砲火藥讓受ノ許可ヲ受ケサル無資格者ニ銃砲實包ヲ讓渡スルニ付幫助ヲナシタルモノニシテ其ノ幫助ノ方法トシテ被告人淺田長太郎カ該銃砲實包ノ讓受資格アル銃砲火藥商瀧本正教 河内梅次郎 坂本五三松等名義ノ假裝ノ買受書及取證書前記讓渡人タル銃砲火藥商ニ交付シテ恰モ營業者間ノ正當買買ノ如ク假裝シテ讓受資格ナキ者ニ對スル讓渡行爲ヲ容易ナラシメタリト言フニ在リ然ルニ原判決ハ被告人淺田長太郎ノ前記行爲ニ對シテ法律ヲ適用スルニ際シ右判決ニ於テ認定シタル(イ)ノ違犯行爲タル拳銃實包讓渡ノ幫助行爲ニ對シテ銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條第四十五條刑法第六十二條第一項ノ規定ヲ適用シタル以外ニ(ロ)拳銃讓受ノ幫助ニ付各銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條第一項第四十六條刑法第六十二條第一項ヲ適用シ又實包讓受ノ幫助ニ付各銃砲火藥類取締法第六條第十九條刑法第六十二條第一項ノ規定ヲ適用シ之ヲ處罰シタリ即チ原判決ハ營業者ノ違法ナル銃砲火藥類ノ讓渡行爲ニ付被告人淺田長太郎ノ幫助行爲ヲ處罰スルト同時ニ該讓渡行爲ノ當然ノ結果タル讓受行爲ニ對スル幫助ヲモ處罰スルモノナルカ該法律ヲ適用ハ冒頭ノ所論ニ依リ失當ニシテ原判決ハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○縱令一箇ノ行爲ヲ以テ甲ノ拳銃火藥類ノ讓渡ヲ幫助スルト同時ニ他面乙ノ拳銃ノ授受又ハ火藥類ノ讓受ヲ幫助シタル場合ト雖甲乙兩者ノ行爲ニシテ各犯罪ヲ構成スル以上之ヲ幫助シタル從犯ノ行爲モ亦右二箇ノ罪名ニ觸ルルモノニシテ拳銃火藥類ノ授受又ハ讓受ノ幫助ヲ其ノ讓渡行爲幫助ノ當然ノ結果ナリトシテ不問ニ付スヘキモノニ非ス論旨ハ其ノ理由ナシ

同第二點所謂想像の犯罪ノ競合ハ實行正犯ニ付テ存スルノミナラス教唆及從犯ニ付テモ之ヲ認ムルコトヲ得ルモノナリト信ス原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告人淺田長太郎ノ銃砲實包ノ讓渡ノ幫助

【要旨第一】

行爲ハ該讓渡人讓受人間ニ介在シテ該讓受ノ有資格者ノ買受證及取證書ヲ讓渡人ニ交付シテ恰モ營業者間ノ正當ノ賣買ノ如ク假裝シタル行爲ナルヲ以テ該行爲ハ一箇ニシテ讓渡行爲ノ幫助トナリ同時ニ讓受行爲ノ幫助トナルヲ以テ銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條ノ從犯タルト同時ニ銃砲火藥類取締法第六條等ノ從犯トシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノト見ルコトヲ得然ル時ハ刑法第五十四條ニ依リ之ヲ所謂想像的競合犯トシテ重キニ從ツテ處斷スヘキモノナリ然ルニ原判決ハ右幫助行爲ハ讓渡及讓受ニ對シテ二ノ從犯關係ニ立ツモノト認メ且該行爲ヲ併合罪トシテ之ニ刑法第四十五條ヲ適用シテ處斷スヘキモノトナシタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノモノト謂フコトヲ得ト云フニ在リ○仍テ案スルニ一箇ノ行爲ヲ以テ一面甲ノ拳銃火藥類ノ讓渡行爲ヲ幫助スルト同時ニ他面乙ノ拳銃ノ授受又ハ火藥類ノ讓受行爲ノ實行ヲ容易ナラシメタル場合ニ於テハ幫助者タル從犯ノ行爲ハ即チ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノニ該當シ右甲乙兩者ノ正犯ノ數ニ應シ數罪成立スルモノトシテ併合罪ヲ以テ論スヘキモノニ非ス然レハ原判決カ被告人長太郎ノ所論行爲ヲ併合罪トシテ刑法第四十五條ヲ適用處斷シタルハ所論ノ如ク擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ論旨ハ理由アリ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レス

同追加上告趣意書第六點銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條ハ營業者ノ銃砲火藥ノ讓渡ヲ禁止シタル規定ニシテ銃砲火藥類取締法第六條ハ許可ヲ受ケサル非營業者ノ軍用銃砲及火藥類ノ讓渡又ハ讓受ヲ禁止シタル規定ナリ而シテ右規則第四十二條ノ禁止規定ニ違反スル犯罪ハ營業者タル身分ヲ構成要

拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト想像的競合罪 營業者ノ火藥類讓渡罪ヲ幫助スル非營業者ノ處分

件トスル犯罪ニ該當シ右法第六條ニ違反スル犯罪ハ右身分ヲ構成要件トセサル犯罪ニ該當ス從テ若シ右規則第四十二條ニ違反スル營業者ノ行爲ニ非營業者カ加功シタル時ハ刑法第六十五條第二項ノ規定ニ依リ營業者ニ對シテハ右規則第四十二條ノ違反トシテ同規則第四十五條ニ依リテ之ヲ處罰シ非營業者ニ對シテハ右法第六條ノ違反トシテ同法第十九條ニ依リテ之ヲ處罰スヘキモノト信ス但シ本件被告人淺田長太郎ノ行爲ハ幫助行爲ナルモ同一ニ論議スルコトヲ得ヘシ何トナレハ若シ然ラストシ營業者ノ右規則第四十二條ノ違反行爲ニ對スル非營業者ノ從犯關係ヲ認メンカ該行爲ニ對シテハ同規則第四十五條ニ依リ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處セサルヘカラス而シテ非營業者カ營業者ト共謀シテ許可ヲ受ケサルモノニ對シ銃砲火藥類ノ讓渡例ヘハ共有ニ係ル銃砲火藥類ノ讓渡ヲナシタル場合ハ當然刑法第六十五條第二項ノ適用ニ依リテ非營業者ハ右法第六條ノ違反行爲トシテ同法第十九條ニ依リ三百圓以下ノ罰金ニ處セサルヘカラサルコトトナル然ル時ハ從犯ナル時ハ科刑重ク正犯ナル時ハ輕キ科刑ヲナスコトトナリ處罰上甚タ不權衡ナル結果ヲ生スレハナリ從テ本件被告人淺田長太郎ハ銃砲火藥類ノ讓渡ノ許可ヲ受ケサル非營業者ニシテ銃砲火藥類「イーデグ」ノ店員富士山靜吉同商内芝傳一及其ノ代理人三輪義雄等カ銃砲實包ヲ許可ヲ受ケサル無資格者ニ讓渡シタル行爲ニ加功シタルモノナレハ第一右讓渡セラレタル銃砲ハ非軍用銃ニシテト告趣意書第三點ニ記載シタル如ク營業ト看做サレサル以上ハ該讓渡行爲ハ處罰スヘカラサルモノナリ蓋シ法ハ非營業者ノ爲シタル銃砲ノ讓渡

契約ノミニテハ未タ取締法規ニ於テ防止セントスル危險ノ發生ヲ認ムヘカラサルモノトシ唯該契約ニ依リテ進ンテ銃砲ノ授受又ハ運搬ヲナス時ハ始メテ取締ルヘキ危險ノ發生アリトシテ右規則第二十九條ニ於テ許可ヲ要スルモノトナシ許可ナクシテ之ヲナスコトヲ得スト禁止シタルモノナレハナリ第二讓渡セラレタル實包ハ軍用ノモノナルヲ以テ該讓渡行爲ハ上叙所論ニ依リ右法第六條ノ違反行爲ナリトシ同法第十九條ヲ適用シテ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スヘキモノナリ然ルニ原判決ハ被告人淺田長太郎ノ行爲ニ對シ右規則第四十二條ノ違反行爲ニ加功シタルモノトシテ同規則第四十五條ヲ適用シ之ヲ處罰シタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノモノナリ謂フヘシト云フ在リ○仍テ按スルニ銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條ハ營業者ニ對シ許可ヲ受ケサル者ニ銃砲火藥類又ハ第三十九條ノ武器ノ讓渡ヲ禁止シタル規定ニシテ固ヨリ營業者タル身分ヲ構成要件ト爲スモノナリ之ニ反シ銃砲火藥類取締法第六條ハ營業者ニ非サルモノノ軍用銃砲及火藥類ノ讓渡又ハ讓受行爲ヲ禁止シタル規定ニシテ右身分ヲ構成要件ト爲ササルモノナリ而シテ兩條共火藥類ニ付テハ何等制限スル所ナキモ銃砲ニ付テハ後者ハ軍用ノモノニ限定シ前者ハ別ニ之カ制限ヲ爲ス然リ而シテ銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條違反ノ罰則タル同法第四十五條ト對照スルトキハ兩者ノ間其ノ刑ニ輕重アルヲ以テ非營業者カ右施行規則第四十二條ノ違反ニ加功シタル場合ニ於テ讓渡ノ目的物カ火藥類ナルトキハ刑法第六十五條第二項ノ適用ヲ生スルモ非軍用銃砲ナ

拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト想像的競合罪 營業者ノ火藥類讓渡罪ヲ幫助スル非營業者ノ處分

ルトキハ同條項ノ適用ナキモノト解セサルヘカラス故ニ營業者タル身分ナキ者カ許可ヲ受ケサル者ニ火藥類ヲ讓渡スル營業者ノ行爲ヲ幫助シタルトキハ刑法第六十五條第二項ニ依リ幫助者タル非營業者ニ對シテハ銃砲火藥類取締法第六條第十九條刑法第六十二條第一項ニ依リ之ヲ處斷スヘク又營業者タル身分ナキ者カ許可ヲ受ケサル者ニ非軍用銃砲ヲ讓渡スル營業者ノ行爲ヲ幫助シタルトキハ刑法第六十五條第一項ニ則リ銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條第四十五條刑法第六十二條第一項ヲ適用處斷スヘキモノトス今之ヲ本件ニ付按スルニ原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ營業者ニ非サル被告人長太郎カ營業者名義ノ假裝ノ買受證及受取證ヲ營業者タル讓渡人ニ交付シ讓渡人ノ帳簿ニ其ノ旨記載セシメ恰モ營業者間ノ正當ノ賣買ノ如ク假裝シタル上軍用ニ非サル拳銃實包ノ讓渡行爲ヲ幫助シタリト云フニ在ルヲ以テ右拳銃ノ讓渡幫助ノ行爲ニ對スル原判決ノ擬律ハ正當ナルモ實包ノ讓渡幫助ノ行爲ニ對シテハ如上説明ノ趣旨ニ則リ刑法第六十五條第二項銃砲火藥類取締法第六條第十九條ヲ適用セサルヘカラスナルニ拘ラス事茲ニ出テサリシ原判決ハ此ノ點ニ於テ擬律錯誤ノ違法アリ破毀ヲ免レス

被告人宮田惠二上告趣意書第二點原判決ハ虛無ノ事實ヲ認定シタル不法アリ原判決ハ被告人宮田惠二ノ所爲中無免許販賣營業ノ點ハ銃砲火藥類取締法第三條第一項第十六條ニ該當スヘク云々ト擬律セラレタリ然レトモ被告人ハ元來化粧品輸入商ニシテ銃砲火藥類ノ販賣ヲ無免許ニテ爲スモノニアラス被告人カ無免許販賣ヲ業トスルモノナルコトヲ認定スルニハ少クトモ(一)日常ノ生活ノ資料ヲ該販賣行爲ニヨリ捻出シ居ルコト(二)少クトモ數年間ニ互リ繼續的ニ行ハレタルコトノ事實ニ基クコトヲ要ス然ルニ本件記録ヲ以テハ右條件ヲ認ムヘキ何等ノ證據ナク唯大連ニ在住スル野尻佐吉ニ讓渡セル事實ヲ以テ營業トシテ爲スモノナリト認定セラレタルニ

過キス此ハ虛無ノ證據ニヨリテ事實ヲ認定セラレタル違法アリ右ノ次第ナレハ原判決ハ破毀ヲ免レスト思料スト云フニ在レトモ○銃砲火藥類取締法第三條第一項ニ所謂販賣ノ業ヲ營ムトハ營利ノ目的ヲ以テ銃砲火藥類ノ有價的讓渡行爲ヲ反覆スルヲ指稱スルモノニシテ所論ノ如ク之ニ因リ日常ノ生活ノ資料ヲ捻出シ或ハ少クトモ數年間ニ互リ繼續的ニ反覆スルカ如キコトヲ必要トスルモノニ非ス然レハ原判決カ被告人惠二カ無免許ニテ數回反覆シテ拳銃實包ヲ仕入販賣シタル事實ヲ證據ニ依リ認定シ之ヲ銃砲火藥類取締法第三條第一項第十二條ニ該當スルモノト爲シタルハ正當ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナク論旨ハ其ノ理由ナシ

被告人保治同惠二辯護人塚崎直義 赤井幸夫上告趣意書第二點原判決ハ其ノ法律理由中「被告人宮田惠二ノ所爲中(イ)拳銃讓受ノ點ハ各銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條第一項第四十六條ニ實包ノ讓受ノ點ハ各銃砲火藥類取締法第六條第十九條第一項ニ該リ(ロ)無免許販賣營業ノ點ハ銃砲火藥類取締法第三條第一項第十六條ニ該當スル處云々」ト判示シタリ然レトモ其ノ事實理由ヲ見ルニ右拳銃竝ニ實包ノ讓受ハ何レモ其ノ販賣營業ノ爲ニ爲シタルモノナルヲ以テ既ニ右販賣營業行爲カ免許ヲ受ケスシテ爲シタルモノナリトノ廉ニヨリ處罰セラレルモノナルニ於テハ其ノ販賣營業ノ爲ニ爲サレタル前示讓受行爲ハ當然不問ニ附セラレヘキモノナリト信ス何トナレハ前示銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條第一項竝ニ銃砲火藥類取締法第六條ハ何レモ其ノ販賣營業者カ讓受ヲ爲ス場合ハ之レヲ不問ニ附スルヲ以テナリ果シテ然ラハ原判決ハ前示上告人ノ實包竝ニ拳銃讓受ノ行爲ニ對シ夫々前示法條ヲ適用シタルハ違法ニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ○銃砲火藥類取締法第三條ニ違反シ行政官廳ノ許可ナクシテ銃砲火藥類ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム行爲ト同法第六條ニ違反シ火藥類ヲ讓受ケ若ハ同法施行規則第三十九條ニ違反シテ拳銃ノ交付ヲ受クル行爲トハ各別箇ノ觀念ニシテ銃上法條ハ何レモ其ノ禁止處罰ノ趣旨ヲ異ニスルモノナルヲ以テ縱令無免許ニテ銃砲火藥類販賣ノ業ヲ營ムカ爲ニ官ノ許可ナクシテ火藥類ヲ讓受ケ又ハ拳銃ノ交付ヲ受ケタル場合ト雖其ノ讓受又ハ交付ヲ受ケタル行爲ハ無免許ニテ販賣業ヲ營ミタル罪ニ吸收包含セラレルモノニ非スシテ各其ノ罪名ニ觸レ刑法第五十四條第一項ニ所謂手段結果ノ關係ニ在ルモノト云ハサルヘカラス然レハ原判決カ所謂拳銃ノ交付ヲ受ケタル行爲ニ對シ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條第一項第四十六條ヲ實包讓受ノ行爲ニ對シ銃砲火藥類取締法第六條第十九條第一項ヲ無免許販賣營業ノ行爲ニ對シ同法第三條第一項第十六條ヲ各適用シタルハ正當ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

拳銃火藥類ノ授受ノ幫助ト想像的競合罪 營業者ノ火藥類讓渡罪ヲ幫助スル非營業者ノ處分

以上說明、如クニシテ被告人惠二及同保治ノ各上告ハ理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百十六條ニ依リ之ヲ棄却スヘク被告人長太郎辯護人大概ノ上告、書第一點及同追加上告趣意、第六點ハ理由アリ而シテ右ハ孰レモ事實、確定ニ影響ヲ及ボサル法令ノ違反ナラテ以テ、刑事訴訟法第四百四十一條第四百四十八條ニ依リ原判決中同被告人ニ關スル部分ハ之ヲ破毀シ當院ニ於テ自ラ判決スヘキモノトス

仍テ原判決カ被告人長太郎ニ對シテ認定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人長太郎ノ所爲中拳銃讓渡幫助ノ點ハ各銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條第四十五條第六十五條第六十二條第一項ニ實包讓渡幫助ノ點ハ各刑法第六十五條第二項ニ依リ銃砲火藥類取締法第六條第十九條刑法第六十二條第一項ニ拳銃讓渡幫助ノ點ハ各銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條第一項第四十六條刑法第六十二條第一項ニ實包讓渡幫助ノ點ハ各銃砲火藥類取締法第六條第十九條刑法第六十二條第一項ニ各該當スル所有拳銃讓渡ノ幫助實包讓渡ノ幫助拳銃讓渡ノ幫助及實包讓渡ノ幫助ノ各所爲ハ夫々孰レモ意思繼續ニ係ト同時ニ原判第一ノ(A)ノ(ロ)第三ノ(A)ノ(1)ノ(ロ)及第二ノ各所爲並ニ第一ノ(B)ノ(1)ノ(ロ)同(C)ノ(1)ノ(ロ)同(D)ノ(1)ノ(ロ)同(2)ノ(ロ)及第三ノ(B)ノ(ロ)ノ各所爲中拳銃ニ關スル分ハ各一箇ノ所爲ニシテ拳銃讓渡ノ幫助及拳銃讓渡ノ幫助ノ兩罪名ニ觸レ又原判第一ノ(B)ノ(3)ノ(ロ)同(C)ノ(2)ノ(ロ)同(D)ノ(3)ノ(ロ)同(4)ノ(ロ)第三ノ(C)ノ(ロ)同(D)ノ(ロ)同(E)ノ(1)ノ(ロ)ノ所爲並第一ノ(B)ノ(1)ノ(ロ)同(2)ノ(ロ)同(C)ノ(1)ノ(ロ)同(D)ノ(1)ノ(ロ)同(2)ノ(ロ)及第三ノ(B)ノ(ロ)ノ所爲中實包ニ關スル分ハ各一箇ノ所爲ニシテ實包讓渡ノ幫助及實包讓渡ノ幫助ノ兩罪名ニ觸ルモノナルヲ以テ刑法第五十五條第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シテ全部一罪トシテ最モ重キ拳銃讓渡幫助ノ罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ累犯ナルヲ以テ同法第五十六條第五十七條ニ依リ法定ノ加重ヲ爲シ同法第六十三條第六十八條第三號ニ則リ從犯ノ減輕ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人長太郎ヲ懲役八月ニ處シ同法第二十一條ニ則リ未決勾留日數中四十日ヲ本刑ニ通算セシムヘキモノトス

檢事三橋市太郎關與

○放火被告陪審事件(昭和五年(れ)第一七二九號
同年十二月二十二日第四刑事部判決) 破棄自判

【上告人】 被告人 丹波金太郎 辯護人 山崎今朝彌
【第一審】 鳥取地方裁判所

○判示事項
證人不出廷ト證據決定取消ノ要否——保險金騙取ヲ目的トスル放火罪ト詐欺罪

○判決要旨
一 召喚狀ノ送達ヲ受ケナカラ期日ニ出廷セサル證人ノ訊問決定ヲ取消サスシテ審理ヲ結了スルモ不法ニ非ス【要旨第一】
二 保險金騙取ノ目的ヲ以テ住宅ニ放火シテ之ヲ燒燬シナカラ出火證人不出廷ト證據決定取消ノ要旨 保險金騙取ヲ目的トスル放火罪ト詐欺罪

ノ原因不明ナリト詐リ保険金ヲ騙取スルハ放火及詐欺ノ併合罪ナリトス【要旨第二】

【参照】 刑法第百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス
同法第百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

同法第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス
同法第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス
同法第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
陪審法第四十三條第一項 公判準備期日ニ於テハ裁判所ハ必要ナル證據調ノ決定ヲ爲スヘシ
刑事訴訟法第百九十一條 召喚ニ應セサル證人ニ對シテハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

同法第百九十二條 第八十四條及第九十九條ノ規定ハ證人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

○事 實

第一審裁判所ハ陪審ノ答申ヲ採擇シテ左記ノ如ク事實ヲ認定シ法律ヲ適用シテ被告人ヲ懲役十年ニ處シ未決勾留日數中二百日ヲ本刑ニ算入シ訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ宣告ヲ爲シタリ
被告人ハ昭和三年一月頃鳥取縣東伯郡社村大字横田四百九十七番地ノ一ニ木造瓦葺二階立本家一棟(建坪十二坪一合外二階十二坪一合) 木造瓦葺平家建廊下便所湯殿一棟(建坪一坪七合) 木造瓦葺平家建玄關一棟(建坪二合八勺) 木造亞鉛葺平家建炊事場一棟(建坪三坪)ノ家屋ヲ建築シ同所ニ於テ妾掛井きぬスヲシテ料理店ヲ經營セシメ居タル處同年三月千代田火災保險株式會社トノ間ニ同家屋竝該家屋内ノ什器衣類疊建具等ニ付向フ一ケ年ヲ期間トスル保險金三千圓ノ火災保險契約ヲ締結シタルヲ奇貨トシ該保險金騙取ノ目的ヲ以テ同年五月十八日午後十一時頃右きぬスノ居住セル同家屋ニ放火シ因テ之ヲ全燒セシメ其ノ後同年五月二十一日頃右放火ノ事實ヲ秘シ原因不明ノ出火ニヨリ燒失シタルモノノ如ク裝ヒテ右會社ノ京都支店ニ其ノ旨ヲ通知シテ同會社ヲ誤信セシメテ因テ同年八月十四日東伯郡倉吉町ナル右會社ノ代理店佐々木嘉吉ノ手ヲ經テ保險金二千五百九十七圓七十二錢ヲ同會社ヨリ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ放火ノ所爲ハ刑法第百八條ニ詐欺ノ所爲ハ同法第二百四十六條ニ該當スル處右

證人不出頭ト證據決定取消ノ要旨 保險金騙取ヲ目的トスル放火罪ト詐欺罪

ハ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ重キ右百八條ノ刑ニ從ヒ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十年ニ處スヘク尙同法第二十一條ニヨリ未決勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

記録ニ依レハ裁判所ハ公判準備期日ニ於テ職權ヲ以テ雪本卯之助 足垣岩藏 足垣リヨ其ノ他多數ノ證人ヲ訊問スル旨ノ決定ヲ爲シ期日ヲ定メテ夫々召喚狀ヲ發シタルトコロ前記證人三名ハ其ノ送達ヲ受ケナカラ期日ニ出廷シテ訊問ヲ受ケタル形跡ナク又不參屆書若ハ出廷ノ延期ヲ求メタル書類モ存在セス裁判所ハ該證人三名ニ對スル訊問決定ヲ取消スコトナクシテ結審判決シタリ

○理由

辯護人山崎今朝彌上告趣意書第二點原審ニ於ケル公判準備調書ヲ閱スルニ裁判長カ職權ヲ以テ雪本卯之助 足垣岩藏 足垣リヨヲ證人トシテ訊問スル旨ノ證據決定ヲ言渡シタルコトハ同調書第六一丁以下ノ記載ニ徴シ明白ナリトス然ルニ原審公判調書ヲ閱スルニ右證人ヲ公判廷ニ於テ訊問シタル事迹ノ徵スヘキモノナキハ勿論右證據調決定ヲ取消シタル事迹モ亦存スル所ナク漫然結審判決シタルハ自カラ決定シタル證據調ヲ適法ニ履踐セサルモノニシテ公判手續上重大ノ違法アルモノトス然ラハ原判決ハ斯ル違法ノ公判ニ基キ下サレタルモノナルヲ以テ破毀ヲ免サルモノト信スト云フニ在レトモ○記録ヲ

【要旨第一】

查スルニ原審カ職權ヲ以テ所論證人喚問ノ決定ヲ爲シ召喚狀ヲ發シタルコトハ其ノ決定書或證人召喚狀ノ郵便送達報告書ノ存在スルニ徴シ明白ニシテ該證人等カ其ノ期日ニ出廷シタル事迹ノ見ルヘキモノナキヲ以テ原審カ其ノ訊問ヲ爲サス又前ノ證據調決定ヲ取消サスシテ審判ヲ結了セルハ不法ニ非ス蓋シ裁判所カ證人喚問ノ手續ヲ施行シタル以上證人ノ出廷セサル爲其ノ訊問不能ニ歸スルモ該證據調決定ハ一應施行ヲ了シタルモノナレハ更ニ勾引狀ヲ發シ又ハ再喚問ノ手續ヲ爲スノ要アリトスル場合ハ格別否ツサル限其ノ儘結審シ判決スルコトヲ妨ケサルハ勿論前ノ決定ヲ取消スノ要ナケレハナリ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

次ニ原判決ノ擬律ノ當否ニ付職權ヲ以テ審査スルニ原判決ハ判示放火詐欺トノ間手段結果ノ關係アリトシテ刑法第五十四條第一項後段ヲ適用處斷シタリト雖原判決ノ確定シタル事實ニ依レハ被告人ハ判示家屋及其ノ家屋内ニ存在セル動産ニ付千代田火災保險株式會社ト保險金額三千圓ノ火災保險契約ヲ締結シタルヲ奇貨トシ該保險金騙取ノ目的ヲ以テ判示家屋ニ放火シテ之ヲ全燒セシメタル後右放火ノ事實ヲ秘シ原因不明ノ出火ニ因リ燒失シタルモノノ如ク裝ヒ其ノ旨ヲ右保險會社ニ通知シテ同會社ヲシテ誤信セシメ同會社ヨリ保險金二千五百九十七圓七十二錢ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シタリト云フニ在リテ其ノ放火行爲ハ縱令保險金騙取ノ目的ニ出テタリトスルモ詐欺ノ豫備行爲タルニ止マリ未タ以テ欺罔行爲ニ著手シタルモノト云フヲ得スシテ其ノ放火ノ事實ヲ秘シ原因不明ノ出火ナルカ如ク裝フ

【要旨第二】

證人不出頭ト證據決定取消ノ要旨 保險金騙取ヲ目的トスル放火罪ト詐欺罪

テ其ノ旨ヲ保險會社ニ通知スルニ及ンテ始メテ欺罔ノ著手アリト云フヘク又放火又ハ詐欺ノ行爲ハ性質上一方ノ手段トシテ普通ニ用キラレ若ハ其ノ一方ヨリ生スル當然ノ結果ナリト云フヲ得サルヲ以テ原判示被告人ノ行爲ハ放火及詐欺ノ併合罪ヲ構成スルモノトス故ニ原判決カ之ヲ刑法第五十四條第一項後段ニ間擬シタルハ失當ニシテ此ノ點ニ於テ本件上告ハ結局理由アリ依テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ直ニ本院ニ於テ判決ヲ爲スヘキモノナレハ爾餘ノ論旨ニ對シテ説明ヲ爲サス

原判決ノ確定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人ノ行爲中放火ノ點ハ刑法第八條ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項ニ該當スルヲ以テ放火罪ニ付テハ所定期中有期懲役ヲ選擇シ併合罪ナルヲ以テ同法第四十五條第四十七條第十四條ヲ適用シテ法定ノ加重ヲ爲シタル範圍ニ於テ被告人ヲ懲役十年ニ處シ同法第二十一條ニ依リ未決勾留日數中二百日ヲ本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

檢事溝淵孝雄關與

○住居侵入被告事件(昭和五年(九)第一七四八號
同年十二月十三日第三刑事部判決) 棄却

【上告人】 被告人 繩手慎三郎 辯護人 石黒陽一
外二名

【第一審】 岡山區裁判所 【第二審】 岡山地方裁判所

○判示事項

町役場建物ト管理權

○判決要旨

町長ハ退廳時刻後ト雖町役場建物ノ管理權ヲ有ス

【參照】 町村制第七十二條 町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

町役場建物ト管理權

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人三名ヲ各罰金二十圓ニ處シ之ヲ完納スルコト能ハサルトキハ各二十日間被告人ヲ勞役場ニ留置シ訴訟費用ハ被告人等ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人三名ハ其ノ肩書居町八濱町住民ヲ以テ組織セラレタル政治團體正義會ニ屬スルモノナル處豫テ同町基本財産ニ對スル同町當局ノ處置ニ付疑感ノ念ヲ有シ居タル所昭和五年三月九日右八濱町所在同町役場ニ於テ開會セラレタル同町會ノ傍聽ニ趣キタル際同町會議員藤原益男ヨリ町有基本財産ヲ明示センコトヲ需メタルニ對シ同町長逸見靜雄カ之ヲ拒絕シタルヨリ被告人等ハ愈々右疑感ノ念ヲ嵩メ放置セハ必ス其ノ彌縫手段ニ出ツルノ虞アルニ付縣當局ノ出納検査ニ來ル迄同町役場備付金庫ヲ監視ヘルノ要アリトシテ同町會閉會後同役場事務室内ニ留リ居リタルニ翌十日午前零時過頃右町長逸見靜雄カ同町役場内ニ於テ被告人等三名ニ對シ其ノ退去方ヲ要求シタルニ拘ラス被告人等ハ之ニ應セス同町役場書記長谷井武一ノ看守スル同所及同宿直室ニ同日午前八時頃迄故ナク滯留シ退去ヲ爲サザリシモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ刑法第三百三十條後段ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇

シ其ノ金額範圍内ニ於テ各被告人ヲ各罰金二十圓ニ處スヘク換刑處分ニ付同法第十八條ヲ適用シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第二百三十八條ニ則リ被告人等ヲシテ連帶シテ負擔セシムヘキモノトス

○理由

各被告人辯護人石黒陽一上告趣意書第六點家宅ノ主宰者トハ法律上ノ所謂所有權者若ハ占有權者ノ謂ニ非スシテ却テ事實上其ノ場所ヲ監督支配シ領域ニ對スル妨害ヲ排除スル權能アル者ヲ謂フモノナルカ故ニ該役場ノ看守權カ九日午後四時ヨリ十日午前八時ニ至ル間宿直員タリシ書記長谷井武一ニ在リシコトハ誠ニ原判決所論ノ如シ果シテ然ラハ當該監督支配權ヲ有スル右長谷井書記ヨリ何等退去ノ要求ヲ受クルコトナク九日午後四時頃ヨリ十日午前八時頃マテ役場ニ留リタル被告人三名ハ何等責任ヲ負フヘキ理由ナシ若シ夫レ普通一般ノ居宅ニシテ其ノ間主從ノ關係アルカ如キ場合ニ於テハ主人ハ常ニ優越ナル支配權ヲ有スルカ如ク考ヘラレサルニ非サルナキモ町役場ハ町長ノ所有ニ屬セス書記ハ町長ノ使用人ニ非ス書記ト雖獨立シタル職務權能ニ依リ支配權ヲ有スルモノナレハ其ノ職務ノ發動中タル宿直中ハ其ノ支配權ハ一ニ宿直員タル書記ニ存スルモノナルカ故ニ町長カ其ノ職務ノ爲ニ出廳シタルニ非サル限り支配權カ當然ニ町長ニ歸復スヘキ理由アルコトナシ從テ不退去罪ハ之ヲ構成スヘキ理由ナシト信スト云ヒ」同第七點原判決ハ何故ニ書記長谷井武一カ看守セル場所ヨリ町長逸見靜雄ノ要

求ニヨリ退去セサルコトカ罪トナルカヲ説示セズ理由不備ノ不法アルヲ免レスト云フニ在レトモ○町
 村制第三章第二款ノ規定ヲ通覽スルニ町長ハ町役場トシテ使用中ノ建物ノ管理權ヲ有シ町村ノ有給吏
 員タル書記ハ町長ノ指揮監督ヲ承ケテ事務ニ従事スルモノニ過キサルト定ニ明ナリ故ニ退廳時刻以
 後書記カ町役場ノ看守ヲ爲スニ至リタルトキト雖町長ニ於テ右管理權ヲ喪失スヘキ理由存セス然レハ
 原判決カ判示町長ニ於テ町役場ニ滞留シ居タル被告人ニ退去ヲ要求シタルニ拘ラス被告人ハ同町役場
 書記長谷井武一ノ看守スル同役場内ヲ退去セサル旨判示シ被告人ノ所爲ヲ刑法第三百十條ニ問擬シタ
 ルハ正當ニシテ原判決ニ所論ノ如キ違法存スルコトナク論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論告及判決理
 由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事南部金夫關與

○判事忌避申立却下決定ニ對スル再抗告事件

(昭和五年(三)第三二二號
 同年十二月十五日第二刑事部決定 棄却)

【再抗告人】 被告人 八木熊吉 辯護人 鬼丸義齋
 外四十名

【原 審】 名古屋控訴院

○判示事項

區裁判所判事忌避ノ申立却下決定ニ對スル抗告裁判所

○決定要旨

區裁判所判事忌避ノ申立ニ付地方裁判所ノ與ヘタル申立却下ノ決
 定ニ對スル抗告ハ大審院ニ之ヲ爲スヘキモノトス

【參照】 刑事訴訟法第二十八條第四項 豫審判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬
 區裁判所判事忌避ノ申立却下決定ニ對スル抗告裁判所

ノ裁判所、區裁判所判事忌避セラレタルトキハ管轄地方裁判所決定ヲ爲スヘシ但シ忌避セラレタル判事忌避ノ申立テ理由アリトスルトキハ其ノ決定アリタルモノト看做ス

同法第三十一條 忌避ノ申立テ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
裁判所構成法第五十條 大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 總審トシテ

(ロ) 地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル決定及命令並ニ控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

○事實

被告人八木熊吉外四十名ニ對スル衆議院議員選舉法違反被告事件ニ付辯護人鬼丸義齋ハ係判事ナル半田區裁判所判事下山伊三郎ニ對シ忌避ノ申立ヲ爲シ名古屋地方裁判所ハ該忌避申立テ却下シタル處同辯護人ハ該決定ニ對シ名古屋控訴院ニ抗告ヲ申立テ同院ハ區裁判所判事カ忌避セラレタル場合ニ於テ地方裁判所カ該忌避申立ニ付爲ス決定ハ地方裁判所カ第二審トシテ爲シタルモノニ外ナラサレハ之ニ對スル不服ノ申立ハ裁判所構成法第五十條第一號(ロ)ニ依リ大審院ノ管轄ニ屬シ控訴院ハ之カ裁判權ヲ有セサルモノニシテ不適法ノ抗告ナリトシ之ヲ棄却シタリ

○理由

再抗告申立人鬼丸義齋抗告理由ハ原抗告裁判所ノ決定ハ其ノ理由ニ於テ「區裁判所判事カ忌避セラレタル場合ニ於テ地方裁判所カ該忌避申立ニ付爲ス決定ハ地方裁判所カ第二審トシテ爲シタルモノニ外ナラサレハ之ニ對スル不服ノ申立ハ裁判所構成法第五十條第一號(ロ)ニ依リ大審院ノ管轄ニ屬シ控訴院ノ管轄ニ屬セサルモノト解スヘク從テ當院ハ本件抗告ニ付之カ裁判權ヲ有セサルコト明白ナリ云々」トナシ抗告人ノ抗告ヲ排斥シタルハ將ニ審級ニ關スル法則ヲ誤解シ裁判所構成法第五十條第一號(ロ)ヲ不當ニ適用シタル違法アルモノト信ス蓋シ區裁判所判事カ忌避セラレタルトキハ管轄地方裁判所之カ決定ヲ爲スヘシトハ刑事訴訟法第二十八條第四項ニ明規スル處ニシテ畢竟此ノ法意ヨリスルトキハ區裁判所判事忌避事件ニ付テハ管轄地方裁判所之カ第一審裁判所トシテ取扱フヘキナリ此ノ場合地方裁判所ヲ第二審トナスニハ少クトモ其ノ前ニ於テ忌避セラレタル判事所屬ノ區裁判所カ又ハ他ノ區裁判所ニ移送シテ以テ之カ法定アリタルコトヲ要スルナリ然ルニ斯ル事實ナク然カモ區裁判所ニ於テハ斯ル判事忌避事件ニ付何等審理スルノ裁判權ナキノ點ヨリ綜合考覈セハ愈々前見ヲ首肯セシムルヲ足ルヲ以テナリ然ルニ原抗告裁判所ハ前掲ノ如ク本件忌避事件ニ付地方裁判所ヲ第二審トシテ取扱ヒタルモノナリトナシ之ニ對スル即時抗告ヲ大審院ノ權限ニ屬スヘキモノナリトシテ棄却シタルハ區裁判所判事忌避ナル特殊事件ニ付地方裁判所ヲ第一審トシテ其ノ管轄ニ屬セシメタル法意ヲ誤解シ區裁判所ノ普通一般事件ノ如ク地方裁判所カ區裁判所ノ上級裁判所ナルヲ以テ事案ニ對シテモ第二審トシテ

區裁判所判事忌避ノ申立却下決定ニ對スル抗告裁判所

取扱フヘキナリトノ大ナル誤謬ニ陥リタル結果ト謂ハサルヘカラス果シテ抗告裁判所ノ如キ見解ヲ探ルトキハ審理ナクシテ第一審裁判ヲ假想スル結果ニ陥リ延テハ不服ノ道ヲ開キテ以テ公正ナル裁判ヲ保持スル所以ヲ没却スルニ至ルヘシ斯クテハ法ノ精神ヲ蹂躪シ不服申立人ノ利益ヲ害スルコト甚シト謂ハサルヘカラス以上所論ノ如クナルヲ以テ原抗告裁判所ノ決定ヲ取消サレ度ク茲ニ申立ニ及ヒタル次第ナリト云フニアリ○仍テ案スルニ區裁判所判事ニ對スル忌避申立ハ當該事件ニ付其ノ判事ノ裁判ヲ受クルコトヲ不服トスルノ申立ナレハ刑事訴訟法第二十八條第四項カスル場合ニ管轄地方裁判所ニ之カ當否ノ裁判ヲ爲スヘシト規定セルハ即チ該地方裁判所カ第二審裁判所トシテ決定ヲ爲スヘシトノ法意ナルコト明瞭ナルヲ以テ該地方裁判所ノ決定ニ對スル刑事訴訟法第三十一條ノ即時抗告ハ裁判所構成法第五十條第一號(ロ)ノ規定ニ依リ大審院ニ爲スヘキモノトス然ルニ本件ハ名古屋地方裁判所カ半田區裁判所判事下山伊三郎ニ對スル忌避申立ノ却下ノ決定ヲ爲シタルニ對シ當院ニ即時抗告ヲ爲サスシテ名古屋控訴院ニ爲シタルハ不合法ナルヲ以テ同控訴院カ棄却ノ決定ヲ爲シタルハ相當ナルノミナラス苟モ同控訴院ニ於テ抗告裁判所トシテ決定アリタル以上ハ刑事訴訟法第四百六十九條後段ニ即時抗告ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ該當セサル本件忌避事件ノ如キハ同條前段ニ依リ抗告ヲ爲スコトヲ許ササルヲ以テ本件再抗告ハ之ヲ不合法トシ刑事訴訟法第四百六十六條第一項ニ依リ主文ノ如ク決定ス

【要旨】

○傷害業務妨害等被告事件 (昭和五年(九)第一一五二號 破毀自判)

(昭和五年(九)第一一五二號 破毀自判)

【被告人】 被告人 肥田 理吉 辯護人

米田規矩
足立進三郎
秋山高三郎
横山雄

【第一審】 廣島地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

法域ヲ異ニスル裁判所ノ勾留狀ノ競合

○判決要旨

内地ノ裁判所ハ法域ヲ異ニスル裁判所ノ勾留狀ニ依リ勾留セラレ住居制限ノ下ニ勾留ノ執行ヲ停止中ノ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發シ之ヲ勾留スルコトヲ得

法域ヲ異ニスル裁判所ノ勾留狀ノ競合

【参照】 刑事訴訟法第九十條第一項 第八十七條ノ規定ニ依リ被告人ヲ勾引スルコトヲ得
ヲ得ヘキ原由アルトキハ之ヲ勾留スルコトヲ得
同法第九十一條 被告人ノ勾留ハ勾留狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

○事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人肥田理吉ヲ懲役二年被告人根岸哲爾ヲ懲役六月ニ處ス但シ哲爾ニ對シテハ未決拘留日數中百五十日ヲ本刑ニ算入ス押收物件中拳銃一挺(證第六五號)實包十六箇(證第六六號)ハ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 昭和二年四月下旬廣島市所在株式會社廣島產業銀行カ休業シタル當時廣島縣安佐郡可部町所在株式會社可部銀行頭取タル原審相被告人戸田宗三郎カ右廣島產業銀行ヨリ可部銀行ニ債務ノ擔保トシテ提供シ居タル諸株式ヲ競買セントシタルニヨリ其ノ頃廣島產業銀行頭取ニシテ且可部銀行監查役タリシ海塚新八ハ右宗三郎ノ措置ヲ不穩當トナシ可部銀行ヨリ宗三郎一派ノ者ヲ排斥シ自派ノ者ヲシテ其ノ重役タル地位ヲ襲ハシメ且可部銀行ヲ廣島產業銀行ニ合併シ以テ廣島產業銀行ノ急ヲ救ハンコトヲ企テ明田佐太郎等ヲシテ右可部銀行ニ對スル債務ヲ立替辨濟セシメ且被告人理吉等ニ對シ右企圖ニ付盡力方ヲ依頼シテ相共ニ劃策シ來リタル處自派ノ株主ニヨリテハ未タ株主總會ニ於テ過半數ヲ制スルノ見込ナカリシモ當時可部銀行ノ株式三千百株ノ實權ヲ有シ且ツ會社ノ監查役タル

深田信夫ヲ誘ヒテ自派ト行動ヲ共ニスルコトヲ約セシメ株主總會ニ於テ過半數ヲ制シ得ルコトナリタルヨリ其ノ頃新八信夫ノ連名ニテ同銀行ニ對シ現任取締役四名解任取締役五名選任監查役二名選任ノ件ニ付臨時株主總會ヲ招集ノ請求ヲ爲シ宗三郎一派モ亦之ニ對抗シテ増井清兵衛外二名ヨリ監查役海塚新八解任ノ件監查役二名選任ノ件ニ付臨時株主總會招集請求ヲ爲シ右兩派ノ議案ヲ審議スルタメ同年七月三十日午前八時前示可部銀行樓上ニ於テ同銀行臨時株主總會ヲ開催シタル處理吉等ハ海塚派ニ勝算アルト信シ該總會會場ニ出席シ居タルニ拘ラス宗三郎ハ理吉等ノ背後ヨリ會場ニ顯ハレ理吉等ノ不意ニ乘シ自派提出ノ議案ヲ咄嗟ノ間ニ可決シ且即日其ノ登記ヲ經由シタル爲新八ハ其ノ監查役タル地位ヲ喪フニ至リタリ然ルニ其ノ頃新八名義ノ可部銀行株式ハ明田佐太郎ニ對スル債務ノ擔保ニ供セラレ且佐太郎ハ新八一派ノ右運動ニ要スル多額ノ費用ヲ立替ヘ來リタルモ右株主總會ニ於テ新八一派カ失脚シ且ツ總會ニ於テ株主ノ過半數ヲ得ル能ハサル狀勢トナリ右立替金ノ償還ヲ得ルコト困難ナルニ立至リタルニヨリ同年八月初旬ニ至リ理吉 佐太郎等ハ協議ノ上佐太郎ノ手裡ニ歸シタル新八等ノ名義可部銀行株式ヲ理吉及其ノ輩下ノ名義トナシタル上理吉等ニ於テ依然宗三郎一派ニ對抗シテ暴力ヲ以テ紛爭ヲ繼續シ之カ爲宗三郎ヲシテ奔命ニ疲ラシメ其ノ機ニ乘シ理吉等名義トナシタル右株式ヲ高價ニ買取ラシムルカ又ハ多額ノ金員ヲ交付セシメントコトヲ企テ其ノ手段トシテ理吉ハ同年八月二十一日可部町入江善平別宅ニ於テ開催サルヘキ可部銀行定時株主總

會ニ於テ暴力ヲ用ヒテ之ヲ紛擾セシメ右總會ヲ流會ニ終ラシメンコトヲ圖リ被告人哲爾及原審相被告入須澤範一ニ其ノ旨ヲ告ケテ共謀シ右兩名及其ノ餘ノ輩下三十餘名ト共ニ右總會ニ出席シタル上同日午前八時過頃右別宅庭先(即總會會場縁外)ニ立テ宗三郎カ總會ノ開會ヲ宣スルヤ理吉ハ異議アリト叫ヒテ宗三郎ニ對シ「戸田貴様ハ惡黨タ此ノ總會ヲ遣ルナラ斯ウ云フコトヲ續ケルゾ」ト怒號シ之ト同時ニ哲爾範一等ハ其ノ他ノ自派出席者ト共ニ宗三郎ノ身邊ヲ襲ハントシ之カ爲宗三郎一派ノ者モ亦之ニ應シ茲ニ雙方亂闘ヲ爲シ其ノ間理吉ハ自派ノ者ノ暴行ヲ指揮煽動シ又範一ハ下駄ヲ振上ケテ暴行ヲ爲サントシタルヲ巡查尼子龜一ノ爲制セラレタルヨリ同巡查ノ頭部ヲ手ニテ毆打シ又哲爾ハ右亂闘中現場ニアリテ氣勢ヲ添ヘ尙範一ヲ制シ居タル尼子巡查ノ手ヲ放サシメテ各暴行ヲナシテ威力ヲ用ヒ宗三郎ヲシテ其ノ紛擾ノ爲總會ノ議事ヲ進行スルコト能ハスシテ已ムナク流會ヲ宣スルニ至ラシメ因テ同銀行取締役タル宗三郎ノ株主總會開催ノ業務ヲ妨害シ

第二 被告人理吉ノ父肥田辰之助ハ昭和二年九月二十五日廣島縣會議員ニ當選シタル處政友會所屬ノ同縣會議員ハ辰之助ヲ縣會議長ニ推スコトト爲リタルモ當時同縣會議員五十一名中政友會所屬議員ハ二十名民政黨所屬議員ハ二十一名中立議員ノ團體タル中正會所屬議員十名ナリシカ右中立議員中五名ハ政友會ト行動ヲ共ニスルコトトナリタルニヨリ殘餘ノ中立議員一兩名ノ向背ニヨリ父辰之助ノ議長當落ヲ決スルコトトナリタルニヨリ被告人理吉ハ其ノ中一名以上ヲ政友會派ニ加擔セシメ以

テ辰之助ヲ議長ニ當選セシメンコトヲ圖リ同年十月二十三日頃ヨリ該議員ヲ爭奪センコトヲ企テタルモ民政黨員ノ監視嚴重ニシテ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサリシヨリ其ノ翌二十四日ノ議長選舉當日該中立議員カ廣島縣會議事堂議員昇降口ヨリ民政黨員控室ニ赴ク途中ニ於テ暴力ヲ以テ之ヲ中正會議員控室ニ拉致セント企テ其ノ旨ヲ被告人哲爾及原審相被告人須澤範一ニ告ケテ茲ニ右三名ハ共謀ノ上其ノ他ノ理吉輩下並ニ多數ノ政友會院外團ト共ニ右縣會議事堂ニ赴キ殘餘ノ中立議員カ民政黨員ニ護衛セラレテ民政黨員控室ニ到ル途中ヲ擁シ之ヲ中正會議員控室ニ拉致セントシタル處民政黨員ハ之ヲ防衛シ互ニ格闘ヲ爲スニ至リシカ其ノ場ニ於テ

(一) 被告人哲爾ハ民政黨員控室入口ニ於テ中立議員石川隆次カ該控室ニ入ルコトヲ阻止センカタメ同人ノ腕ヲ捉ヘテ暴行シ

(二) 被告人理吉ハ中立議員大本徳市カ民政黨員角吉好藏ニ護衛セラレテ議員昇降口ヨリ民政黨員控室ニ到ル途中廊下ニ於テ之ヲ阻止センカタメ好藏ニ對シ「角吉貴様ハ何時モ生意氣タ」ト怒號シ手拳ニテ好藏ノ左眼下ヲ毆打シ因テ同人ノ左眼下部ニ加療七日間ヲ要スル打撲傷ヲ被ラシメ

(三) 更ニ中立議員光田稔カ其ノ場ヲ經テ民政黨員控室ニ到ラントスルヤ之ヲ阻止センカタメ被告人哲爾ハ稔ニ對シ「此方へ來イ」ト叫ヒ乍ラ同人ノ肩ヲ捉ヘテ強ヒテ中正會議員控室ニ連

レ行カントシ理吉ハ又同控室入口ニ於テ稔ノ頸部ヲ腕ニテ絞扼シ同人ノ呼吸ヲ困難ナルニ至ラシメテ各暴行ヲ爲シ

第三 同年十一月十日午後九時頃梶德藏カ理吉等ノ行動ニ憤慨シ之ヲ面責センカ爲廣島市稻荷町ノ理吉方ニ赴キタル處當時理吉等ハ其ノ輩下ナル被告人哲爾外十餘名ト他所ニテ酒食中此事ヲ聞知シ輩下ト共ニ相前後シテ直ニ歸宅シタル上被告人理吉 哲爾ハ外數名ト共謀シテ德藏ヲ亂打シ因テ同人ニ對シ頭部打撲性皮下溢血治療約一週間ヲ要スル傷害ヲ加ヘ

第四 被告人理吉ハ銃砲火藥類ニ關スル營業者ニ非ス且當該官署ノ許可ヲ受ケスシテ犯意ヲ繼續シ

(一) 原審相被告人津村是義ニ對シ昭和二年十一月中及同年十二月中ノ兩度廣島市稻荷町ノ理吉方ニ於テ非軍用拳銃各一挺宛ヲ交付シ

(二) 右同一場所ニ於テ是義ニ對シ同年十一月中拳銃用實包約十六箇及同年十二月中同上約二十一箇ヲ夫レ夫レ讓渡シタルモノナリ

被告人理吉 哲爾ノ判示第二第三ノ所爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノトス

被告人理吉ハ大正十一年七月二十四日廣島控訴院ニ於テ業務妨害恐喝未遂罪ニヨリ懲役二年ニ處セラレ其ノ當時引續キ其ノ刑ノ執行ヲ終リタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人兩名ノ判示第一ノ所爲ハ各刑法第二百三十四條第二百三十三條ニ該當スルヲ以テ

各懲役刑ヲ選擇シ被告人兩名ノ判示第二ノ所爲中傷害ノ點ハ各同法第二百四條ニ暴行ノ點ハ各同法第二百八條ニ被告人兩名ノ判示第三ノ所爲ハ各同法第二四四條ニ夫レ夫レ該當スル處右第二第三ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ニヨリ連續ノ一罪トシ重キ傷害罪ノ刑ニ從ヒ各懲役刑ヲ選擇シ被告人理吉ノ判示第四ノ實包ノ讓渡ハ銃砲火藥類取締法第六條第十九條ニ拳銃ノ交付ハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條第四十六條ニ該當スル處右ハ同種行爲ニシテ犯意繼續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ニヨリ連續ノ一罪トシ重キ拳銃ノ交付ニ付定メタル刑ニ從ヒ懲役刑ヲ選擇シ被告人理吉ノ所爲ハ再犯ニ係ルヲ以テ同法第五十六條第五十七條ニ依リ法定ノ加重ヲ爲シ尙以上ハ何レモ併合罪ニ係ルヲ以テ各同法第四十五條第四十七條ニヨリ被告人兩名ニ對シテハ判示第二第三ノ所爲ニ付定メタル懲役刑ニ法定ノ加重ヲ爲スヘキ處被告人理吉ニ對シテハ同法第十四條ノ制限ニ從ヒ各所定ノ刑期範圍内ニ於テ被告人理吉及哲爾ニ對シテ各主文ノ刑ヲ量定處斷スヘク尙被告人哲爾ニ對シテハ同法第二十一條ニ依リ未決勾留日數ノ一部ヲ本刑ニ算入シ押收物件中拳銃竝實包ハ判示第四ノ組成物件ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條ニ依リ之ヲ沒收スヘキモノトス

被告人理吉ハ曩ニ詐欺橫領事件ニ付京城地方法院ノ勾留狀ニ依リ勾留セラレ病氣ノ爲住居ヲ京城ニ制限スル旨ノ條件ノ下ニ勾留ノ執行ヲ停止セラレ居リタル處原審即チ廣島控訴院ハ本件ニ付昭和四年八月三十一日勾留狀ヲ發シ其ノ執行ヲ京城地方法院ニ囑託シ昭和五年五月四日同被告人ヲ勾留シタル上

事件ノ審理ヲ爲シタリ

當院ハ左記米田辯護人上告趣意書第一點ニ對スル判決理由ニ掲ケタル法令ノ違反アリトシテ原判決ヲ破毀シ更ニ原判決主文ト同様ノ判決ヲ爲シタリ

○理由

各被告辯護人米田規矩馬上告趣意書第一點原判決ハ判示第二事實理由說明ニ於テ(一)被告人哲爾ハ民政黨員控室入口ニ於テ中立議員石川隆次カ談話室ニ入ラントスルヲ阻止センカタメ同人ノ腕ヲ捉ヘテ暴行シ(三)更ニ中立議員光田稔カ其ノ場ヲ經テ民政黨員控室ニ到ラントスルヤ之ヲ阻止センカタメ被告人哲爾ハ稔ニ對シ「此方ヘ來イ」ト叫ビ乍ラ同人ノ肩ヲ捉ヘテ強ヒテ中正議員控室ニ連レ行カントシ理吉ハ同控室入口ニ於テ稔ノ頭部ヲ腕ニテ絞扼シ同人ノ呼吸ヲ困難ナルニ到ラシメテ各暴行ヲ爲シト說示シ擬律ノ點ニ於テ右兩名ノ判示第二ノ所爲中暴行ノ點ハ刑法第二百八條ニ該當スルモノナリトシテ處斷シタリ而シテ刑法第二百八條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論スヘキモノナルコトハ同法ノ明記スル所ナリ然ルニ被害者タル石川隆次光田稔ハ本件ニ關シ何等告訴ヲ爲シ居ラス然ラハ原判決ハ親告罪ニ付親告ナキニ拘ラス處斷シタル違法ノ裁判ニシテ破毀ヲ免レスト云フニ在レトモ○告訴人光田稔石川隆次外二名ヨリ被告訴人理吉外四名(但シ被告哲爾ヲ包含セス)ヲ相手トシ廣島地方裁判所檢事正ニ宛テ提出シタル告訴狀(記録第四冊一〇五丁以下)ヲ閱スルニ告訴ノ要領トシテ「告訴人等ハ廣島縣會議員ニシテ昭和二年十月二十四日當時開會中ノ廣島縣臨時縣會ニ列席スヘク同日午後二時半頃同議事堂ノ正門ヲ入り民政俱樂部所屬縣會議員控室ニ進マントスルヤ被告訴人等ハ告訴人等ノ職務ヲ妨害シ且ツ被告訴人(告訴人ノ誤記ト認ム)中大本總市光田稔石川隆次小田一二(但シ小田一二ハ告訴人ト爲リ居ラス)ヲ不法ニ逮捕監禁セント欲シ被告訴人肥田理吉ハ大手ヲ廣ケテ告訴人等ノ通路ヲ阻止シ告訴人等ハ之ヲ排シテ中正會控室ノ出入口ニ到ルヤ被告訴人肥田理吉指揮ノ下ニ多クノ暴漢ハ告訴人稔ヲ襲撃其ノ室内ニ拉致監禁シタルモ稔ハ死力ヲ盡シテ之ヲ拒ミ云々」ノ記載アリ之ニ依レハ石川隆次及光田稔ハ原判示第二ノ日時場所ニ於テ其ノ場ニ臨メル被告訴人理吉及其ノ他ノ共犯者等ヨリ暴行ヲ受ケタル點ニ付其ノ處

分ヲ求ムル意思ヲ檢事ニ表示シタルモノト觀シ得ヘキカ故ニ其ノ告訴アリタルモノト云フヘク而シテ之カ告訴ハ共犯者全員ニ對シ其ノ效力ヲ及ホスモノナルニヨリ被告哲爾ニ對シテモ其ノ告訴アリタルモノトシテ處斷スルコトヲ得ヘシ然ラハ原審カ同被告人等ノ爲シタル殺上暴行ヲ判示第二ノ本文並其ノ(一)及(三)ニ記載スル如ク認定處分スルモ其ノ處分ヲ以テ被害者ノ告訴ニ基カサルモノト論スヘカラサルノミナラス右判示ニ從ヘハ被告人等ハ共同シテ石川隆次等ニ暴行ヲ加ヘタルコト明ナルヲ以テ其ノ罪ハ大正十五年法律第六十號暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項ニ該當シ告訴ヲ待テ之ヲ論スルノ要ナキモノトス但シ職權ヲ以テ調査スルニ原判決ノ法律ノ適用ヲ見レハ原判決ハ被告等ノ右行爲ニ付同法條ヲ適用セス刑法第二百八條ヲ適用シタルコト明瞭ナルヲ以テ此ノ點ニ付原判決ニハ權衡錯誤ノ違法存シ上告ハ其ノ理由アルモノトス

被告理吉辯護人足立進三郎上告趣意書第二點原判決ハ其ノ理由第一ニ於テ「前略理吉ハ同年八月二十一日可部町入江善平別宅ニ於テ開催サルヘキ可部銀行定時株主總會ニ於テ暴力ヲ用キテ之ヲ紛擾セシメ右總會ヲ流會ニ終ラシメシコトヲ圖リ被告人哲爾及原審相被告入須深範一ニ其ノ旨ヲ告ケテ共謀シ右兩名及其ノ餘ノ輩下三十四名ト共ニ右總會ニ出席シタル上同日午前八時過頃右別宅庭先(即總會場外)ニ立チ宗三郎カ總會ノ開催ヲ宣スルヤ理吉ハ異議アリト叫ヒテ宗三郎ニ對シ「戸田貴様ハ惡黨タ此ノ總會ヲ遣ルナラヌ云フコトヲ續ケル」ト怒號シ之ト同時ニ哲爾範一等ハ其ノ他ノ自派出席者ト共ニ宗三郎ノ身邊ヲ襲ハントシ之カ爲宗三郎一派ノ者モ亦之ニ應ジ茲ニ雙方亂闘ヲ爲シ其ノ間理吉ハ自派ノ者ノ暴行ヲ指揮煽動シ又範一ハ下駄ヲ振上ケテ暴行ヲ爲サントシタルヲ巡查尼子龜一ノ爲制セラレタルヨリ同巡查ノ頭部ヲ手ニテ毆打シ又哲爾ハ右亂闘中現場ニアリテ氣勢ヲ添ヘ尙範一ヲ制シ居タル尼子巡查ノ手ヲ放サシメテ各暴行ヲ爲シテ威力ヲ用キ宗三郎ヲシテ其ノ紛擾ノタメ總會ノ議事ヲ進行スルコト能ハスシテ已ムナク流會ヲ宣スルニ至ラシメ因テ同銀行取締役タル宗三郎ノ株主總會開催ノ業務ヲ妨害シ」タル旨ノ事實ヲ認定シ該判決書末段ニ於テ右總會ノ效力ニ關スル辯護人等ノ意見ヲ反駁シテ「被告辯護人等ハ判示第一ノ八月二十一日ノ可部銀行株主總會ニ入江善平別宅ノ庭先ニ於テ開會シタルハ不合法ノモノナルニヨリ被告人等ノ所爲ヲ以テ戸田宗三郎ノ業務ヲ妨害シタルモノト云フヘカラサル旨論スレトモ前示ノ證據認定事實ニヨリ明ナル如ク右株主總會ハ入江善平別宅ヲ總會會場トシテ招集セラレ同別宅十四疊ノ間ヲ總會會場ニ充テタルモノナル處同銀行取締役タル戸田宗三郎ハ開會當時ノ狀況ニヨリ右十四疊ノ間ノ庭外ナル庭先ニ議長席ヲ設ケルヲ便トシ其ノ庭ニ車子ヲ

法域ヲ異ニスル裁判所ノ勾留狀ノ覽合

据へ該席ヨリ株主ノ集マル十四疊ノ間ニ向ヒ開會ヲ宣シタルモノニシテ之ヲ以テ招集ノ場所以外ニ於テ總會ヲ開キタルモノト云フヘカラサルハ勿論何等法律上違法ヲ以テ論スヘキ點ナキヲ以テ辯護人等ノ所論ハ其ノ理由ナキモノトス」ト判示セラレタリ然レトモ辯護人ハ該總會ノ會議執行ハ不法ナリト信スルモノナリ即チ一本件ノ實狀ニ就テ考察スルニ同年七月三十日可部銀行樓上ニ於テ開キタル總會ニ於テハ(原判決ノ判示事實)戸田宗三郎ノ豫審ニ於ケル供述可部警察署長玉川貫吾、煙谷忠廣、島縣商工水産課長奥久登其ノ他關係者ノ豫審ニ於ケル供述等參照)開會時刻前早クヨリ戸田派ノ株主等ヲ會場南側ノ入口ヨリ入場セシメ南側ニ集合シテ北向キニ座セシメタル後南側入口ノ扉ニ「切」ト記シタル紙ヲ貼リ海塚派ノ株主ハ皆北側ノ入口ヨリ入場セシメ場内ノ北側ニ設ケタル議長席ト戸田派ノ株主トノ間ニ北方ニ座セシメタル後議長戸田宗三郎ハ南側ノ「切」ノ扉ヲ排シテ入口ニ現ハレ株主ノ背後ニ立チテ開會シマスト宣スルヤ北向ニ座セル人々ハ皆南向キ直ル際宗三郎何號議案ヲ議シマス云フヤ言下ニ佐々木節吾(宗三郎ノ護衛)カ賛成ト云ヒ宗三郎ハ賛成ト認メマスト宣シテ議事ヲ進行スルヤ海塚派ノ株主(肥田ニ屬スル派)ハ一齊ニ異議アリト叫ビ議長ノ身邊ニ近ツカントスルモ南側ニハ戸田派ノ株主等充滿シテ海塚派ヲ妨クル間ニ宗三郎ハ何事カ口ヲ動カシツツ終リニ「會場カ騒カシクシテ議事ハ出來マセン」ト述ヘテ扉外ニ出テ去リ依リテ其ノ決議ニ基キ即日海塚新八ノ監査役解任ノ登記ヲ完了シタル先例アリ此ノ不法ニシテ惡辣ナル議事手段ヲ敢テ爲シタルモノハ寔ニ戸田宗三郎其ノ人ナリシニ鑑ミルトキハ同年八月二十一日ノ入江善平宅ニ於テ兩派相對峙セル總會ヲ再ヒ開クニ方リ議長戸田宗三郎力再ヒ此ノ如キ不法手段ヲ採ルニ至ルヘキハ當然推測セラルル所ナリニ、八月二十一日入江善平宅ノ會場ハ六疊八疊ヲ併合シタル所謂十四疊ノ室ヲ以テ充テラレタルコトハ戸田宗三郎ノ供述ニ據リテ明ナリ總會招集ノ會場ハ總會議案ニ付テ議事ヲ行フ場所ナリ株主ノ待合室ニモアラス又單ナル集會座席ニモアラスナリ而シテ議事ハ取締役力議長トシテ之ヲ行フ議長ハ會場内ニ在リテ議場ヲ整理シ議案ヲ説明シ決議ヲ採ルヘキモノナリ從テ議長タル取締役ハ既定ノ會場内ニ在リテ正當ニ議事ヲ進行スルノ義務ヲ有スルナリ又議事方法ハ會場内ノ株主全員ニ對シテ行ハサルヘカラス其ノ一部分ノミニ對シテ之ヲ行ヒタルトキハ其ノ議事ハ不法ナリ又議長力會議場ヲ無視シ在場各株主ヲシテ其ノ議決權ヲ行フ能ハサラシムル狀態ニ於テ議事ヲ行ハントスル如キハ固ヨリ不法ナリト謂ハサルヲ得ス本件ノ事實ニ就イテ觀ルニ取締役戸田宗三郎ハ總會ノ議長ナリシ處突然前記會場ノ縁外ノ庭先即會場外ニ議長席ヲ設ケ恣ニ議事ニ入ラントシタルヨリ海塚派ノ株主等力異議アリト叫ビ終ニ紛擾ヲ起シタルモノニシテ

問題ハ此ノ庭先ニ議長席ヲ設ケタル行爲ノ違法ナリヤ否ニ存スルナリ即此ノ如キ議事方法ハ取締役ノ總會ニ於ケル正當ナル業務ノ執行ナリヤ否ニ存スルナリ(一)原判決ハ庭先ニ議長席ヲ設ケタル行爲ナリトシテ其ノ處ニ車子ヲ据ヘ開會ヲ宣シタルモノニシテ招集ノ場所以外ニアラス又違法ニアラスト判示セラルルモ其ノ觀察ハ不懇切ニシテ不徹底ナリト謂ハサルヲ得ス原判決ハ被告人理吉等カ戸田宗三郎ヨリ多額ノ金錢ヲ取得セントスル惡意ヲ抱キ其ノ手段トシテ總會ノ紛擾ヲ起サシムルノ企圖ヲ有シタルモノト先入的ニ誤認セラレタル結果却テ戸田宗三郎ノ心事ト行動トヲ餘リニ正當視スルノ弊ニ陥リタルニアラサルカ原判決ノ判示ノ如ク庭先ニ議長席ヲ設ケタルハ一ニ便利ナルカ爲ナリトスレハ其ノ便利ナル理由何處ニ在リヤ議長席設置ノ便否ハ會場内ノ株主ノ議事上ノ便否ニ依リテ決スヘク、長ノ專恣的ノ便否ニヨリテ決セラルヘキニアラス若シ議長一己ノ便ニ依リテ議長席ヲ隨意ニ設ケルコトヲ得トセハ議事ノ安全、時期ス能ハサルヘシ或ハ既定ノ會場内ニ議長席ヲ設ケルヲ不便ナリトセハ會場内ニ座席ヲ占メ居レル株主ニ對シテ屋外庭先ニ議長席ヲ設ケルノ便ナルヲ告ケ議事準備ヲ爲スモ未ダ晩カラサルヘシ若シ議長ノ便ニ依リテ議長席ヲ隨意ニ設ケルコトヲ許スニ於テハ、揭七月三十日ノ總會ニ於ケルカ如ク株主ト北方ニ向テ座セシメ議長ハ竊ニ南方入口ニ立チテ株主ノ背後ニ於テ一分間ノ決議完了ヲ爲スノ弊害ヲ生スルニ至ルヘシ「庭先議長席ノ便」モ亦之ト異曲同巧ノ「正當ナル」便」ナリト斷スヘカラサルナリ(二)庭先即庭園ハ招集會場ナリヤニ關シテ原判決ノ判示ニ服スル能ハサルモノアリ原判決ハ庭先議長席ヨリ株主ノ集マル十四疊ノ間ニ向ヒ開會ヲ宣シタルモノニシテ招集場所以外ニ總會ヲ開キタルモノト云フヘカラスト判定セラルルト雖其ノ趣意ノ在ル所ヲ認知スルニ難キヲ憾マサルヲ得ス十四疊ノ間ニ集合セル以上ハ議長席ハ會場外ニアルモ尙總會ハ招集ノ場所ニ於テ成立セリト觀ルト云フニアルカ或ハ庭先即庭園モ招集場所内ニ在リト斷セラルルニアルカ辯護人不敢ニシテ之ヲ解スルニ苦ムモノナリ併シ其ノ解釋ハ暫ク之ヲ措キ辯護人ハ判示ノ如ク株主總會ハ入江善平別宅ヲ總會ノ會場トシテ招集セラレ同別宅十四疊ノ間ヲ總會々場ニ充テタル以上ハ此ノ十四疊ノ間即宅内ノ一室カ招集ノ場所ニシテ其ノ庭園ハ招集場所ニ包含セラレサルコトヲ主張シ從テ總會ノ議事ハ其ノ招集場所内ニ於テ行ハレ其ノ總會ノ議題ニ付セラルル議案ヲ說明シ議事ヲ司ル議長ハ當然其ノ會場内ニ在リテ其ノ任務ヲ遂行スヘキモノナルコトヲ論斷セントスルモノナリ吾々古來ノ慣習ニ依ルモ現時ノ社會ノ通念ニ徴スルモ別宅ト云ヘハ家屋ヲ意味シ庭園ヲ意味セス一般集會ノ場所ニ於テモ何々館何々樓何々方ト指定シタル時ハ集會ノ場所ハ屋内ノ室ニシテ庭園ニアラサルコトハ一點ノ疑ヲ存セス(園

法域ヲ異ニスル裁判所ノ勾留狀ノ競合

遊會庭園ノ觀賞等ノ特殊ノ場合ハ勿論此ノ限ニ在ラス。本件ニ於テ入江善平別宅ヲ招集ノ場所ト定メ屋内十四疊ノ間ヲ其ノ會場ニ充テタル以上ハ其ノ除外庭先ノ地點モ亦當然ニ適法ニ招集場所内ニ在リト斷スルヲ得サルヘシ從テ總會議事ノ主要機關タル議長ハ此ノ會場内ニ席ヲ設ケテ決議完了ノ任務ヲ盡ササルヘカラサルナリ議長會場ヲ離レテ議事ナク總會ナシ議長總會ニ諸ラス恣ニ庭先ニ車子ヲ据ヘ其ノ傍ニ佇立シタリトセハ之總會外ニ於テ戸田宗三郎ナル人カ庭園ニ立テリト解スルノ外ナキナリ之ヲシモ猶ホ招集ノ場所ハ戸田宗三郎佇立ノ地點ニマテ延長シタリト斷定スルヲ得ヘキカ又次ニ判示ノ趣旨ニ依レハ庭先ノ席ヨリ十四疊ノ間ニ向ヒ開會ヲ宜シタルモノニシテ此ノ席ニ於テスルモ總會ノ會議ヲ行フコトヲ得ルヲ以テ適法ニアラスト云フニアル如シ然レトモ此ノ問題ハ事實上議長ノ聲カ株主ニ達スル距離ニ在リテ總會進行ニ差支ナシト云フ便宜問題ニアラス議長カ總會ノ同意ヲ得スシテ突如トシテ會場外ノ庭先ニ議長席ヲ設ケ開會ヲ宜シタルハ不適法ニアラスト云フ法律上ノ疑問ニ存スルナリ而シテ此ノ疑問ヲ解決スル爲ニハ戸田宗三郎カ一度モ十四疊ノ間ノ會場ニ入ラスシテ突如議長席ヲ庭先ニ設ケ株主等ヲ驚カシタル其ノ理由ト目的即戸田ノ行爲上意思ノ二付テモ併セテ尋究セサルヘカラサルナリ即戸田議長ハ正當ニ總會ヲ開キ正當ナル會議ヲ行フノ意思アリタリヤ將タ七月三十日ノ總會ニ於ケル如ク詐術ヲ弄レテ適法ナル議事ヲ爲サシメサルノ惡意ヲ有シタリヤ否ニ依リテ戸田カ正當ナル業務ヲ執行シタリヤ否ヲ判斷セラルヘキ必要アリト思料ス而シテ辯護人ハ戸田宗三郎ハ一時ノ便宜上議長席ヲ庭先ニ設ケタルニアラスシテ適法ナル會議ヲ行ハサル意思ヲ以テ不法ナル措置ニ出テタルモノナリト信スルモノナリ要之戸田宗三郎ハ取締役トシテ株主總會ノ招集場所ニ於テ總會ヲ開カス招集場所以外ノ庭園ニ議長席ノミヲ設ケ開會ヲ宜シタルハ適法ナル業務ヲ執行ニアラサルニ不拘取締役ノ正當ナル業務行爲ト認メタルハ原判決ノ重大ナル事實ノ誤認ナルト同時ニ此ノ不適法ナル行爲ノ遂行ヲ防止シタル被告理吉ノ所爲ニ對シテ業務執行妨害ノ罪ヲ以テ問擬シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノトスト云フニ在レトモ○原判示ニ據レハ昭和二年八月二十一日ノ可部銀行株主總會ハ其ノ場所ヲ入江善平別宅トシテ招集セラレ同別宅十四疊ノ間ヲ其ノ會場ニ充テラレタルトコロ同銀行取締役タル議長戸田宗三郎ハ開會當時ノ狀況ニ依リ右十四疊ノ間ノ除外庭先ニ議長席ヲ設ケルヲ便トシ其ノ處ニ卓子ヲ据ヘ該席ヨリ株主ノ集マレ十四疊ノ間ニ向ヒ開會ヲ宜シタルモノナレハ其ノ開會ヲ以テ違法ナリト云フヲ得ス蓋右十四疊ノ間ニ接續スル除外庭先ハ尙入江善平ノ別宅ノ一部ナリト解スルニ難カラサルノミナラス元來株主總會ノ議長ハ敢テ出席株主ト其ノ室ヲ同フセサルヘカラサルノ理ナキヲ以テ其ノ時ノ

情勢ニ鑑ミ議長ノ職責タル議場ヲ議案ノ整理及議事進行ニ付株主ノ集マレル室外ニ議長席ヲ設ケルヲ便宜ナリト思惟スルトキハ出席株主ニ諸ラストモ其ノ發言並決議權ノ行使及自己ノ職務執行ニ支障ヲ來ササル限リ室外相當ノ箇所ニ議長席ヲ設ケ此ノ席ヨリシテ其ノ職務ヲ執行スルコトヲ得ヘク此ノ場合ニハ總會ノ會場ハ該席ノ設ケラレタル處迄擴張セラレシモノト觀スヘキモノニシテ敍上判示ニ係ル議長席ノ設置並該席ヨリノ開會ノ宣言執レモ右說明ノ趣旨ニ合シ適當ノ措置タルヲ失ハサルト同時ニ判示株主總會ハ招集ノ場所ニ於テ適法ニ開會セラレタルモノト云ヒ得ヘキヲ以テナリ然ラハ同總會ニ於ケル取締役タル議長戸田宗三郎ノ處置ハ正當ニ爲シタル業務ノ執行ニ屬シ記録ヲ調査スルモ何等其ノ事實誤認ヲ窺フニ足ラサルヲ以テ其ノ執行行爲ヲ妨害シタル被告等ノ所爲ハ業務妨害罪ヲ構成スヘシ所論ハ原判旨ニ副ハサル事實ニ基キ擬律錯誤ノ違法アルコトヲ主張スルモノニシテ其ノ理由ナシ

被告理吉辯護人秋山高三郎 横田隼雄 上告趣意書第七點原審裁判所ニ於テ其ノ判決ノ基本タル第五回公判ニ際シ被告人ヲシテ強制在廷セシメタルハ失當ナリ被告人カ京城地方法院ニ於テ勾留狀ヲ執行セラルレ病氣ノ爲住居ヲ京城ニ制限スル條件ノ下ニ勾留ヲ停止セラレ居リタルコトハ本件記録ニ徴シテ明ナリ而シテ原審裁判所ハ昭和四年八月三十一日附ヲ以テ勾留狀ヲ發布シ其ノ執行ヲ京城地方法院ニ囑託シタルモ右事情ノ爲執行スルコト能ハサリシ事實ハ又記録ニ徴シテ之ヲ認メ得ヘシ然ルニ昭和五年五月四日ニ至リ京城地方法院ノ勾留ヲ解ク處分ナク又住居制限ヲ解ク處分ヲ爲スコトナクシテ右勾留狀ヲ執行シ被告人ヲ原審裁判所ニ引致拘禁シ第五回公判ニ強制在廷セシメタルモノトス一ノ法權カ一定地域ニ人ヲ強制シテ在留セシムル場合ニ之ト系統ヲ異ニスル他ノ法權カ其ノ強制在留ヲ破ツテ其人ヲ他ノ地點ニ移スコトヲ得ルヤ否多大ノ疑問ヲ挾マサルヲ得ス若シ夫レ原審裁判所ノ右勾留狀ノ執

行カ違法ナリトスレハ其ノ執行ニ基キ被告人ヲ強制在廷セシメテ爲シタル原審裁判所ノ審判ハ悉ク違法ニ歸シ原審判決ハ此ノ點ニ於テモ亦破毀ヲ免レスト思料スト云フニ在レトモ○被告事件ヲ受理シタル裁判所ハ法定ノ條件ヲ具備シ且事件ノ審理ニ必要ト認メタル場合ニハ當該被告人ニ對シ勾留狀ヲ發シ得ヘキ職權ヲ有スルモノニシテ此ノ職權ハ假令法域ヲ異ニスル裁判所カ既ニ他事件ニ付勾留狀ヲ發シテ特殊ノ事由ノ下ニ其ノ勾留ヲ停止セル場合ニ於テモ其ノ行使ヲ妨ケララルモノニ非サレハ被告理吉カ別事件ニ付京城地方法院ニ於テ勾留狀ヲ執行セラレ病氣ノ爲住居ヲ京城ニ制限スル條件ノ下ニ其ノ勾留ヲ停止セラレ居リタリトスルモ原審カ之ヲ顧慮スルコトナク事件審理ノ必要上法定條件ノ下ニ昭和四年八月三十一日附勾留狀ヲ發シテ其ノ執行ヲ京城地方法院ニ囑託シ因テ以テ昭和五年五月四日勾留狀ヲ執行シタルハ違法ニ非ス從テ其ノ違法ヲ前提トスル本論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

然レトモ米田辯護人ノ論旨第一點ニ關シ説明シタル如ク原判決ノ法律適用ニハ失當アリ上告ハ其ノ理由アルヲ以テ原審判決ヲ破毀シ當院ニ於テ更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ原判決ノ確定シタル事實ニ付法律ヲ適用スルニ被告兩名ノ原判第一ノ所爲ハ各刑法第二百三十四條第二百三十三條ニ該當スルヲ以テ各懲役刑ヲ選擇シ被告兩名ノ原判第二ノ所爲中傷害ノ點ハ各同法第二百四條ニ暴行ノ點ハ各人正十五年法律第六十號暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項ニ各被告兩名ノ原判第三ノ所爲ハ各刑法第二百四條ニ該當スルトコロ右第二第三ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ニヨリ連續一罪トシ重キ傷害罪ノ刑ニ從ヒ各懲役刑ヲ選擇シ被告理吉ノ原判第四ノ所爲中實包讓渡ノ點ハ銃砲火藥類取締法第六條第十九條ニ準銃交付ノ點ハ銃砲火藥類取締法施行規則第三

十九條第一項第四十六條ニ該當スルトコロ右ハ同種行爲ニシテ犯意繼續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ニヨリ連續一罪トシ重キ拳銃交付ニ付定メタル刑ニ從ヒ懲役刑ヲ選擇シ被告理吉ノ所爲ハ再犯ニ係ルヲ以テ同法第五十六條第五十七條ニ依リ法定加重ヲ爲シ尙以上ハ併合罪ナルヲ以テ各同法第四十五條第四十七條ニヨリ被告人兩名ニ對シ其ノ最モ重キ判示第二第三ノ所爲ニ付定メタル懲役刑ニ法定加重(被告理吉ニ對シテハ同法第十四條ノ制限内ニ於テ)ヲ爲シタル各刑期間範圍ノ下ニ被告兩名ニ對スル主文ノ刑ヲ量定スヘク尙被告哲爾ニ對シテハ同法第二十一條ニ依リ未決勾留日數ノ一部ヲ本刑ニ算入シ押收物件中拳銃並實包ハ原判第四ノ組成物件ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第四十九條ニ依リ之ヲ沒收スヘキモノトス

以上ノ理由ニヨリ刑事訴訟法第四百三十四條第二項第四百四十七條第四百四十八條ノ規定ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事矢追秀作關與

○傷害被告事件

(昭和五年(九)第一七六七號
同年十二月十八日第二刑事部判決)

棄却)

【上告人】 被告人 米倉彌六 辯護人

大井靜雄 田中政一 大田義六 丸山勇之助 香田廣一

法廷外ノ證據決定ト決定書ノ作成

○判示事項

法廷外ノ證據決定ト決定書ノ作成

○判決要旨

法廷外ニ於テ爲ス證據ニ關スル決定ハ刑事訴訟法第三百二十四條
第三項ノ請求ヲ却下スル場合ノ外決定書ノ作成ヲ要セス

【參照】刑事訴訟法第六十六條 裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得
同法第二百十二條第一項 裁判所外ニ於テ證人ヲ訊問スヘキトキハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ證人ノ所在地ノ豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

同法第三百二十四條 裁判所ハ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲公判期日前證據物若ハ證據書類ノ提出ヲ命シ又ハ證人、鑑定人、通事若ハ翻譯人ニ對シ召喚狀ヲ發スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ召喚狀ヲ發シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ氏名ハ直ニ之ヲ訴訟關係人ニ通知スヘシ
檢事、被告人又ハ辯護人ハ第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
前項ノ請求ヲ却下スルトキハ決定ヲ爲スヘシ

同法第三百二十六條 裁判所ハ證人疾病其ノ他ノ事由ニ因リ公判期日ニ出頭スルコト能ハスト思料スルトキハ公判期日前之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百二十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

同法第三百二十七條 裁判所ハ公判期日前鑑定若ハ翻譯ヲ爲サシメ又ハ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲スコトヲ得

同法第三百二十八條 裁判所ハ公判期日前公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

同法第三百四十四條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第二百四條第二十一條ヲ適用シ被告人ヲ懲役六月ニ處ス但未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ豫テ懇親ノ間柄ニ在ル被告人肩書居宇荒木萬吉(當六十二歲)等ト共ニ同字威徳院ノ堂宇建設ノ爲同院互助講會ヲ發起創立シ爾來萬吉ノ委囑ニ依リ書記トシテ帳簿記載ノ事務ニ從事シ來リタルトコロ昭和五年五月五日ノ講會ニ際シ萬吉ノ首唱ニ依リ突如無斷右書記ヲ罷免セラレ萬吉ニ於テ已ニ後任者ヲ雇入レ尙萬吉ハ同日ノ講會ニ被告人出席スルトキハ自身出席セサル旨言明シ居ル由ヲ聞知シ心中穩カナラス同日午前九時頃同字八十八番地荒木萬吉方ニ到リ其ノ理由ヲ糺シタルニ萬吉ハ「行ク

法廷外ノ證據決定ト決定書ノ作成

モ行カサルモ自分ノ勝手雇フモ雇ハサルモ自分ノ勝手」等ノ言辭ヲ弄シ不遜冷淡ノ態度ヲ示シタルヨ
リ元來短氣ナル爲之ニ嚇怒シ前後ノ思慮ナク突如其ノ身邊ニ有合セタル薄刃庖丁(證第一號)ヲ以テ
萬吉ノ頭部ニ斬付ケ其ノ後頭部六ヶ所ニ治療約二週間ヲ要スル切創(内一創ハ深ク骨ニ達シ骨片及刃
片ヲ藏ス)ヲ負ハシメタルモノナリ

原審ハ第一回公判期日ニ於テ辯護人ノ申請ニ依リ證人横尾佐六及岡村惣一ヲ囑託シテ訊問スヘキ旨ヲ
決定シ裁判長ハ其ノ訊問ヲ囑託スルニ當リ右決定以外ノ證人船津トクノ訊問ヲモ同時ニ囑託シ第二回
公判期日ニ於テ右證人三名ノ各訊問調書ニ付證據調ヲ爲シタリ

○理由

辯護人大井靜雄 大澤一六 田中政義 丸山勇之助 香田廣一 上告趣意書第三點原審長崎控訴院ニ於テハ
辯護人ヨリ公判開廷前豫メ書面ヲ以テ證人荒木萬吉 横尾佐六 田中乙一 江口次郎 古川廣吉 岡村惣
一 米倉嘉一ノ七名ノ申請書ヲ提出シ(記録第三五九丁以下昭和五年九月三日付證據調申請書)第一
回公判期日ニ於テ辯護人ヨリ該書面ニ基キ證人訊問ノ請求ヲナシ特ニ其ノ中荒木萬吉ハ在廷證人トシ
テ訊問アリタキ旨請求シタルトコロ裁判所ハ合議ノ上證人荒木萬吉ヲ在廷證人トシテ訊問シ尙證人横
尾佐六 岡村惣一ヲ佐賀區裁判所ニ囑託シテ訊問シ其ノ他ノ申請ハ却下スル旨決定シタルコトハ同公
判調書ノ記載ニ依リ明白ナリ(記録第三九八丁裏五行以下昭和五年九月十二日付第一回公判調書)然

ルニ裁判所ハ佐賀區裁判所ニ對シ證人横尾佐六 岡村惣一 船津トク三名ノ訊問ヲ囑託シ(記録第四一
六丁以下昭和五年九月十三日付囑託書)同區裁判所ハ右三名ヲ訊問シ(記録第四二三四丁以下證人訊問
調書)同第二回公判期日ニ於テ裁判長ハ囑託 係ル右三名ノ證人訊問調書ヲ朗讀シ被告人ニ示シ意見
辯解ヲ求メタルコト亦明白ナリ(記録第四五七丁裏以下昭和五年九月二十九日付第二回公判調書)故
ニ原審ニ於テハ證人横尾岡村ノ兩名ニ付テハ第一回公判期日ニ於テ辯護人ノ申請ヲ許可スル旨ノ決定
アリタルモ證人船津トクニ付テハ同公判期日ニ於テ辯護人ヨリ何等之カ申請ヲナサス又裁判所ノ職權
ニヨリテ訊問スル旨ノ決定ナキハ勿論其ノ他法廷外ニ於テ何等裁判所カ合議ノ上同證人ヲ採用シタル
旨ノ事迹ノ見ルヘキモノ存在セサルヲ以テ單ニ裁判長ノ名ニ於テ發シタル囑託書ハ適法ニアラス從テ
斯カル無効ノ囑託書ニ基キ訊問シ之ヲ法廷ニ顯出セシメタルハ亦違法ナリサレハ原審ノ訴訟手續ハ爰
點ニ於テ違法ナルヲ以テ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニアレトモ○原審第一回公判調書並所
論ノ囑託書ニ徴セハ所論證人船津トクニ付テハ原審ハ法廷外ニ於テ合議ノ上職權ヲ以テ佐賀區裁判所
ニ囑託シテ訊問スル旨ノ決定ヲ爲シタル事實ヲ推認スルヲ得ヘク而シテ斯クノ如キ決定ニ付テハ決定
書ノ作成ヲ要セサルモノトス蓋シ法廷外ニ於テ爲ス證據ニ關スル決定ニ付テハ刑事訴訟法第三百二十
四條第三項ノ請求ヲ却下スル場合ノ外特ニ決定書ノ作成ヲ要スルモノニ非サルコト同條並同法第三百
二十六條乃至第三百二十八條ノ規定ノ解釋上疑ナケレハナリ然ラハ本件ニ付テハ決定書ノ作成ナシト

法廷外ノ證據決定ト決定書ノ作成

雖右決定ニ基キテ爲シタル原審裁判長ノ囑託書及之ニ基キテ爲シタル受託判事ノ證人訊問並原審第二回公判期日ニ於テ裁判長カ該證人訊問調書ヲ朗讀シ被告人ニ意見辯解ヲ求メタル點ハ孰レモ適法ニシテ原審ノ訴訟手續ニハ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事三橋市太郎關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和五年(九)第一七五三號 棄却)

昭和五年(九)第一七五三號 同年十二月二十日第三刑事部判決

【上告人】 被告人 小野喜典三 辯護人 沼田 安部利七 赤井幸夫

【第一審】 前橋地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

選舉運動者ノ勸諭監視ト選舉運動

○判決要旨

他ノ候補者ノ運動員ノ勸諭ヲ監視スル行爲モ亦選舉運動ナリ

【參照】 衆議院議員選舉法第一百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

同法第九十六條 議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此ノ限ニ在ラス

同法第二百二十九條 第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審判決ハ左記ノ事實ヲ認定シ衆議院議員選舉法第九十六條第一百二十九條第一百十二條第一號ヲ適用シ被告人星野筆吉ヲ罰金百五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ一日金二圓ノ割合ヲ以テ勞役場ニ留置スル旨ノ宣告ヲ爲シタリ

選舉運動者ノ勸諭監視ト選舉運動

被告人星野筆吉ハ昭和五年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ其ノ選舉人ナリシトコロ群馬縣第一區ヨリ立候補シタル議員候補者青木精一ノ法定ノ選舉運動員ニ非サルニ拘ラス同候補ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ(一)同月九日頃群馬縣利根郡東村大字追見ノ自宅ニ於テ青木候補ノ選舉委員タル星野和吉ニ對シ同候補ノ爲投票及選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金十圓ヲ供與シ(二)同月十日頃同村大字高戸谷金子仙次郎方ニ於テ選舉人タル同人ニ對シ青木候補ノ爲ニ各派候補者ノ運動員ノ動靜見張方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金五圓ヲ供與シタルモノナリ

○理由

被告人星野筆吉辯護人沼田勇上告趣意書第一點原審判決ニハ事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存ス第一原審判決ハ被告人ニ對スル事實(甲第四ノ一)トシテ被告人星野筆吉ハ二月九日頃肩書自宅ニ於テ青木候補ノ選舉委員タル星野和吉ニ對シ投票及選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金十圓ヲ供與シト判示シ其ノ事實ハ衆議院議員選舉法第百十二條第一號ニ所謂當選ヲ得セシムル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢ヲ供與シタルモノト認定シ其ノ證據トシテ被告人星野筆吉ニ對スル豫審第二回調書並證人星野和吉ノ各供述ヲ援用シ之ヲ認ムル旨說示シタリ然レトモ右被告人星野筆吉ヨリ證人星野和吉ニ對シ渡シタル金十圓也ハ全然右判決認定ノ如キ意味ニアラスシテ开ハ和吉ノ依頼ニヨリ演說會場用木炭代及ボスタ貼付人夫賃等ノ立替方ノ申込ヲ受ケ其ノ立替ヲ爲ス意思ヲ以

テ之ヲ貸與シタルモノニシテ此ノ點ニ於テ本件判決事實認定ニ誤認アルモノト思料ス一、右立替ノ爲貸渡シタル趣旨ノ被告人星野ノ供述トシテ(一)豫審第二回調書一一問ソレハ(十圓札一枚)和吉ニ青木候補ヘ投票方ヲ依頼シ且ツ附近ノ有權者ヘモ勸誘方ヲ頼ンテ和吉ノ投票及運動ノ報酬トシテ渡シタモノテハナイカ答和吉ハ青木ノ運動員ニナツテ居リマシタカ演說會ノ宣傳ビラヤボスタ貼リノ人夫賃ノ仕拂ニ困ルト云ヒマシタカラ其ノ費用トシテ私カ貸シタノテ御訊ネノ様ナ意味テ渡シタノテハアリマセヌ一二問左様ナ費用ハ和吉カ直接事務所ヨリ貰フヘキモノニシテ法定ノ運動員ニ非サル被告カ出ス必要ハナイ様ニ思ハルルカ實際ハ和吉ノ投票報酬及運動報酬トシテ渡シタノテハナイカ答最初沼田ノ青木事務所カラ運動員トナルヘキ候補者ノ資格證明書ヲ送ツテ呉レト云フ電話カアリ云々(中略)資格證明書ヲ役場ヨリ貰ツテ事務所ヘ送ツタ關係上和吉カ私方ヘ參リ前申上タ様ナ費用カナクテ困ルト云ヒマスカラソレ等ノ費用ハ後テ領收書ヲ出セハ事務所カラ取レルモノト思ヒ一時私カ立替ノ心算テ十圓渡シタノテアリマス一三問然シ和吉ハ被告ヨリ青木ニ投票方ヲ頼マレ尙心當リヲ歩イテ青木ニ投票スル様頼ンテ呉レト云ハレ其ノ世話料トシテ十圓貰ツタ様ニ申立テ居ルカ如何答私ハ和吉カ運動ノ人夫賃ノ仕拂ニツカフ心算テヤツタノテアリマス(二)第一審一回公判調書中右同趣旨ノ陳述二、原審判決カ右吉ニ對スルハ與關係ノ證據トシテ當該和吉ノ豫審ニ於ケル同人ノ供述記載トシテ右供與ヲ受ケタル意味ノ供述記載アルニ係ラス其ノ調書中左ノ如キ供述記載アルコト並ニ同人カ其

ノ調書ニ明ナル如ク同人ハ七十一歳ノ老齡ニシテ原審判決事實認定ノ唯一ノ證據トシテ直ニ以テ其ノ供述記載ヲ信憑シ得ヘキヤ否ヤ甚タ疑ナシトセス「一〇問筆吉ハ金ヲ吳レタ際青木ニ投票シ尙心當リノ有権者ヘモ頼ンテ吳レト云ハナカツタカ答其ノ際私ニ君モ賛成シ心當リニモ頼ンテ吳レト云ヒマシタカラ私ノ事ハ自分ノ意見ニアルカ此ノ年ニナツテカラ心當リヲ勸誘スルコトハ出來ナイト云ヒマシタカラソレテハ其ノ事ハ仕様カナイト云ヒマシタ一一問然ラハ筆吉カラ貰ツタ十圓ハ證人カ青木ニ投票スル御禮ヤ他人ヲ勸誘スル御禮トシテ貰ツタノテハナイカ答筆吉ハ如何ナル考テ吳レタカ分リマセヌケレトモ私ハ金テ投票スル考ハアリマセヌテシタカラ云々(中略)一七問其ノ後其ノ時ノ費用ハ如何ニナツタカ答其ノ時ノ人夫賃ヤ炭代茶菓子代等カ合計十六圓五十五錢テアリマシタカラ事務所カラ拂ツテ貰フ心算テ居タ所拂ツテ吳レナイノテ人夫等ハ私ニ催促シマスカラ私モ仕方ナク筆吉カラ貰ツタ十圓ト尙妻ノ所持金ヲ出シテ演說會ノ費用右十六圓五十五錢ヲ二月二十日二十一日ノ兩日ニ支拂ツテ遣リマシタ」トノ供述記載ヲ彼是綜合考覈スル時其ノ終始一貫セル被告星野筆吉ノ供述記載趣旨ノ如ク本件十圓ハ和吉ニ對スル供與ニアラスシテ一時貸與シタルモノト認ムルヲ眞實ニ適スルモノト認メ得ヘク殊ニ原審裁判所カ唯一ノ證據トシテ採用シタル證人和吉ノ證言中右ノ如ク星野筆吉ノ供述ニ專ラ添フ點(即チ筆吉カラ貰ツタ十圓ヲ演說會ノ費用ニ支拂タリトノ趣旨ノ供述)アルノミナラス和吉ノ證言中ニハ原審判決ノ證據採用部分タル「十圓ハ青木候補ノ選舉ニ關シ供與シタル意味ノ

判然タル供述即チ青木ノ運動員トナルニツキ筆吉ヨリ御禮ヲ貰ツタ」トノ趣旨ノ供述アルニ係ラス前記ノ如ク「筆吉ハ如何ナル考ヘテ吳レタカ判リマセヌ云々」トノ供述アルニ徴スルモ證人星野和吉ノ供述記載ノ信憑力極メテ薄弱ナルモノ存シ此ノ點ヨリスルモ本件右事實認定ハ事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存スルモノト思料ス第二原審判決ハ被告人星野筆吉ニ對スル事實(甲第四ノ二)トシテ二月十日頃同郡東村大字高戸谷金子仙次郎方ニ於テ選舉人タル同人ニ對シ青木候補ノタメ運動員ノ動靜見張り方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金五圓ヲ供與シト判示シ其ノ事實ハ衆議院議員選舉法第一百十二條第一號ニ所謂當選ヲ得セシムル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢ヲ供與シタルモノト認メ其ノ證據トシテ被告人星野筆吉ニ對スル豫審第二回調書並證人金子仙次郎ニ對スル豫審訊問調書ノ各供述ヲ採用シ之ヲ認ムル旨判示シタリ然レトモ一、被告人星野筆吉カ金子仙次郎ニ對シ各候補者ノ運動員動靜見張り方ヲ依頼シタルハ青木候補ノ爲之ヲ依頼シタルモノニアラスシテ被告人個人ノ爲之ヲ依頼シタルモノナルヲ以テ右仙次郎ニ對スル關係ノ本件判決認定事實ハ此ノ點ニ於テモ左記諸點ヲ綜合攻究スルトキハ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存スト思料ス(一)被告人筆吉ハ昭和五年二月ノ總選舉ニ際シテハ身利根政友俱樂部ノ副會長ナルニ拘ラス偶病氣シ直接選舉運動ニ關係シ得サリシ爲其ノ立場上後日ノ參考トシテ各派ノ情勢ヲ知り置ク必要上選舉運動ニ全然關係ナク右各派ノ情勢見張報告方ヲ平素親交アル隣家ノ金子仙次郎ニ依頼シ同人ニ對シ其ノ報酬ト

シテ金五圓(私財)ヲ提供シタルモノナルコト(二)見張行爲自體カ其ノ性質上直ニ以テ選舉運動ト認
 メ得ヘカラサル關係即チ見張行爲カ選舉法ニ所謂選舉運動ト認メラルルニハ見張行爲其ノモノカ具體
 的選舉運動ニ加功關與ノ關係存シ初メテ之ヲ認メ得ヘキモノナルコトハ多言ヲ要セサルトコロニシテ
 原審判決援用ノ證據記録並其ノ他ヲ精査スルモ右見張行爲カ青木候補ノ選舉運動ニ關シ加功關與シタ
 リト認メ得ヘキモノ(因果關係)全然存セサルコト以上(一)ノ關係ニツキ記録ヲ査閱スルニ星野筆
 吉ニ對スル第一審第一回公判調書中間尙同月十日前後頃居村ノ有權者金子仙次郎ニ對シ青木候補ノ爲
 ニ各候補者ノ運動員ノ動靜見張方ヲ頼ミ其ノ報酬トシテ金五圓ヲヤツタサウテハナイカ答金ヲ其ノ日
 頃同人ニヤツタノハ相違アリマセンカ私ハ今度ノ選舉ニツイテ病氣テ動ケヌタメ各派ノ情勢カ分ラヌ
 カラ後ノ參考材料トシテ必要タカラ選舉運動カ始マツタ時カラオシマイマテ各派ノ動靜ヲ見張ツテ吳
 レト言フテ五圓ヤツタノテスソレテスカラ別ニ青木候補ノタメト言フ事テハナク私個人ノ參考材料ニ
 スルタメテアリマス(中略)問ソレハ青木候補ノ當選ヲ得シムル目的ヲ頼ンタノテハナイカ答左様テハ
 ナイノテス兎ニ角二十日間許リト言フモノ見張ツテ吳レルノテスカラ其ノ位ノ金ハ多イトハ思ハスマ
 ツタノテス同人方ハ各派ノ運動員等カ通ル道ニ面シテ居リソレニ同家ハ碁會所ノ様ニ碁打ヤ將棋差シ
 カヨク來テ居ルノテ私ノ將來ノ參考ノタメ報告シテ貰フ考ヘテ頼ンタノテストノ供述記載並同人ニ對
 スル原審第一回公判調書中間尙被告ハ同月十日頃被告居字ノ有權者金子仙次郎ニ對シ青木候補ノ爲各

派候補者ノ運動員ノ動靜見張方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ同人ニ金五圓ヲ渡シタ事カアルカ答右見張リ
 方ハ青木候補ノ爲ニ依頼シタノテハナク私カ後ノ話ノ材料トシテ知リタカツタ爲ニ依頼シタモノテア
 リマス云々(中略)問被告ハ其ノ見張リノ情報如何ニ依ツテ青木候補ノ爲別ノ手段ヲ講スル必要テハ
 ナカツタカ答左様テハアリマセン問單ナル話ノ材料ノタメノ動靜見張リノ報酬トシテハ多過キハシナ
 イカ答二十日ニモ互ツテ見張リヲシテ貰フノテスカラ其ノ位ハ相當カト思ヒマストノ同人ノ殆ント終
 始一貫セル供述記載ヲ見ルトキハ右金子仙次郎ノ見張行爲カ青木候補ノ爲ニナシタルモノニアラスシ
 テ星野筆吉個人ノ爲其ノ見張リ方ヲ依頼シタルモノト認メ得ヘキ事情存スルニ拘ラス原審判決ハ此ノ
 點ヲ無視シテ被告人ニ對スル豫審第三回訊問調書中ノ一部ノ供述ノ記載ト證人金子仙次郎ノ供述記載
 ノミヲ以テ前記事實ヲ直ニ認定シタルコトハ事實誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル理由存スト
 謂ハサルヲ得スニ、尙原審判決ノ被告人星野筆吉ニ對スル右認定事實(甲第四ノ二)ノ中金子仙次郎
 ニ對シ運動員ノ動靜見張方ヲ依頼シ金五圓ヲ供與シタル場所ヲ「大字高戸谷ト認定セルモ原審判決援
 用ノ證據並本件記録全體ヲ精査スルモ右依頼並供與ノ場所ヲ大字高戸谷ト認ムヘキ證據全然ナシ此ノ
 點ヨリスルモ原審判決ニハ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル理由存スルモノト史料ス
 原審判決ハ以テ第一第二ノ一二ノ點アルヲ以テ破毀ヲ免レスト史料スト云フニ在レトモ○原判決ニ摘
 示シタル證據ニ依レハ論旨後半所掲ノ事實即チ被告人星野筆吉ハ群馬縣第一區ヨリ立候補シタル衆議

【要旨】

院議員候補者青木精一ノ法定ノ選舉運動員ニ非サルニ拘ラス同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉タル金子仙次郎ニ對シ同人方ニ於テ青木候補ノ爲各派候補者ノ運動員ノ動靜見張方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金五圓ヲ供與シタルコトヲ認メ得ヘク他ノ各候補者ノ運動員ノ動靜ヲ監視スル行爲ハ自己ノ推薦スル候補者ノ選舉運動ヲ有利ニ展開セシメ得ヘキコト勿論ニシテ是亦選舉運動ニ外ナラサルヲ以テ原判決ハ選舉運動ニ對スル報酬供與罪ノ成立スル所以ヲ判示スルモノトシテ缺クルトコロナシ但原判決ハ金子仙次郎方ヲ群馬縣利根郡東村大字高戸谷ナリト認定シタルモ同人ニ對スル豫審訊問調書ノ記載ニ徴スレハ同人住所ハ同村大字追見ナルコト明ナルヲ以テ原判決ノ右記載ハ之ヲ誤記ナリト認メサルヘカラス加之犯罪成立ノ場所ハ犯罪構成要件ニアラサルヲ以テ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ說示セサルモ違法ニ非ス其ノ餘ノ論旨ハ論旨前半ト共ニ原審ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷ヲ非難シ延テ事實ノ認定ヲ攻撃スルニ過キスシテ記錄ニ徴スルモ原判決ノ事實誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ヲ發見セス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事南部金夫關與

○傷害被告事件

(昭和四年(九)第一四六〇號 事實審理)
 (同五年十二月二十二日第五刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 越智照吉 辯護人 松本重敏

【第一審】 松山地方裁判所西條支部 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第一條第一項第三號ノ排斥行爲
 — 同條第二項ノ適用

○判決要旨

- 一 自己又ハ家族ノ生命身體ニ對スル危險ヲ排除スル爲不法侵入者
- ニ 對シテ爲シタル加害行爲ハ盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第一條第一項第三號ノ排斥行爲ニ該當ス【要旨第一】

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第一條第一項第三號ノ排斥行爲 同條第二項ノ適用

二不法侵入者ノ行爲ニ因リ興奮ノ結果自己又ハ家族ノ生命身體ニ對スル現在ノ危險アリト誤信シ直ニ不法侵入者ヲ殺傷スル行爲ハ前示法律第一條第二項ニ該當ス【要旨第二】

【參照】刑法第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

同法第六條 犯罪後ノ法律ニ依リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス 盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第一條 左ノ各號ノ場合ニ於テ自己又ハ他人ノ生

命、身體又ハ貞操ニ對スル現在ノ危險ヲ排除スル爲メ犯人ヲ殺傷シタルトキハ刑法第三十六條第一項ノ防衛行爲アリタルモノトス

- 一 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還セントストキ
 - 二 兇器ヲ携帯シテ又ハ門戶牆壁等ヲ踰越損壞シ若ハ鎖鑰ヲ開キテ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ニ侵入スル者ヲ防止セントストキ
 - 三 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ニ侵入シタル者又ハ要求ヲ受ケテ此等ノ場所ヨリ退去セサル者ヲ排斥セントストキ
- 前項各號ノ場合ニ於テ自己又ハ他人ノ生命、身體又ハ貞操ニ對スル現在ノ危險アルニ非スト雖モ行爲者恐怖、驚愕、興奮又ハ狼狽ニ因リ現場ニ於テ犯人ヲ殺傷スルニ至リタルトキハ之ヲ罰セス

○事實

第二審判決ハ本件被告人ノ行爲ヲ單純ナル傷害罪ト認メ懲役八月ニ處シタリ

○理由

辯護人松本重敏上告趣意書第二點ノ論旨ハ理由アリ原判決ハ之ヲ破毀スヘキモノナルコトハ昭和五年二月六日當院ニ於テ言渡シタル事實審理ノ決定理由ニ之ヲ説明シタリ仍テ審按スルニ被告人照吉ハ福岡熊市カ昭和四年八月十七日午後五時頃愛媛縣新居郡西條町被告人居宅ノ玄關ニ來リ自分ハ元橋ノ熊ト云フ者ニテ坂井組ノ若者ナルカ金ヲ借受ケタキ旨申出テタルモ故ナキ出金ハ爲ササル旨答ヘ之ニ應セサリシ處熊市ハ其ノ半纏ヲ右玄關ノ下駄箱ノ上ニ脱キ棄テ被告人ノ後ヨリ同家八疊ノ座敷ニ入り其ノ床前ニ胡座シ更ニ被告人ニ對シ金二十圓ヲ貸セト言ヒ被告人復之ヲ拒絕シタル所熊市ハ今晚勝負ニ來ルカラ首ヲ洗ツテ待ツテ居レト放言シ被告人カ之ニ對シ今晚テナクトモ今テモヨイト答フルヤ熊市ハ直チニ屋外ニ出テ其ノ乾分野口六郎ヲ呼ビ同人ニ託シ置キタル日本刀ヲ受取り之ヲ携ヘテ再ヒ右座敷ニ侵入シ來リ其ノ腰卷ヲ床ノ花器ニ投ケ棄テ被告人ニ對シ仕度セヨト告ケタリ被告人ハ當時居宅ニ當十六歲以下當五歲マテノ四人ノ子供アリ而カモ唯一ノ逃口タル表門ノ方ニハ熊市ノ乾分ノ在ルアリ到底之等ヲ逃避セシムルノ途ナキヲ識リ且素手ニテ兇器ヲ有スル熊市ニ抵抗スルコトノ不能ナルコトヲ觀念シ熊市ニ對シ斬リ度クハ勝手ニ斬レト答ヘタルニ熊市ハ日本刀ノ鞘ヲ拂ヒ被告人ノ後方ニ廻ハリ其ノ右腕ニ峰打ヲ爲シ全治三日ヲ要スル傷害ヲ加ヘタル後被告人ニ對シ良イ度胸ヲ俺ハヨウ斬ラヌ

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第一條第一項第三號ノ排斥行爲

同條第二

九三七

(三〇)

カラ什ウシテモ交際カ出来ネハ俺ヲ斬レト云ヒ右抜刀ヲ突出シタリ茲ニ於テ被告人ハ自己及子供等ノ生命身體ニ對スル危険ヲ排除スルハ正ニ此ノ機ニ在リト感スルト同時ニ熊市ノ鋭上行爲ニ對シ甚シク興奮シ居タルヲ以テ該抜刀ヲ取り其ノ場ニ於テ直チニ熊市ノ左背部及左肩胛骨部ニ斬付ケ尙前掲野口六郎ノ同座敷ニ侵入スルヲ見ルヤ其ノ共同攻撃ヲ排除スル爲更ニ熊市ノ左膝蓋骨部ニ斬付ケ同人ニ全治二十一日ヲ要スル傷害ヲ加ヘタルモノナリ

被告人照吉ノ傷害行爲ハ刑法第二百四條ニ該當スル處犯行後昭和五年五月法律第九號ニヨリ盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律公布施行セラレタルヲ以テ同法律ノ適用アリヤ否ニ付按スルニ判示ノ如ク被害者熊市カ被告人照吉ト鬪争ノ目的ヲ以テ兇器ヲ携ヘ照吉方座敷ニ侵入スルコトハ熊市ニ於テ照吉ノ同意ヲ豫期スルト否トニ拘ラス故ナク人ノ住居ニ侵入シタルモノニ該當シ又被告人照吉カ不法侵入者タル熊市ノ行爲ニ因リ發生スル自己及家族ノ生命身體ニ對スル危険ヲ排除スル爲熊市ニ對シ傷害ヲ加ヘタル行爲ハ同時ニ不法侵入者タル熊市ヲ排斥セントスル行爲ニ相當ス而シテ被告人照吉カ熊市ノ兇器ヲ取りタル時ニ於テハ被告人及其ノ家族ノ生命身體ニ對シ危険ナキモノト認メサルヘカラサルモ當時熊市ノ不逞行爲ニ因リ甚シク興奮シ居タル被告人カ熊市ノ兇器ヲ手ニセル瞬間ニ於テ自己及家族ノ生命身體ニ對スル危険ヲ排除スルハ正此ニノ機ニ在リト直感シ其ノ場ニ於テ直チニ熊市ニ對シ判示ノ如ク傷害ヲ加ヘタル行爲ハ自己及家族ノ生命身體ニ對スル現在ノ危険アルニ非サルモ興奮ニ因リ現場

【要旨第一】

【要旨第二】

ニ於テ不法侵入者ヲ傷害シタル行爲ニ該當スルモノトスサレハ被告人照吉ノ本件傷害ノ行爲ハ前掲盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第一條第二項第一項第三號ニ該當スルヲ以テ刑法第六條ノ精神ニ鑑ミ被告人ノ判示行爲ニ對シテハ犯行後ノ右法條ヲ適用シ無罪ヲ言渡スヘキモノトス仍テ刑事訴訟法第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事宮城長五郎關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和五年(九)第一七四一號 同年十二月二十三日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 高橋傳八 辯護人 相馬準一 小野寺章一 赤井幸夫 岡部秀温 外一名

【第一審】 秋田地方裁判所大館支部 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

共同正犯ト實行行爲 選舉事務關係吏員ト共謀セル無資格選舉運動者ノ投票買收行爲ト想像的競合罪

共同正犯ト實行行為——選舉事務關係吏員ト共謀セル無資格選舉運動者ノ投票買收行為ト想像的競合罪

○判決要旨

一 數人共謀シテ共同一體ト爲リ投票買收行為ヲ爲シタルトキハ直接實行ノ局ニ當リタル者ハ其中ノ一人ナリトスルモ共謀者全員ハ共同正犯ノ罪責ニ任スヘキモノトス【要旨第一】

二 法定ノ選舉運動者ニ非ス且ツ選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員ニモ非サル者力選舉事務ニ關係アル吏員ト共謀シテ其ノ吏員ノ關係區域ニ於ケル投票買收運動ヲ爲シタルトキハ衆議院議員選舉法第九十六條第百二十九條ノ罪ト刑法第六十五條第一項衆議院議員選舉法第九十九條第二項第百三十一條ノ罪ト同法第百十條ノ罪トノ想像的競合罪ヲ構成ス【要旨第二】

【參照】 刑法第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此ノ

限ニ在ラス

同法第百二十九條 第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

同法第九十九條第二項 選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

同第三百一十一條 第八十九條第一項 第九十九條又ハ第百九條ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

同第百十二條 左ノ各號ニ掲クル行為ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

刑法第五十四條第一項 一箇ノ行為ニシテ數箇ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行為ニシテ他ノ罪名ニ觸ルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

同法第六十五條第一項 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人高橋傳八ヲ罰金二百五十圓同成田重太郎ヲ罰金四百圓ニ處ス但シ各被告人ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ何レモ二圓五十錢ヲ一日

共同正犯ト實行行為 選舉事務關係吏員ト共謀セル無資格選舉運動者ノ投票買收行為ト想像的競合罪

ニ折算シタル期間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人傳八 重太郎ハ昭和五年二月二十日施行ノ衆議院議員總選舉ニ付秋田縣第一區選出議員候補者鈴木安孝ノ法定ノ選舉運動者ニ非ス且被告人傳八ハ其ノ當時同區ニ屬スル同縣秋田郡扇田町長ノ職ニ在リ右總選舉ノ事務ニ關係アル吏員ナル爲メ同町内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ得サル者ナリシ處被告人兩名ハ同月十二、三日頃等シク右候補者ノ法定ノ選舉運動者ニ非サル原審共同被告人麓節ト扇田町木村旅館ニ會シ且傳八自身ハ勿論重太郎及節モ右ノ如ク傳八カ扇田町内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ得サル者ナルヲ知リナカラ茲ニ傳八 重太郎 節ノ三名ハ右候補者ニ當選ヲ得シムル爲メ扇田町ノ選舉人ノ投票ヲ買收センコトヲ共謀シ之カ實行ハ節ニ於テ更ニ傳八ト圖リ果スコトト定メ即時重太郎ヨリ其ノ買收代金及買收運動ノ報酬トシテ他ニ供與スル爲メ現金二百圓ヲ節ニ交付シ斯クテ買收ノ實行方ヲ擔任シタル節ハ傳八ト圖リタル上同月十九日扇田町麓長方ニ於テ同町ノ選舉人タル原審共同被告人麓伊之助 高橋忠治 佐々木乙治 能登利藏 乳井哲藏及同被告人ニ非サル小池貞吉 麓祐造ニ對シ右候補者ニ投票セラレ度キ旨及同候補者ノ爲メ同町ノ投票ヲ買收セラレ度キ旨各別ニ依頼シ其ノ都度其ノ投票及運動スルコトノ報酬並ニ更ニ他ニ供與スヘキ投票買收代金トシテ右二百圓中ヨリ伊之助 忠治ニハ各三十圓乙治 利藏 貞吉ニハ各六圓哲造ニハ五十圓祐造ニハ四圓五十錢ヲ供與シ以テ被告人等ハ右伊之助外數名ニ對シ夫レ夫レ金錢ノ供與ヲ爲スト共ニ一面法定ノ選舉運動者ニ非スシテ右傳八

カ町長トシテ選舉事務ニ關係アル區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタルモノニシテ右ハ何レモ繼續ノ意思ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ判示被告人傳八 重太郎兩名ノ麓伊之助外數名ニ對シ夫レ夫レ金錢ヲ供與スルト共ニ一面法定ノ選舉運動者ニ非スシテ傳八カ町長トシテ選舉事務ニ關係アル區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタル各行爲中金錢供與ノ點ハ何レモ衆議院議員選舉法第一百十二條第一號刑法第六十條ニ無資格選舉運動ノ點ハ何レモ前示選舉法第九十六條ニ違反シ同法第二百二十九條刑法第六十條ニ傳八カ町長トシテ選舉事務ニ關係アル區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタル點ハ何レモ前示選舉法第九十九條第二項ニ違反シ同法第三百一十一條刑法第六十條(尙被告人重太郎ニ對シテハ刑法第六十五條第一項ヲモ適用)ニ各該當シ即チ被告人兩名ノ各行爲ハ何レモ一箇ノ行爲ニシテ三箇ノ罪名ニ觸ルルモノナレハ各刑法第五十四條第一項第十條ニ則リ其ノ最モ重キ金錢供與ノ罪ニ對スル刑ニ從ヒ處斷スヘキトコロ右被告人兩名ノ行爲ハ何レモ連續犯ニ係ルヲ以テ各刑法第五十五條ニ則リ一罪トシ其ノ所定ノ刑中罰金刑ヲ選擇シ被告人傳八ニハ罰金二百五十圓同重太郎ニハ罰金四百圓ヲ科シ之ヲ完納スルコト能ハサル場合ノ處理ニ關シテハ各刑法第十八條ニ則リ勞役場ノ留置ノ期間ヲ定ムヘキモノトス

○ 理 由

被告人重太郎辯護人相馬準一上告趣意書第三點若シ假ニ原判決ノ事實認定カ全部正當適法ナリトスル

共同正犯ト實行行爲 選舉事務關係吏員ト共謀セル無資格選舉運動者ノ投票買收行爲ト想像的競合罪

モ原判決ハ次ノ三點ニ於テ法律ノ適用ヲ誤レルノ失當アルモノト信ス(1)原判決ハ重太郎傳八節ノ三名ハ鈴木候補者ノ爲ニ投票買収ヲ共謀シ之カ實行ハ節ニ於テ更ニ傳八ト圖リ果スコトト定メ即時重太郎ヨリ其ノ買収代金及買収運動ノ報酬トシテ他ニ供與スルタメ現金ニテ二百圓ヲ節ニ交付(供與ニ非ス)シカクテ節ハ傳八ト圖リタル上麓伊之助外數名ニ對シ金錢ヲ供與シタリトノ事實ニツキ重太郎及傳八ハ共同正犯關係アリトシテ各自ニ衆議院議員選舉法第百十二條第一號及刑法第六十條ヲ適用シタリ然レトモ共同正犯タルニハ單ニ謀議ニ參與シ又ハ器具ヲ供與シタルノミニテハ足ラス少クトモ犯罪ヲ共ニ實行スルヲ要スルハ刑法第六十條明文上當然ノ事ナルニ係ラス前記原審判示ノ事實ニ依レハ被告重太郎ハ鈴木候補者ノタメニ投票ヲ買収セントノ謀議ニ參與シ之ニ要スル金員ヲ供與シタリト云フモ其ノ實行(茲ニ實行トハ選舉人ニ對シ金錢ヲ供與スルコト)ヲ共ニシタル事實ナキヲ以テ重太郎ノ行爲ハ衆議院議員選舉法第百十二條第一號ニ違反シタル共同正犯ト云フヲ得サルヘシ既ニ然リトセハ重太郎ノ行爲ハ傳八及節カ爲シタル衆議院議員選舉法第百十二條第一號違反ノ罪ヲ幫助シタルモノト爲スコク從而本件被告人成田重太郎ニ對シテハ刑法第六十二條第六十三條衆議院議員選舉法第百十二條第一項同第百三十七條第二項ヲ適用シテ同條第一項ノ適用ヲ排斥スヘキモノトス(2)原判決ハ本件被告人成田重太郎ノ行爲ハ無資格選舉運動ノ點ニ於テ衆議院議員選舉法第九十六條ニ反シ從而同法第百二十九條ノ適用アルモノト爲セトモ誤レリ蓋シ同法第九十六條ニ所謂選舉運動トハ議員候補者選舉事務長其ノ他ノ選舉運動有資格者カ之ヲ爲スニ於テハ差支無キ選舉運動即チ合法的選舉運動ノ謂也ト解スヘキカ故ニ何人カ之ヲ爲スモ違法タルヲ免レサル本件判示事實ニ對シテハ同法第九十六條ハ其ノ適用ノ餘地無ク從而同法第百二十九條ノ適用モ亦アリ得ヘカラス(3)原判決ハ本件被告人高橋傳八ノ行爲ハ傳八カ町長トシテ選舉事務ニ關係アル區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタル點ニツキ衆議院議員選舉法第九十九條第二項ニ違反シ從而之ト共犯關係ニアル被告人成田重太郎ニ對シ刑法第六十五條第一項ヲ適用スヘキモノト爲セトモ誤レリ蓋シ同法第九十九條第二項ニ所謂選舉運動トハ同法第九十六條ニ於ケルト同様合法的選舉運動ノ謂也ト解スヘキカ故ニ何人カ如何ナル區域内ニ於テ之ヲ爲スモ違法タルヲ免レサル本件原審判示事實ニ對シテハ同法九十九條ヲ適用スルノ餘地無ク從而被告人成田重太郎ニ對スル刑法第六十五條第一項ノ適用モ亦アリ得サルモノ也(4)故ニ原判決カ被告人重太郎ノ行爲ハ一箇ノ行爲ニシテ三箇ノ罪名ニ觸ルルト爲シ以テ刑法第五十四條第一項及同法第十條ヲ適用シタルハ違法也ト云ヒ」第四點原判決ハ刑ノ量定甚敷不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由存在スルモノト思考ス原判決判示ノ事實ニ依レハ被告カ供與シタル金員ハ僅カニ總額二百圓ニシテ而カモ之ヲ供與セル選舉人ハ麓伊之助外六名ニ過キス而カモ原判決ハ之ニツキ被告重太郎ニ對シ罰金四百圓ニ處シ衆議院議員選舉法第百三十七條第二項ヲ適用セサルハ其ノ刑ノ量定甚シク不當ナリト云ハサルヘカラス之ニ對シテハ同法第百三十七條第二項ヲ適用シ同法同條第一項ヲ適用セスト爲スヘキヲ相當ト思料スト云フニ

共同正犯ト實行行爲 選舉事務關係吏員ト共謀セル無資格選舉運動者ノ投票買収行爲ト想像的競合罪

共同正犯ト實行行爲 選舉事務關係吏員ト共謀セル無資格選舉運動者ノ投票買収行爲ト想像的競合罪

【要旨第一】 在レトモ○原判決ノ認ムル事實ニ依レハ被告人重太郎ハ原審相被告人傳八及第一審相被告人節ト共謀シ共同一體ト爲リテ所論犯罪ヲ實行シタルモノニ屬ス蓋シ數人共謀シテ罪ヲ犯ストキ直接ニ實行ノ局ニ當リ手ヲ下ス者ハ共謀者中ノ一人ナリトスルモ此ノ場合ニ他ノ者ハ其ノ一人ノ手ヲ藉リテ自己ノ意思ヲ實行シタルニ外ナラサルヲ以テ等シク共同實行正犯ノ罪責ニ任スヘキモノトス故ニ原判決カ所論ノ如ク被告人重太郎ヲ傳八及節ト共ニ共同正犯關係アリトシテ處斷シタルハ正當ナルノミナラス記録ニ徴シ犯情其ノ他諸般ノ情狀ヲ按スルモ原審カ被告人重太郎ニ對シ罰金四百圓ニ處シ衆議院議員選舉法第三百七條第二項ヲ適用ノ上同第一項ヲ適用セサル旨ノ宣告ヲ爲ササリシトスルモ之ヲ目シテ刑法及第九十九條第二項ニ所謂選舉運動トハ議員候補者ノ爲ニ當選ヲ斡旋スル一切ノ行爲ヲ謂フモノニシテ同條ハ其ノ選舉運動タル行爲ノ適法ナル場合タルト違法ナル場合タルトヲ問フコトナシ而シテ右衆議院議員選舉法第九十六條及第二百二十九條ノ罪ハ議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員等法定ノ資格ヲ有セサルコトヲ以テ其ノ構成要素トシ又同第九十九條第二項第三百一一條ノ罪ハ選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員カ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ其ノ構成要素トシ何レモ利益ノ供與等ニ依リ選舉界ヲ腐敗セシムルコトヲ構成要素ト爲ササルニ反シ同第一百十二條ノ罪ハ金錢其ノ他財産上ノ利益ノ供與又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲スカ如キ法定ノ方法ニ依ル特定ノ選舉運動ヲ爲ス

ヲ以テ其ノ構成要素ト爲シ行爲者カ選舉運動ヲ爲スノ法定資格ナキコト又ハ選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員タルコトヲ構成要素ト爲ナス從テ右第九十六條ニ於ケル法定資格ナク選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員カ其ノ關係區域内ニ於ケル金錢供與ニ依ル選舉運動ヲ爲シタルトキハ右第一百十二條第一號ト第九十六條第二百二十九條及第九十九條第二項第三百一一條ノ三罪カ所謂想像的競合罪ヲ構成シ刑法第五十四條第一項ニ則リ處斷スヘキモノナルヲ以テ右法定資格ヲ有セス且選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員ニモ非サル者カ選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員ノ關係區域内ニ於ケル金錢供與ニ依ル選舉運動ニ加功シタルトキハ刑法第六十五條第一項ニ依リ其ノ身分ナキ加功者ト雖仍共犯トセラルル關係上右ト同一ノ想像的競合罪ヲ構成スルハ勿論ナリトス原判決ノ認定シタル所ニ依レハ被告人傳八及重太郎ハ昭和五年二月二十日施行ノ衆議院議員總選舉ニ付秋田縣第一區選出議員候補者鈴木安孝ノ法定ノ選舉運動者ニ非ス且被告人傳八ハ其ノ當時同區ニ屬スル同縣北秋田郡扇田町長ノ職ニ在リ右總選舉ノ事務ニ關係アル吏員ナル爲同町内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ得サル者ナリシ所被告人兩名ハ同月十二、三日頃等シク右候補者ノ法定ノ選舉運動者ニ非サル第一審相被告人籠節ト扇田町木村旅館ニ會シ且傳八自身ハ勿論重太郎及節モ右ノ如ク傳八カ扇田町内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ得サル者ナルヲ知リナカラ茲ニ傳八 重太郎 節ノ三名ハ右候補者ニ當選ヲ得シムル爲扇田町ノ選舉人ノ投票ヲ買収センコトヲ共謀シ之カ實行ハ節ニ於テ更ニ傳八ト圖リ果スコトト定メ即時重太郎ヨリ其ノ買収代金

共同正犯ト實行行爲 選舉事務關係吏員ト共謀セル無資格選舉運動者ノ投票買収行爲ト想像的競合罪

及買收運動ノ報酬トシテ他ニ供與スル爲現金二百圓ヲ節ニ交付シ斯クテ買收ノ實行方ヲ擔任シタル節ハ傳八ト圖リタル上同月十九日扇田町麓長方ニ於テ同町ノ選舉人タル第一審相被告人麓伊之助 高橋忠治 佐々木乙治 能登利藏 乳井哲藏及同被告人ニ非サル小池貞吉 麓祐造ニ對シ右候補者ニ投票セラレ度キ旨及同候補者ノ爲同町ノ選舉人ノ投票ヲ買收セラレ度キ旨各別ニ依頼シ其ノ都度其ノ投票及運動スルコトノ報酬竝ニ更ニ他ニ供與スヘキ投票買收代金トシテ右二百圓中ヨリ伊之助 忠治ニハ各三十圓乙治 利藏 貞吉ニハ各六圓哲藏ニハ五十圓祐造ニハ四圓五十錢ヲ供與シ以テ被告人等ハ右伊之助外數名ニ對シ夫々金錢ノ供與ヲ爲スト共ニ一面法定ノ選舉運動者ニ非スシテ右傳八カ町長トシテ選舉事務ニ關係アル區域内ニ於ケル選舉運動ヲ何レモ犯意繼續シテ爲シタリト云フニ在ルヲ以テ原判決カ被告人重太郎ノ右行爲ニ對シ所論ノ如ク一箇ノ行爲ニシテ如上三箇ノ罪名ニ觸ルルモノト爲シ以テ刑法第五十四條第一項及第十條ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ論旨ハ其ノ理由ナシ

被告人傳八辯護人小野寺章 赤井幸夫 被告人重太郎辯護人關部秀温 相馬準一 赤井幸夫上告趣意書第二點原審ニ於テ上告人重太郎ハ昭和五年九月十四日辯護士佐々木幸助ヲ辯護人ニ選任シ其ノ屆ヲ爲シタルコト竝ニ同年九月二十二日ノ公判ニ於テ右辯護人不出廷ノ儘結審ヲ遂ケラレタルコトハ記録上明ナル處ナリ而モ右辯護人ニ對シ右公判期日ヲ適法ニ告知セラレタル事述ハ記録上全ク之ヲ知ルヲ得サルヲ以テ右昭和五年九月二十二日ノ公判手續ハ違法ナリ從テ此ノ公判手續ニ基キ且ツ該公判ニ於ケル上告人重太郎ノ供述ヲ證據ニ引用シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタル原判決ハ違法ニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ○記録ニ依レハ所論原審辯護人ハ昭和五年九月十六日被告人連署ノ上同月十四日付ニテ辯護人選任届書ヲ提出シタルモノニシテ所論公判期日ハ其ノ以前ニ於テ既ニ

指定セフレ被告人ニ對スル呼出狀ハ同年七月二十九日書留郵便ニ付シ送達シアレハ其ノ後ニ於テ選任セラレタル右辯護人ニ對シテハ特ニ期日ノ呼出狀ヲ送達スルノ必要ナキヲ以テ原審カ所論辯護人ニ對シ呼出狀ヲ送達セス其ノ出廷ナキニ拘ラス審理ヲ遂行シタレハトテ訴訟手續ニハ毫モ違法ノ點アルコトナク從テ亦原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事矢追秀作關與

○強姦被告事件(昭和五年(九)第一七五九號 破毀自判)

【上告人】 被告人 落合大三郎 辯護人 美、雲、唯、之、瀬、崎、由、太、郎

【第一審】 水戸地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

被害者ノ事實上ノ父ニ過キサル者ノ爲シタル告訴ノ效力

被害者ノ事實上ノ父ニ過キサル者ノ爲シタル告訴ノ效力

○判決要旨

告訴人カ被害者ノ事實上ノ父ナルモ法律上未タ父タル身分ヲ有セサルトキハ其ノ告訴ハ親權者ノ告訴タル效力ナシ

【參照】 刑事訴訟法第二百五十八條 犯罪ニ因リ害ヲ被リタル者ハ告訴ヲ爲スコトヲ

得

同法第二百六十條第一項 被害者ノ法定代理人又ハ夫ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ

得

民法第八百七十七條 子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服ス但獨立ノ生計ヲ立ツル成年者

ハ此限ニ在ラス

父カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ父ハ親權ヲ行フコト能ハサル

トキハ家ニ在ル母之ヲ行フ

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和四年五月十三日(舊曆四月五日)午後九時頃茨城縣眞壁郡小栗村大字小栗宮本明壽ノ娘(戶籍簿上ハ其ノ妹)宮本スマ(當年十八才)カ其ノ親戚宮本忠之助方ヨリ白米一升ヲ借受ケテ歸宅

セントシ明壽方附近ノ道路ニ差蒐リタル際之ヲ強姦セントシテ追跡シ來リスマカ逃レントテ駈出シ地上ニ墮キ例ルルヤ被告人ハ其ノ面部ニ衣類ヲ蔽ヒ暴力ヲ以テ之ヲ仰向ニ反轉セシメ其ノ抵抗ヲ排シテスマヲ姦淫シ尙其ノ犯意ヲ繼續シ同月十六、七日頃ノ午後八時頃スマカ明壽方屋敷内ノ井戸端ニ於テ食器ヲ洗淨シ居ルヲ見ルヤ重ネテ之ヲ其ノ場ニ襲ヒ其ノ面部ヲ衣類ニテ覆ヒタル上前同様スマヲ姦淫シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第七十七條前段第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ノ刑ニ處スルヲ相當トス

被害者宮本スマ代理人宮本明壽(被害者ノ事實上ノ父ニシテ戶籍上ノ兄)ヨリ昭和四年十二月十九日附ヲ以テ告訴ヲ提起シ尙其ノ後戶籍上被害者スマノ父ニシテ戶主トシテ表示セラレアル宮本啓次郎ヨリ獨立シテ告訴ヲ提起シタルモノナリ

○理由

辯護人美雲唯之上告趣意書第一點原判決ハ本件親告罪ニ於ケル公訴提起並維持要件タル適法ノ告訴ナキニ不拘審判ヲ爲シタル違法アリ即チ本件記錄ヲ精査スルニ被告人ニ對スル告訴ハ一、昭和四年十二月十九日附ヲ以テ被害者宮本スマヨリ二、昭和五年四月十六日附ヲ以テ被害者スマノ法定代理人ト稱シ宮本啓次郎ヨリ夫レ夫レ告訴提起アルノミナリ然リ而シテ宮本スマノ告訴ハ同人カ未成年者タルコ

被害者ノ事實上ノ父ニ過キサル者ノ爲シタル告訴ノ效力

ト竝犯人ヲ知リタル日ヨリ實ニ七ヶ月ヲ徒過セル事實アルヲ以テ無効ナリ次ニ宮本啓次郎ノ告訴ニ付之レカ適否ヲ按スルニ本件被害者ノ法定代理人ハ民法第八百七十七條ニヨリ其ノ家ニ在ル父ナルコト寸毫ノ疑ナシ蓋シ民法上一般無能力者ヲ設ケ之ニ對スル法定代理ノ制度ヲ設ケタルハ妻ノ場合ヲ除外凡テ無能力者本人ノ利益保護ノ目的ニ出ツ而シテ夫婦親子又ハ戸主家族ノ身分關係ニ於テ其ノ間自然ニ存スル相愛愛撫ノ情扶養看護ノ誼ニ其ノ重キヲ措キ最モ本人ノ利益保護ヲ計ルヘキ地位ニ在ル者ヨリ順次法定代理人ノ順位ヲ定メタル立法ノ趣旨ヲ稽フル時ハ親子ノ至情ハ祖父母ト孫間ノ至情ニ優ルト解スルヲ至當トス而シテ本件宮本啓次郎カ形式上被害者ノ父タル外觀ヲ呈スルモ這ハ之レ婚姻養子制度ノ如ク親族法上ノ契約ニ由來スルト異リ實親子ノ關係ハ自然ノ血縁ニ因ルモノナルカ故ニ其ノ血縁アル者ノ間ニ親子ノ關係ヲ認メ單ナル戸籍上ノ記載ノ如キハ一應ノ推定タルニ止リ未タ以テ親子ナリト斷定スルヲ許サスト解スルハ其ノ正當ナルヲ疑ハス若シ夫レ之ニ反スル解釋ヲ正當視セムカ本論旨ノ反面タル事案即チ未成年ノ婦女ニシテ其ノ父母トノ間ニ於ケル實親子ノ關係ハ該婦女ノ出生時ニ立會セル醫師及産婆ニヨリ極メテ明白ニ立證サレ現ニ父子共同生活ヲ爲シ其ノ容貌又相酷似シ何人モ親子タルヲ疑ハサルニ不拘單ニ戸籍上親子ノ記載ナキノ(該婦女ノ出生届ナキ場合)一事ヲ以テ此ノ未成年ノ婦女カ親告罪ノ被害者タル地位ニ置カレタル場合現行刑事訴訟法上戸籍上記載ナキ實父母ハ當然ノ利害關係者ニアラサルコトトナリ同法第二百六十三條ニヨリ告訴權者指定ノ申立權モ無之結局

法上告訴權ノ行使ニヨル法ノ保護ヲ受ケ得サルコトトナラム天下豈如斯不合理何處ニカアラムノミナラス本件宮本啓次郎ノスマニ關スル出生届ハ刑法第一百五十七條ニ該當スル犯罪行為ナリ然ルニ該犯罪行為ニ因ル届出ノ記載ニ絶對的效力ヲ生セシメ同人カ有效ナル親權者ナリト法律上認定サルニ於テハ普通善良ナル國民ハ果シテ何レノ國法ニ適從スヘキカニ惑ハサルヲ得ス即チ知ル親子ノ關係ハ戸籍上ノ記載ニノミ據ルニアラスシテ事實審カ判決時ニ於テ某々ノ間ニ血縁關係アル事實ヲ認ムル以上之レニ依リ某々ハ實親子ノ關係アリト法律上認定サルヘキモノナルコトヲ翻テ原判決理由ヲ査閱スレハ「宮本明壽ノ娘(戸籍上ハ其ノ妹)宮本スマ(當年十八歲)カ」トアリ本件被害者ノ法定代理人ハ實ニ其ノ父宮本明壽ナルコトヲ知ルニ充分ナリ果シテ然ラハ本件告訴ノ適法要件ハ家ヲ同クセル實父宮本明壽ナラサルヘカラサルモノトス由是觀之宮本啓次郎ノ本件告訴ハ之亦刑事訴訟法第二百六十條ノ規定タル被害者ノ法定代理人ニ該當セサルヲ以テ無効ナリ其ノ他記録中宮本明壽ノ獨立セル告訴ナキ本件ニ在リテハ正ニ公訴提起竝維持要件ヲ欠缺セル違法アルヲ以テ公訴ヲ棄却スヘキモノト信スト云フニ在リ〇仍テ按スルニ本件公訴事實ハ刑法第七十七條ノ強姦罪ニ該當スルヲ以テ同法第八十條ニ從ヒ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論スヘキモノトス依テ本件ニ付適法ナル告訴アリヤ否ニ就キ調査スルニ訴訟記録ニ依レハ昭和四年十二月二十一日下館警察署ニ於テ被害者宮本スマ代理人トシテ宮本明壽ヨリ同年十二月十九日付下館警察署長警部馬場清重宛ノ告訴狀ヲ受附ケタル事實アルコトヲ認メ得ルモスマハ

被害者ノ事實上ノ父ニ過キサル者ノ爲シタル告訴ノ效力

被害當時即チ昭和四年五月十三日及同月十六、七日ノ二回共ニ犯人カ被告人大三郎ナルコトヲ知リタルコトヲモ認メ得ヘキヲ以テ該告訴ハスマノ委任ニ因ル代理人トシテ爲シタルモノトスレハ刑事訴訟法第二百六十五條所定ノ期間經過後ノ提起ニ係リ不適法ナリトス訴訟記録及刑事訴訟法第四百三十五條ニ依リ當院ノ取調タル證人宮本明壽ノ供述ニ依レハ戶籍上スマハ戶主啓次郎ノ二女トシテ記載セラレアリテ啓次郎ノ長男ニシテ家族タル明壽ノ妹ニ當ルコトト爲ルモ明壽カ原判決認定ノ如ク實ハスマノ父ナルコト及被害者スマハ明壽ト他家ニ在ル女トノ私通ニ因ル子ナルコトヲ認メ得ルニ拘ハラズ明壽ニ於テ私生子認知ノ手續ヲ爲シタル事實ノ見ルヘキモノナク同人ヲ目シテスマノ法律上ノ父ナリト謂フヲ得サレハ該告訴ハスマノ親權者ノ告訴タル效力ナキコトモ亦炳然タリ次ニ宮本啓次郎ヨリスマノ父ト稱シテ告訴ヲ爲シタル事實アルモ啓次郎ヨリノ出生届ニ因リ戶籍上スマカ啓次郎ノ二女トシテ記載セラレアルハ啓次郎カ同人ト其ノ妻トノ間ニ生レタル嫡出子ナリトシテ爲シタル虚偽ノ届出ノ結果ト認ムルノ外ナケレハ啓次郎カ之ニ依テスマノ法律上ノ父タル身分ヲ取得スルノ謂ナキコト勿論ナリ又啓次郎ハ告訴ヲ爲シタル當時戶主ナリシコトハ戶籍謄本ニ依リ明ナリト雖スマカ其ノ家ニ入ルヘキ原因アリタルコトノ認ムヘキモノナキカ故ニ啓次郎ハ戶主トシテスマノ法定後見人ナリト爲スヘキニ非ス隨テ其ノ告訴ハスマノ法定代理人ノ告訴タルノ效ナキモノトス

以上説明スル如ク本件ニ付テハ適法ノ告訴ナキヲ以テ本件公訴提起ノ手續ハ違法ニシテ其ノ效ナキモ

【要旨】

ノトス隨テ刑事訴訟法第三百六十四條第六號ニ從ヒ本件公訴ヲ棄却スヘキモノナルニ原判決カ之ヲ受理シ被告人ヲ強姦罪ニ問擬處斷シタルハ失當ニシテ論旨ハ理由アリ依テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條及前示同法第三百六十四條第六號ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ直ニ公訴棄却ノ判決ヲ爲スヘキモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

檢事溝淵孝雄關與

○放火未遂竊盜住居侵入被告事件 (昭和五年(九)第一七九一號 同年十二月二十三日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 龍田 正生 辯護人 小倉 金吾
 【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○ 判 示 事 項

連續セ 住居侵入ヲ手段トスル竊盜及放火未遂ト罪數

連續セル住居侵入ヲ手段トスル竊盜及放火未遂ト罪數

○判決要旨

住居侵入ヲ手段トスル竊盜ト同手段ニ因ル放火未遂ト力競合シタル場合ニ於テ各其ノ手段タル住居侵入相互間ニ連續ノ關係存スルトキハ刑法第五十四條第一項後段第五十五條ニ依リ一罪トシテ處斷スヘキモノトス

【參照】 刑法第五十四條第一項 一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段

若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

同法第五十五條 連續シタル數箇ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシ

テ之ヲ處斷ス

同法第三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ

又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰

金ニ處ス

同法第八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦

船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

同法第一百十二條 第八條及ヒ第九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

同法第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役

ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ二年六月以上五年以下ノ懲役ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ十八歳ニ滿タサル少年ニシテ豫テ寫眞ノ撮影ニ熱中シ居リタルモノナルトコロ

第一 其ノ友人ナル東京府住原郡目黒町大字上目黒二千五百番地神山美佐雄ノ所有スル「エルネマン」手札型エフ五、四寫眞機カ交遊者所有ノ寫眞機中最優良ノモノナリシヨリ羨望ノ餘リ昭和五年一月三十日同人ノ不在ニ乘シ該寫眞機ヲ竊取セント決意シ同日午後一時三十分頃前記神山ノ居室ニ至リ同人ノ留守中表口ヨリ侵入シ同家六疊ノ間ニ在リタル前記寫眞機竝同人所有ニ係ル金側腕時計一箇及新辭海六法全書各一冊ヲ竊取シ

第二

(一) 右犯跡ヲ隱蔽スル目的ヲ以テ前記神山ノ住家ヲ燒燬セント企テ同日午後六時半頃右神山ノ留守宅ニ侵入シ前記六疊ノ間ノ縁側ニ面スル障子二枚ヲ外シ其ノ一枚ヲ縦ニ一枚ヲ横ニ同六疊ノ間ト隣室トノ境ノ襖ニ立掛ケ障子ノ背面ニ所携ノ燐寸ヲ以テ點火逃走シタルモ右障子ノ一部ヲ燒キタルノミニテ自然鎮火シタルニヨリ其ノ目的ヲ遂ケス

(二) 依テ更ニ右住宅燒燬ノ目的ヲ敢行センコトヲ企テ同日午後八時三十分頃約四合ノ揮發油ヲ入レタル含嗽藥瓶ヲ携ヘテ前記神山方裏口ヨリ同家内ニ侵入シ曩ニ裝置セル障子ニ接シテ洋服上衣及チ

連續セル住居侵入ヲ手段トスル竊盜及放火未遂ト罪數

ヨツキ等ヲ掛ケタル椅子ヲ置キ同家ニ在リタルマグネシウム粉及右揮發油ヲ右障子椅子竝其ノ周圍ノ疊ニ撒布シ尙在合セタル半紙一束ヲ椅子ノ周圍ニ散亂セシメ其ノ内一二枚ノ半紙ニ所携ノ燐寸ヲ以テ點火シ之ヲ前記椅子疊等ニ燃エ移ラシメ放火シタルモ間モナク神山美佐雄カ歸宅發見シ之ヲ消止メタルカ爲右疊ノ一部障子洋服及椅子ノクツシヨシ等ヲ燒失シタルノミニテ前記住宅燒燬ノ目的ヲ達セサリシモノナリ

而シテ以上ノ住居侵入放火未遂ノ各所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルモノトス
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中住居侵入ノ點ハ刑法第三百三十條第五十五條ニ竊盜ノ點ハ同法第二百三十五條ニ放火未遂ノ點ハ同法第八條第一百十二條第五十五條ニ各該當スルトコロ右住居侵入ト竊盜竝放火未遂トハ夫々手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ結局其ノ中最モ重キ放火未遂罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ其ノ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ同法第四十三條本文第六十八條第三號ニ依リ未遂減輕ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ少年法第一條第八條第一項ニ從ヒ被告人ヲ二年六月以上五年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

○理 由

辯護人小倉金吾上告趣意書第二點被告龍田正生ハ十八歳ニ滿タサル者ナルコトハ原判決ノ明示スルトコロナリ刑法第四十一條ニハ「十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス」トシ十四歳以上滿二十歳未滿ノ者ニ付テハ別ニ規定ヲ設ケス此ノ別ニ規定ヲ設ケサル所

以ノモノハ十四歳以上二十歳未滿ノ者ハ成年者ト當然ニ於テ同等ト看做シテ之ヲ罰スルノ法意ナリト解スルナラハ其ノ不當ナルコト亦明ナリ之立法者ノ忘レタルコトニ非スシテ斯ル場合ニ於テハ宜シク裁判所ニ於テ其ノ能力ヲ判定シテ之ヲ成年者ト同等ノ能力ヲ有スルヤ成年者ヨリ低キ能力(是非善惡ノ辨別心)ヲ有スルヤ先ツ第一ニ判定スヘキコトハ規定ニ於テ明示ナシト雖法文自體ノ中ニ含ムモノナリ若然リトスルナラハ此ノ點ニ於テ判決ニ判示成年者ト同等ノ能力ヲ有スル場合ニ非サル場合等ニ於テハ減輕ヲスヘク孰レニシテモ判示スヘキコトト相當トス此ノ點ニ於テ判示ナキハ違法ナリト論セサルヲ得スト云フニ在レトモ○十四歳以上二十歳未滿ノ犯人カ成年者ト同様ナル是非辨別ノ能力ヲ有スルヤ否ハ其ノ犯人ニ對スル刑ノ量定ニ付斟酌スヘキ事由タルコトヲ失ハサルヘシト雖必スシモ特ニ之カ能力ノ有無ヲ判文ニ表示スルコトヲ要スルモノニ非ス又其ノ表示ナキ故ヲ以テ之ヲ顧慮セサリシモノト論スヘキニ非ス然ラハ其ノ表示ナキコトヲ理由トシテ原判決ヲ違法ナリト爲ス論旨ノ理由ナキヤ知ルヘキノミ

同第三點原判決ニ於テハ住居侵入ト竊盜竝放火未遂トハ夫々手段結果ノ關係ニアルヲ以テ云々ト判示シ乍ラ竊盜ト放火未遂トノ關係ニ於テハ判示セス而シテ……結局其ノ中ノ最モ重キ放火未遂罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ……ト判示シ何條ヲ適用シテ竊盜罪ト放火未遂罪トノ關係ヲ判定シタルヤニ付明示ナシ之判決不備ナリト言ハサルヘカラスト云フニ在レトモ○原判決ノ判示事實ニ其ノ適用法條ヲ對照考覈スレハ原判決ハ被告人ニ對シ第一事實トシテ住居侵入ヲ手段トシテノ竊盜ヲ認ムルト同時ニ第二事實トシテ其ノ犯跡ヲ隱蔽スル目的ヲ以テ同一ノ住居侵入ヲ手段トシテノ放火未遂ヲ認メ且夫等住居侵入ヲ連續シタル數箇ノ行爲ト認メタルコト明瞭ナリ然ラハ竊盜及放火未遂ノ罪ハ相互ニ手段結果ノ關係ヲ有セサルモ既ニ其ノ竊盜ト手段タル住居侵入及其ノ放火未遂ト手段タル住居侵入トハ夫レ々々一罪タルヘキ牽聯關係ヲ有シ又各其ノ一部タル住居侵入ハ更ニ連續一罪トシテ結合スル以上竊盜及放

連續セル住居侵入ヲ手段トスル竊盜及放火未遂ト罪數

火未遂ノ罪ハ自ラ之ニ吸引包括セラレ結局一罪ヲ爲スニ過キスト云ハサルヲ得サルモノトス原判決ノ
擬律モ竊盜及放火未遂ノ關係ニ於テハ之ト同趣旨ニ出テタルモノニ外ナラスシテ論旨ハ理由無シ(其
ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事矢追秀作關與

○昭和五年十一月大審院刑事部裁

判長及部員氏名表

第一刑事部

裁判長 院長 判事 部員
牧野菊之助

判事 横村米太郎
判事 吉田久
判事 草野豹一郎
判事 沼義雄
判事 杉浦忠雄

本部ノ開廷
火曜日
金曜日
本部ノ所管

上告其ノ他事件毎ニ順次平分ス
但シ未済事件ハ前年度受理ノ部ニ於テ
引續キ結了ス
刑事部判事氏名表

第二刑事部

裁判長

部長 判事 部員
林 頼三郎

判事 江崎定次郎
判事 鈴木秀人
判事 尾佐竹 猛
判事 織田嘉七

本部ノ開廷
月曜日
木曜日
本部ノ所管

上告其ノ他事件毎ニ順次平分ス
但シ未済事件ハ前年度受理ノ部ニ於テ
引續キ結了ス

第三刑事部

裁判長

部長 判事 中西用徳

部員

判事 中尾芳助

判事 高瀬幸七郎

判事 渡邊久

判事 岸達也

本部ノ開廷

火曜日

金曜日

本部ノ所管

上告其ノ他事件毎ニ順次平分ス

但シ未済事件ハ前年度受理ノ部ニ於テ

引續キ結了ス

第四刑事部

裁判長

部長 判事 島田鐵吉

部員

判事 宮本力之助

判事 齋藤三郎

判事 遠藤誠

判事 駒田重義

代理判事 橋本匡也

本部ノ開廷

火曜日

金曜日

本部ノ所管

上告其ノ他事件毎ニ順次平分ス

但シ未済事件ハ前年度受理ノ部ニ於テ

引續キ結了ス